

長野県商圈調査報告書

令和6年度

(訂正版)

長野県産業労働部

はじめに

新たな産業集積の形成や大型店の出店、インターネットショッピングの普及等により、消費者の買物行動は多様化を続けています。

こうした状況のなか、事業者の販売・出店戦略や市町村の商業振興施策等の検討の際には、消費者の買物動向の現状を的確に把握することが必要不可欠です。

「長野県商圈調査」は昭和45年度から調査を開始し、市町村の商業機能が及ぼす影響の範囲や消費者の買物行動を、広域的、時系列的に取りまとめています。関係機関の皆様に、参考資料として広くお役立ていただければ幸いです。

終わりに、アンケートにご回答いただきました皆様方並びに本調査の実施にあたりご協力いただきました中学校、市町村、市町村教育委員会、県教育委員会の関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

長野県産業労働部長

田中 達也

目 次

I	調査実施概要	5
II	調査資料の利用にあたって	9
III	調査結果の要約	15
IV	調査結果	29
1	長野県の商圈動向	31
(1)	商 圏	31
(2)	地元滞留率	38
(3)	吸引人口	41
(4)	吸引力係数	41
2	地域別商圈動向	45
(1)	北信地区	45
(2)	東信地区	58
(3)	中信地区	73
(4)	南信地区	97
3	県内消費者の県外への流出	119
4	無店舗販売の利用	121
5	業態別利用店舗	129
6	インターネットを利用した買物状況	137
7	県産品の購入状況について	140
V	資料	141
資料1	市町村別の吸引人口と吸引力係数	
資料2	市町村の商圈人口・地元滞留率・吸引力係数（降順）	
資料3	市町村別地元滞留率の推移	
資料4	市町村別県外への流出・無店舗販売の利用状況	
資料5	市町村別商圈動向	
資料6	市町村別買物状況	
資料7	インターネットを利用した買物状況	
資料8	業態別利用店舗の現況	
資料9	お買物調査票	

I 調査実施概要

I 調査実施概要

1 調査の目的

消費者の買物行動は、新たな商業集積の形成、大型店の出店並びに消費者ニーズの多様化、生活価値観の変化等の影響を受け、これまでの商圈構造を大きく変えている。

こうした現状をふまえ、県下一斉に消費者の買物行動を調査し、広域的商圈の動向を把握することにより、中小小売業の振興施策の基礎資料とする。

2 調査機関

(1) 調査実施機関

協同組合長野シーアイ開発センター

(2) 調査協力機関

県内公立中学校 市町村教育委員会 長野県教育委員会

3 調査対象

県内公立中学校 184 校の 2 年生の家庭（1 校につき 1～3 学級）

4 調査サンプル数

7,735 世帯

5 調査票回収状況

(1) 世帯抽出率

$$\begin{aligned} & \{ \text{「サンプル数」} \div \text{「令和 6 年 4 月 1 日現在の長野県内全世帯数」} \\ & \quad (\text{長野県毎月人口異動調査結果 (県情報政策課) による}) \} \times 100 \\ & = (7,735 \div 850,398) \times 100 \approx 0.91\% \end{aligned}$$

(2) 調査票回収枚数

5,155

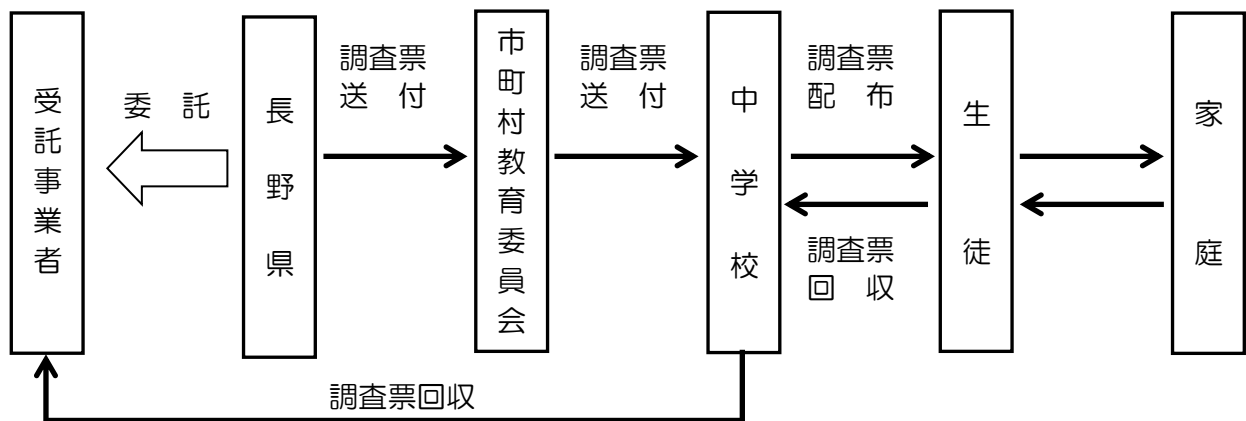
(3) 回収率

66.6%

(4) その他

市町村については前回調査等との比較のため、合併前の旧市町村単位（平成 15 年 8 月 31 日現在）119 調査で調査を行っている。

6 調査票配布及び回収経路



7 調査内容

「お買物調査票」のとおり（P439～440 参照）

8 調査期間

令和6年9月9日（月）から令和6年9月20日（金）まで

9 調査票について

本調査を実施するにあたって、県下を8地区に分け、それぞれ8種類の調査票を使用した。（図1）

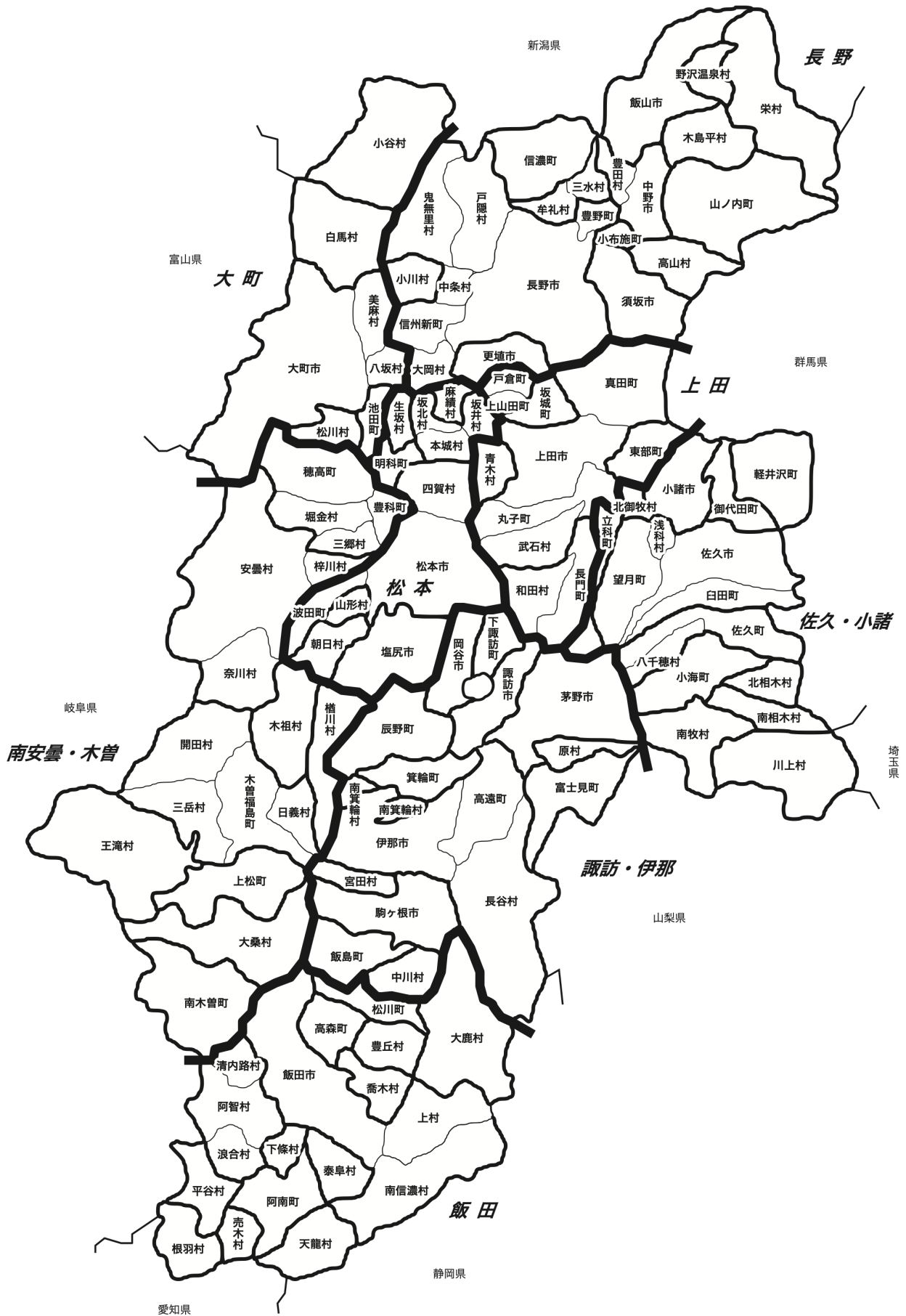
各調査票中の「買物する場所（市町村等）」の選択肢に記載した当該地区以外の市町村は次表のとおり。（表1）

なお、市町村については前回調査等との比較のため、合併前の旧市町村単位119市町村（平成15年8月31日現在）で調査を行った。以下、現在の市町村名を（ ）内に記載し、合併後も市町村名が変わらなかったものは（ ）内に「合併前」と記す。

表1 「買物する場所」の選択肢に記載した当該地区以外の市町村等

調査地区名	当該地区以外の市町村名等
佐久・小諸	上田市（合併前）、旧東部町（東御市）、長野市（合併前）、茅野市、諏訪市、松本市（合併前）
上田	長野市（合併前）、松本市（合併前）、佐久市（合併前）、小諸市、旧更埴市（千曲市）
諏訪・伊那	松本市（合併前）、塩尻市（合併前）、飯田市（合併前）、松川町、高森町
飯田	伊那市（合併前）、駒ヶ根市
松本	長野市（合併前）、岡谷市、諏訪市、辰野町、大町市（合併前）、池田町、旧穂高町（安曇野市）、旧豊科町（安曇野市）、旧梓川村（松本市）、旧三郷村（安曇野市）、上田市（合併前）、旧更埴市（千曲市）
南安曇・木曾	松本市（合併前）、塩尻市（合併前）、大町市（合併前）、池田町、山形村、飯田市（合併前）、伊那市（合併前）
大町	旧穂高町（安曇野市）、旧明科町（安曇野市）、旧豊科町（安曇野市）、松本市（合併前）、塩尻市（合併前）、長野市（合併前）、旧信州新町（長野市）、旧梓川村（松本市）、旧三郷村（安曇野市）、旧堀金村（安曇野市）、上田市（合併前）、旧更埴市（千曲市）
長野	松本市（合併前）、上田市（合併前）
各地区共通	無店舗販売、その他県内、県外

図1 調査地区区分



Ⅱ 調査資料の利用にあたって

Ⅱ 調査資料の利用にあたって

1 用語の定義

(1) 地元滞留率

居住する地元市町村（平成15年8月31日現在の旧市町村単位）内で主に買物をする世帯の割合（%）

(2) 流出率

地元市町村以外で主に買物をする世帯の割合（%）

(3) 吸引率

流出率を流出先の市町村側からとらえた割合（%）

（例）A市 地元滞留率	70%
B市への流出率	20%
C市への流出率	10%
合計	100%
B市はA市からの吸引率	20%

(4) 居住人口

令和6年10月1日現在の「長野県人口推計」（情報政策課）による。

（合併により旧市町村単位の人口が不明のものについては、令和2年10月1日実施の国勢調査における旧市町村の人口を使用し、案分により算出した。）

（例）

合併した市町村の場合

R6.10.1現在の人口①		旧市町村名	R2国勢調査人口	割合②	案分人口①×②
佐久穂町	9,683	佐久穂町	6,745	66.0%	6,392
		八千穂村	3,473	34.0%	3,291

本報告書で使用している人口

(5) 地元滞留人口

居住人口×地元滞留率

(6) 流入人口

吸引している市町村の居住人口とその吸引率から次式により求めた人口

（例）A市 流入人口

$$\begin{aligned}
 &= \{(B市の居住人口) \times (B市からの吸引率)\} + \{(C市の居住人口) \times \\
 &\quad (C市からの吸引率)\} + \{(D町の居住人口) \times (D町からの吸引率)\} \\
 &\quad + \dots + \{(Z村の居住人口) \times (Z村からの吸引率)\}
 \end{aligned}$$

（ただし、B市、C市、D町・・・Z村は、吸引率2%以上の市町村）

(7) 吸引人口

地元滞留人口＋流入人口

(8) 吸引力係数

$(\text{吸引人口} \div \text{居住人口}) \times 100$

居住人口に対する吸引人口の百分比であり、数値が大きいほど地元滞留率並びに他市町村からの流入人口の割合が高いことを示す。

(9) 商圈

商業施設・集積等が顧客を吸引する地理的な範囲を示す。

本調査では、各地域から当該商業施設・集積への流出率に注目して次の3区分に分類している。

ア 一次商圈

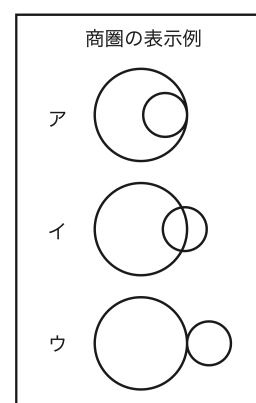
地域の消費需要の**30%以上**を吸引している地域

イ 二次商圈

地域の消費需要の**10%以上 30%未満**を吸引している地域

ウ 三次商圈

地域の消費需要の**5%以上 10%未満**を吸引している地域



(10) 商圈人口

商圈内の居住人口。

ただし、地元滞留率が5%未満の市町村は当該市町村の居住人口とする。

(11) 影響圏

地域の消費需要の**2%以上 5%未満**を吸引している地域

商圈に次ぐ顧客を吸引する地理的な範囲

2 比率の算出方法

本調査は、各世帯に商品6群19品目の主な買物場所（市町村単位等）及び主な購入店舗（6業態店）について、それぞれ1つずつ回答を得たものを、居住地（市町村単位）別に集計し、品目ごとに有効回答数を分母として比率（%）を算出した。

算出例：長野市（合併前）の地元滞留率

$$\begin{aligned} &= (\text{「長野市（合併前）居住者のうち市内で買い物をした有効回答数」} \\ &\quad \div \text{「長野市（合併前）居住の有効回答数」}) \times 100 \\ &= (16,998 \div 18,630) \times 100 \\ &\doteq 91.2\% \end{aligned}$$

3 本調査資料の解説

(1) 資料1 市町村別の吸引人口と吸引力係数

居住人口、地元滞留率、吸引率から求めた全品目平均の吸引人口と吸引力係数を市町村別に掲載している。

(2) 資料2 市町村の商圈人口・地元滞留率・吸引力係数（降順）

(3) 資料3 市町村別地元滞留率の推移

全品目平均と衣料品、身の回り品、文化品、飲食料品、日用品及び贈答品の6商品群の市町村別地元滞留率について、平成元年調査以降27年間の推移を示している。

(4) 資料4 市町村別県外への流出、無店舗販売の利用状況

市町村別県外への流出率と主な商品群について、市町村別無店舗販売の利用率を掲載している。

(5) 資料5 市町村別商圈動向

今回調査の全品目平均と6商品群について、市町村別地元滞留率と他市町村からの吸引率を掲載している。

(6) 資料6 市町村別買物状況

市町村別、品目（19品目）別に、買物場所（市町村等）と購入店舗（6業態店）の比率を掲載している。

(7) 資料7 インターネットを利用した買物状況

(8) 資料8 お買物調査票（アンケート用紙）

今回使用した調査票（8地区別）のうち、佐久・小諸地区について掲載している。なお、他7地区の調査票の内容は、地区に応じて設定してある買物場所（市町村等）の選択肢以外、全て同じものである。

(注)

- ・本調査資料中に掲載してある図及び表の市町村名に関しては、前回調査等との比較のため、平成15年8月31日現在の旧市町村単位での表記となっている。
- ・一部の調査資料には、参考として山口村（現在の岐阜県中津川市）の過去データを記載している。
- ・本調査資料中に掲載してある地図の太線は現在の市町村（合併後）界を、細線は旧市町村（合併前）界を示す。
- ・今回の調査では、天龍村、平谷村、旧大岡村（長野市）での回答が得られず、集計の対象外となる。

4 当県における過去の商圈調査及び買物行動調査

調査年度	調査内容（テーマ）	商圈調査の際に併せて行った調査
昭和45年度	一般家庭を対象とした商圈調査	—
46	若い独身者を対象とした商圈調査	—
47	一般家庭を対象とした商圈調査	—
48	若い独身者を対象とした商圈調査	—
49	衣料品についての買物行動調査	—
50	一般家庭を対象とした商圈調査	—
51	食料品についての買物行動調査	—
52	一般家庭を対象とした商圈調査	—
53	勤労女性を対象とした衣料品商圈調査	—
54	一般家庭を対象とした商圈調査	地元の商店街・商店に対する意見要望
55	勤労者を対象とした食生活の調査	—
56	一般家庭を対象とした商圈調査	地元の商店街・商店に対する意見要望
57	勤労女性を対象とした買物行動調査	—
58	一般家庭を対象とした商圈調査	地元の商店街・商店に対する意見要望
59	若い勤労者を対象とした買物行動調査	—
60	一般家庭を対象とした商圈調査	地元の商店街・商店に対する意見要望
61	独身勤労者を対象とした買物行動調査	—
62	一般家庭を対象とした商圈調査	通信販売の利用状況、購入した商品
63	無店舗販売利用の実態調査	—
平成元年	一般家庭を対象とした商圈調査	クレジットカード保有状況、利用状況
2	車社会における勤労者の買物行動調査	—
3	一般家庭を対象とした商圈調査	高速道路を利用した買物状況
4	若い勤労者を対象とした買物行動調査	—
5	一般家庭を対象とした商圈調査	スタンプの収集状況、満足度等
6	業態別店舗利用動向調査	—
7	一般家庭を対象とした商圈調査	品目別利用業態別店内滞留時間
8	シルバー世代の買物行動調査	—
9	一般家庭を対象とした商圈調査	高速道路を利用した買物状況
10	働く女性の買物行動調査	—
12	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
13	一般消費者を対象とした買物行動調査	商店街活性化に対する意見・要望
15	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
18	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
21	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
24	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
27	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
30	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況
令和3年	一般家庭を対象とした商圈調査	インターネットを利用した買物状況

Ⅲ 調査結果の要約

Ⅲ 調査結果の要約

1 商圏人口 ～上位7市で全県の過半を占める

商圏人口は、市町村の商業機能の影響が及ぶ範囲を表す指標である。平成の合併前の市町村別に商圏人口をみると、県下最大規模の松本市（合併前）（617千人）を筆頭に、長野市（合併前）（607千人）、上田市（合併前）（234千人）、佐久市（合併前）（233千人）の順となっている。町村部においては、旧穂高町（安曇野市）（147千人）と旧豊科町（安曇野市）（133千人）が10万人を超え、箕輪町（58千人）、高森町（36千人）、旧梓川村（松本市）（31千人）と続いている（表1）。

上位7市で、全商圏人口（4,021千人）の55.3%を占めている。

表1 市町村別商圏人口（上位25位）《全品目平均》と商圏構成市町村数

（人、％）

順位	市町村名	商 圏 人 口					増減率	商圏構成市町村数	
		合計	一次商圏	二次商圏	三次商圏	市町村数		増減	
1	松本市（合併前）	617,436	332,876	135,088	149,472	2.9	38	2	
2	長野市（合併前）	607,424	483,192	103,360	20,872	-4.4	28	-3	
3	上田市（合併前）	234,294	207,889	25,008	1,397	-1.8	16	1	
4	佐久市（合併前）	232,512	203,359	4,539	24,614	-2.8	17	-2	
5	諏訪市	187,370	47,128	94,824	45,418	-2.4	6	0	
6	伊那市（合併前）	186,654	90,318	96,336	0	-4.9	16	-1	
7	飯田市（合併前）	159,311	145,517	5,240	8,554	-4.7	18	-2	
8	旧穂高町（安曇野市）	146,728	39,634	62,234	44,860	-1.0	15	1	
9	旧豊科町（安曇野市）	132,640	29,809	83,351	19,480	5.6	15	1	
10	岡谷市	128,073	63,501	17,444	47,128	-3.3	4	0	
11	茅野市	123,869	62,881	13,860	47,128	-1.8	4	0	
12	中野市（合併前）	114,126	51,117	47,250	15,759	-2.6	12	0	
13	塩尻市（合併前）	97,958	65,821	6,475	25,662	-3.8	8	1	
14	須坂市	65,269	54,632	10,637	0	-1.8	3	0	
15	旧更埴市（千曲市）	59,923	35,663	24,260	0	-5.5	4	-2	
16	箕輪町	58,128	24,481	33,647	0	-4.1	3	-1	
17	駒ヶ根市	52,531	48,084	4,447	0	-2.9	4	0	
18	小諸市	40,406	40,406	0	0	-35.0	1	-2	
19	高森町	36,056	0	35,142	914	-16.2	5	-1	
20	大町市（合併前）	35,347	24,500	0	10,847	-23.5	5	-1	
21	旧梓川村（松本市）	31,400	0	13,623	17,777	-32.8	3	-1	
22	飯山市	30,234	26,552	3,682	0	-6.0	5	0	
23	旧東部町（東御市）	29,153	0	29,153	0	-2.3	2	0	
24	旧丸子町（上田市）	28,864	1,488	27,376	0	-2.6	4	0	
25	山形村	28,734	8,244	4,053	16,437	-3.4	4	-1	

- （注）
- ・一次商圏：地域の消費需要の30%以上を吸引している地域
 - ・二次商圏：地域の消費需要の10%以上30%未満を吸引している地域
 - ・三次商圏：地域の消費需要の5%以上10%未満を吸引している地域
 - ・商圏人口：商圏内の居住人口

表2 市町村別商圏人口（上位25位）《全品目平均》の推移

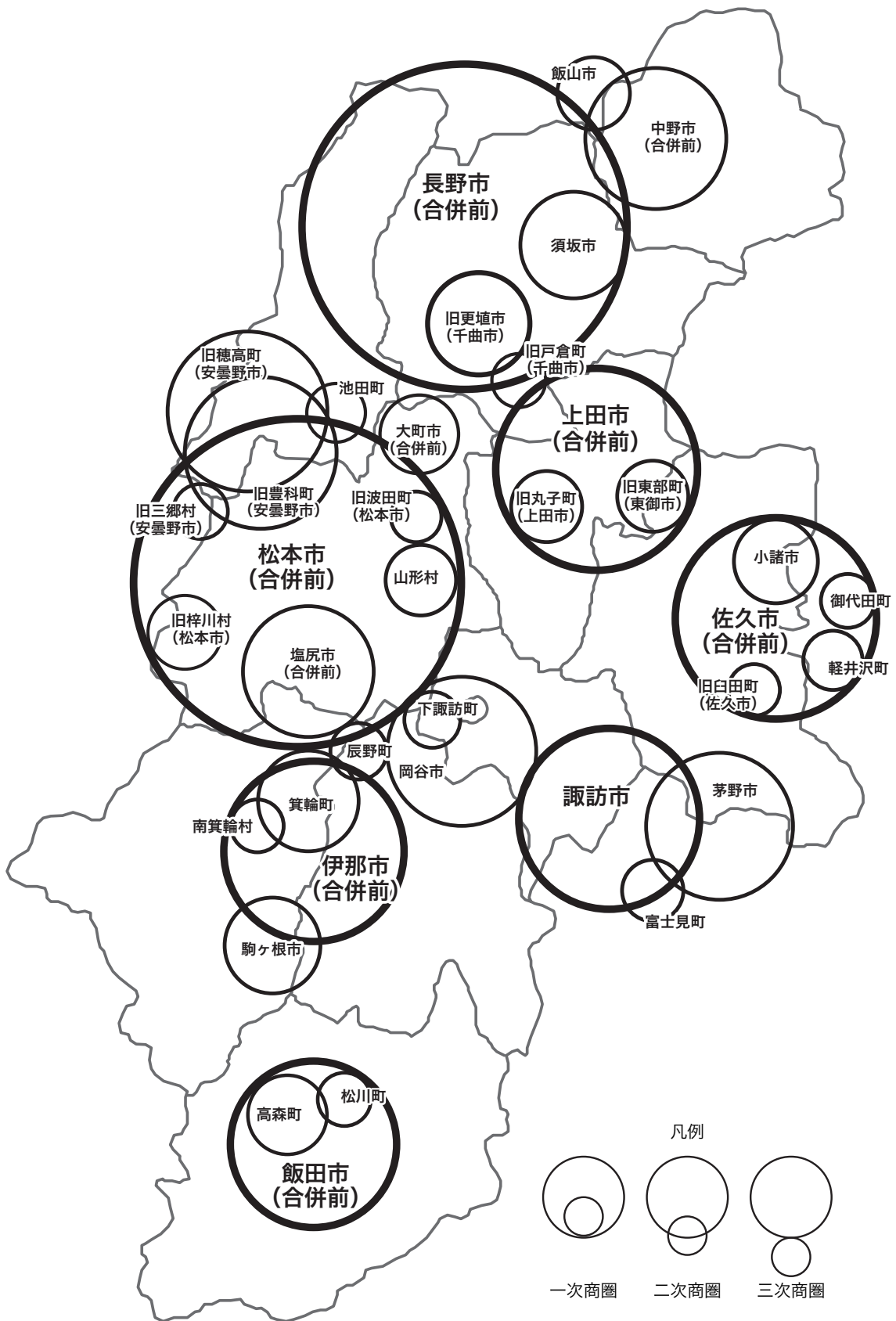
順位	市町村名	令和6年	増減率 (%)	令和3年		増減率 (%)	平成30年	
		商圏人口		商圏人口	順位		商圏人口	順位
1	松本市（合併前）	617,436	2.9	600,204	2	-2.3	614,635	2
2	長野市（合併前）	607,424	-4.4	635,498	1	3.3	615,485	1
3	上田市（合併前）	234,294	-1.8	238,638	4	-16.9	287,121	3
4	佐久市（合併前）	232,512	-2.8	239,303	3	0.7	237,613	4
5	諏訪市	187,370	-2.4	192,064	6	-0.1	192,259	6
6	伊那市（合併前）	186,654	-4.9	196,320	5	0.4	195,537	5
7	飯田市（合併前）	159,311	-4.7	167,145	7	-1.0	168,909	7
8	旧穂高町（安曇野市）	146,728	-1.0	148,195	8	-3.4	153,393	8
9	旧豊科町（安曇野市）	132,640	5.6	125,659	11	-16.9	151,303	9
10	岡谷市	128,073	-3.3	132,510	9	-1.5	134,575	10
11	茅野市	123,869	-1.8	126,091	10	1.2	124,585	11
12	中野市（合併前）	114,126	-2.6	117,219	12	8.7	107,822	13
13	塩尻市（合併前）	97,958	-3.8	101,778	13	-10.5	113,665	12
14	須坂市	65,269	-1.8	66,484	14	-0.3	66,674	14
15	旧更埴市（千曲市）	59,923	-5.5	63,379	15	-1.4	64,277	15
16	箕輪町	58,128	-4.1	60,628	17	4.5	57,998	16
17	駒ヶ根市	52,531	-2.9	54,075	18	0.2	53,990	18
18	小諸市	40,406	-35.0	62,200	16	11.2	55,957	17
19	高森町	36,056	-16.2	43,018	21	14.8	37,475	21
20	大町市（合併前）	35,347	-23.5	46,202	20	-5.7	48,991	19
21	旧梓川村（松本市）	31,400	-32.8	46,745	19	55.7	30,020	24
22	飯山市	30,234	-6.0	32,153	22	-15.4	38,028	20
23	旧東部町（東御市）	29,153	-2.3	29,847	24	2.1	29,234	25
24	旧丸子町（上田市）	28,864	-2.6	29,641	26	-3.6	30,752	22
25	山形村	28,734	-3.4	29,731	25	-1.1	30,073	23

県内上位25市町村の商圏人口と前回調査を比べると、1市1町で商圏人口が増加、16市5町2村で商圏人口が減少している。特に、2市1町1村では、10%以上の増減がみられた（表2）。

最も増加率が高い旧豊科町（安曇野市）では、前回調査で商圏となっていなかった旧安曇村（松本市）（吸引率0.0%）からの吸引率を5.2%、白馬村（吸引率4.8%）からの吸引率を5.3%とし、商圏人口が約7千人増加した。

次に、増加率が高い松本市（合併前）では、旧高遠町（伊那市）（吸引率1.5%）からの吸引率を5.2%とするなど、1町3村を商圏に加えたことにより、商圏人口が約1万7千人増加した。

図1 長野県の商圈構造（概念図）



(注) 円の大きさは商圈の規模を表す。17市と商圈人口上位20町村を記載。
太字は、商圈人口15万人以上の商圈を表す。

減少率が最も高い小諸市では、前回商圏であった御代田町 3.4%（前回吸引率 6.5%）と旧浅科村（佐久市） 4.0%（前回吸引率 7.4%）が商圏外となったことにより、商圏人口が約 2 万 2 千人減少した。

減少率が 2 番目に高い旧梓川村（松本市）では、前回商圏であった旧波田町（松本市） 3.3%（前回吸引率 5.3%）が商圏外となったことから、商圏人口が約 1 万 5 千人減少した。

また、3 番目に減少率が高い大町市（合併前）では、前回商圏であった松川村 4.7%（前回吸引率 8.8%）が商圏外となったことから、商圏人口が約 1 万 1 千人減少した。

2 地元滞留率 ～町村部の約 9 割超が 30%未満

消費者が居住市町村で買物をする割合を示す地元滞留率をみると、80%を超えた市は 17 市中 6 市と、前回調査と同様の結果となっている。一方、16 市で地元滞留率が減少している。また、諏訪市では前回と同じ地元滞留率となっている。（表 3）。

減少率が最も高い大町市（合併前）の流出状況をみると、無店舗販売への流出率が 23.7%（前回調査 17.1%）と前回よりも増加している。

町村部の地元滞留率をみると、今回調査ができた 99 町村のうち 28 町村において増加した一方で、53 町村で減少がみられる。このうち、25 町村は、前回調査に引き続きの減少となっている。

地元滞留率別に町村数の推移をみると、昭和 60 年度以降増加している「30%未満」の町村数が 15 年ぶりに減少し 94 町村となった。「30%以上 50%未満」の町村数は、前回よりも 1 村増え、3 町村となった（図 2）。

商品別地元滞留率の県平均をみると、飲食料品と日用品については、今回も 70%を超える状態が維持されている（表 4）。一方で、全品目の県平均が 5 割を割り込んでいる。

表3 市町村別地元滞留率（上位30位）《全品目平均》の推移

順位	市町村名	令和6年	増減	令和3年		増減	平成30年	
		地元滞留率		地元滞留率	順位		地元滞留率	順位
1	長野市（合併前）	86.2	-3.6	89.8	1	-1.4	91.2	1
2	飯田市（合併前）	84.9	-4.3	89.2	2	1.1	88.1	5
3	松本市（合併前）	83.7	-3.8	87.5	3	-3.0	90.5	2
4	上田市（合併前）	82.1	-4.6	86.7	4	-2.5	89.1	3
5	佐久市（合併前）	81.5	-2.6	84.1	5	-4.4	88.5	4
6	伊那市（合併前）	80.5	-0.6	81.1	6	-0.1	81.2	6
7	諏訪市	61.9	0.0	61.9	9	-8.7	70.6	8
8	中野市（合併前）	61.3	-3.0	64.3	8	-3.9	68.2	9
9	岡谷市	59.9	-6.2	66.1	7	-5.4	71.5	7
10	駒ヶ根市	54.4	-6.3	60.7	10	-3.3	64.0	10
11	旧豊科町（安曇野市）	54.0	3.0	51.0	14	0.6	50.4	15
12	旧穂高町（安曇野市）	52.2	-0.3	52.5	11	-2.2	54.6	13
13	茅野市	47.5	-4.1	51.6	13	-3.5	55.1	12
14	旧更埴市（千曲市）	43.2	-5.4	48.6	15	3.2	45.4	19
15	飯山市	41.0	-6.4	47.4	16	-7.8	55.2	11
16	箕輪町	41.0	-5.9	46.9	17	-4.2	51.1	14
17	須坂市	40.3	-1.9	42.2	19	-3.2	45.4	18
18	塩尻市（合併前）	39.5	-5.6	45.1	18	-4.3	49.4	17
19	大町市（合併前）	38.5	-13.5	52.0	12	1.9	50.1	16
20	小諸市	34.5	-5.3	39.8	20	1.2	38.6	20
21	山形村	31.5	6.7	24.8	28	-6.2	30.9	23
22	旧木曾福島町（木曾町）	31.0	8.1	22.9	32	1.4	21.5	33
23	軽井沢町	28.9	-4.9	33.8	21	-1.0	34.7	22
24	旧東部町（東御市）	28.9	-0.3	29.2	23	2.3	26.9	24
25	富士見町	27.3	-2.2	29.5	22	-8.3	37.8	21
26	高森町	24.8	-1.5	26.3	27	0.7	25.6	28
27	立科町	24.3	-2.2	26.5	26	5.2	21.3	34
28	白馬村	23.4	0.6	22.8	33	2.0	20.8	35
29	旧堀金村（安曇野市）	23.4	2.4	21.0	36	-5.8	26.8	25
30	旧佐久町（佐久穂町）	22.7	4.2	18.5	39	-4.1	22.6	31

図2 地元滞留率階級別町村数の推移

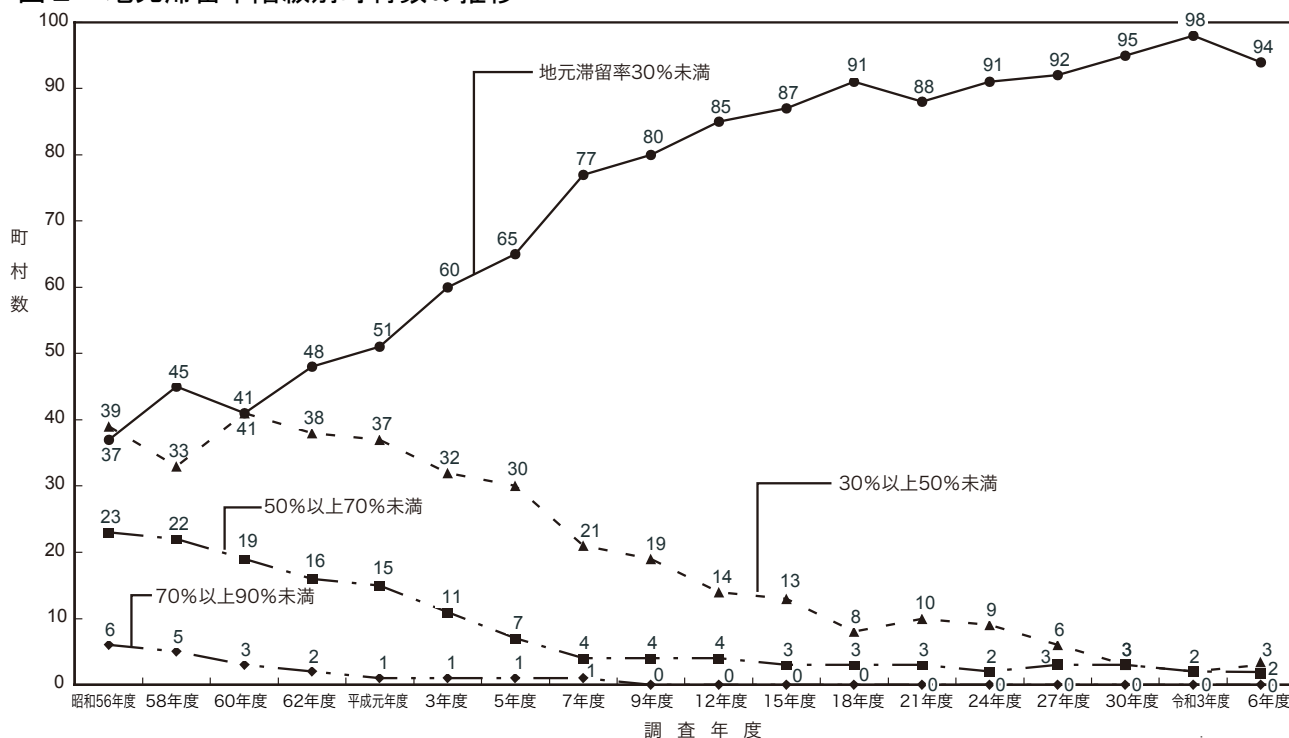


表4 商品別の地元滞留率

(%)

	衣料品	身の回り品	文化品	飲食料品	日用品	その他	全品目平均
市部平均	65.6	60.2	66.4	94.2	95.2	65.4	71.3
町村部平均	8.3	11.1	5.9	40.9	43.9	15.1	15.7
県平均	42.6	40.4	42.1	72.8	74.6	45.2	49.0

(注)

- ・衣料品：紳士服・婦人服・子供服等
- ・文化品：電化製品・時計・眼鏡・書籍等
- ・日用品：日用雑貨・医薬品
- ・身の回り品：化粧品・靴・カバン等
- ・飲食料品：生鮮食料品・その他食料品
- ・その他：贈答品（中元・歳暮等）

3 吸引力係数 ～100%を超えたのは10市町

市町村の商業力の基本的な指標の一つとなる吸引力係数については、前回調査と同じく佐久市（合併前）（185.1%）が最も高い（表5）。

吸引力係数が100%を超える市町村は、他市町村から消費者を集め、自らの居住人口を上回る集客力を持っているため、その地域商業における中核的な役割を果たしていると考えられる。吸引力係数が100%を超えているのは、市部で8市、町村部では、旧豊科町（安曇野市）（120.7%）と旧穂高町（安曇野市）（101.8%）の2町である。このうち、8市で吸引力係数が減少した。

前回と比べると、市部では、増加した市が無かった。一方、佐久市（合併前）（185.1%）で2.3ポイント、須坂市（47.8%）で2.5ポイント、飯山市（64.7%）で3.7ポイント、長野市（合併前）（113.0%）で4.4ポイント、諏訪市（107.7%）で5.3ポイント、伊那市（合併前）（139.3%）で5.4ポイント、小諸市（42.0%）で5.8ポイント、松本市（合併前）（133.5%）で6.8ポイント、中野市（合併前）（108.6%）で6.9ポイント、塩尻市（合併前）（46.0%）で7.3ポイント、上田市（合併前）（129.6%）で7.9ポイント、旧更埴市（千曲市）（58.4%）で8.1ポイント、駒ヶ根市（78.5%）で8.5ポイント、茅野市（62.8%）で9.1ポイント、飯田市（合併前）（122.0%）で9.7ポイント、岡谷市（96.9%）で10.3ポイント、大町市（合併前）（47.7%）で17.3ポイント減少した。17市全てにおいて集客力が低下しているといえる。

町村部では、旧堀金村（安曇野市）（33.6%）、旧本城村（筑北村）（27.3%）、旧上山田町（千曲市）（20.1%）で10ポイント以上増加している。一方、高森町（53.5%）で12.3ポイント、旧梓川村（松本市）（31.2%）で15.5ポイント、旧安曇村（松本市）（1.7%）で15.7ポイントと10ポイント以上減少した。

全町村のうち、29町村で前回調査よりも吸引力係数を増加させているが、旧豊科町（安曇野市）と旧穂高町（安曇野市）を除く町村は、吸引力係数が100%未満（吸引人口が居住人口を下回る）となっている。

表5 市町村別吸引力係数（上位30位）《全品目平均》の推移

順位	市町村名	令和6年	増減	令和3年		増減	平成30年	
		吸引力係数		吸引力係数	順位		吸引力係数	順位
1	佐久市(合併前)	185.1	-2.3	187.4	1	-13.3	200.7	1
2	伊那市(合併前)	139.3	-5.4	144.7	2	-0.5	145.2	3
3	松本市(合併前)	133.5	-6.8	140.3	3	-1.8	142.1	4
4	上田市(合併前)	129.6	-7.9	137.5	4	-7.9	145.4	2
5	飯田市(合併前)	122.0	-9.7	131.7	5	-1.7	133.4	5
6	旧豊科町(安曇野市)	120.7	1.6	119.1	6	-5.4	124.5	7
7	長野市(合併前)	113.0	-4.4	117.4	7	-2.5	119.9	9
8	中野市(合併前)	108.6	-6.9	115.5	8	-6.9	122.4	8
9	諏訪市	107.7	-5.3	113.0	9	-12.7	125.7	6
10	旧穂高町(安曇野市)	101.8	2.4	99.4	11	-3.9	103.3	10
11	岡谷市	96.9	-10.3	107.2	10	7.1	100.1	11
12	駒ヶ根市	78.5	-8.5	87.0	12	-7.9	94.9	12
13	飯山市	64.7	-3.7	68.4	14	-12.6	81.0	13
14	山形村	63.3	9.5	53.8	19	-11.9	65.7	16
15	茅野市	62.8	-9.1	71.9	13	4.2	67.7	15
16	旧木曾福島町(木曾町)	58.7	6.4	52.3	21	14.2	38.1	26
17	箕輪町	58.6	-5.0	63.6	18	-12.7	76.3	14
18	旧更埴市(千曲市)	58.4	-8.1	66.5	15	2.1	64.4	17
19	高森町	53.5	-12.3	65.8	16	4.5	61.3	19
20	須坂市	47.8	-2.5	50.3	22	-3.2	53.5	21
21	大町市(合併前)	47.7	-17.3	65.0	17	0.8	64.2	18
22	塩尻市(合併前)	46.0	-7.3	53.3	20	-5.8	59.1	20
23	小諸市	42.0	-5.8	47.8	23	6.2	41.6	24
24	立科町	34.2	-3.3	37.5	27	-0.4	37.9	27
25	旧佐久町(佐久穂町)	34.0	-8.1	42.1	25	5.6	36.5	28
26	旧堀金村(安曇野市)	33.6	12.6	21.0	40	-18.3	39.3	25
27	軽井沢町	33.4	-1.1	34.5	30	-0.2	34.7	30
28	池田町	32.8	-1.8	34.6	29	4.9	29.7	36
29	旧東部町(東御市)	32.6	-0.2	32.8	32	4.2	28.6	38
30	旧梓川村(松本市)	31.2	-15.5	46.7	24	16.2	30.5	33

4 商圏変動の類型 ～縮小商圏が約8割を占める

自市町村以外にも商圏を有する17市及び20町村について、それぞれの商圏人口と吸引人口の増減率から商圏の変動状況を分析すると、次のパターンに分類できる。

なお、前回調査と比較して、分析状況に大きな変化はないものの、縮小商圏は前回よりもやや増加し、全体の約8割を占める結果となった。

Iのゾーン 『成長商圏』

商圏人口、吸引人口ともに増加し、拡大傾向にある商圏

IIのゾーン 『吸引商圏』

商圏人口は減少したが、吸引人口は増加した商圏

IIIのゾーン 『流動商圏』

商圏人口は増加したが、吸引人口が減少した商圏

IVのゾーン 『縮小商圏』

商圏人口、吸引人口ともに減少し、低落傾向にある商圏

図3及び図4から、これら4つのゾーンに属する市町村をまとめると次のようになる。

I 『成長商圏』：2町村（△8）

日本城村（筑北村）、旧豊科町（安曇野市）

II 『吸引商圏』：5町村（±0）

小海町、旧木曾福島町（木曾町）、旧穂高町（安曇野市）、山形村、白馬村

III 『流動商圏』：1市（△11）

松本市（合併前）

IV 『縮小商圏』：29市町村（+14）

長野市（合併前）、上田市（合併前）、岡谷市、飯田市（合併前）、諏訪市、須坂市、小諸市、伊那市（合併前）、駒ヶ根市、中野市（合併前）、大町市（合併前）、飯山市、茅野市、塩尻市（合併前）、旧更埴市（千曲市）、佐久市（合併前）

旧臼田町（佐久市）、旧佐久町（佐久穂町）、立科町、旧丸子町（上田市）、旧東部町（東御市）、富士見町、箕輪町、松川町、高森町、阿智村（合併前）、旧日義村（木曾町）、旧梓川村（松本市）、池田町

※（ ）内は前回調査と比較した市町村数の増減

図3 商圏変動の類型 (17市)

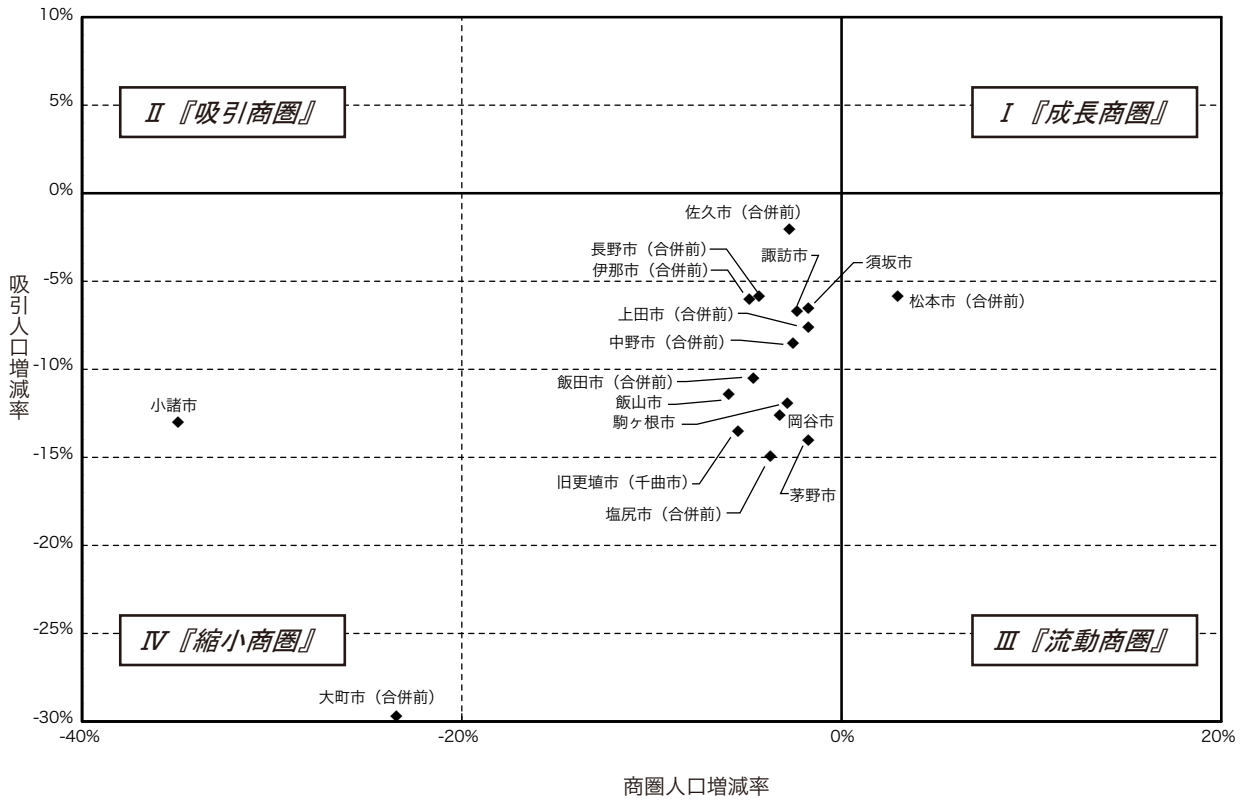
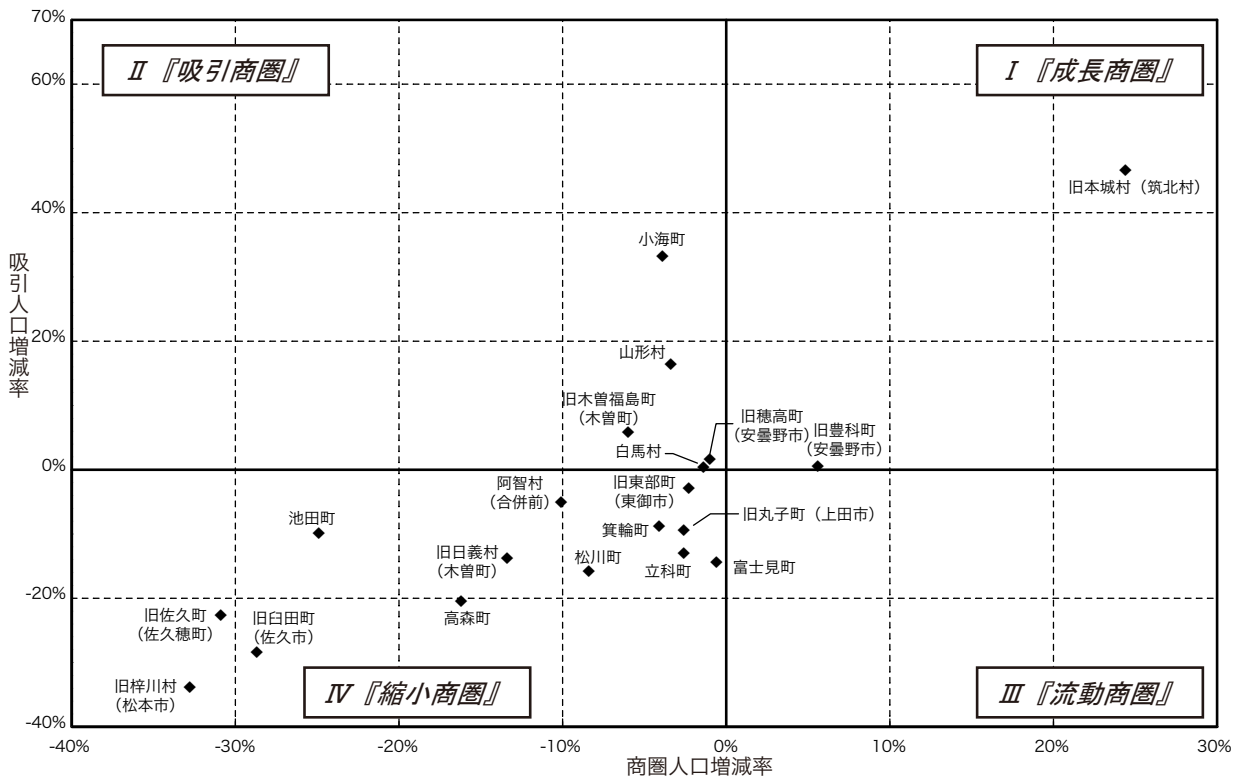


図4 商圏変動の類型 (自町村以外にも商圏を有する20町村)



5 県外流出率 ～流出率が増加した町村数の増加

県外への流出率が高く 20%を超えている町村は、南木曾町 (87.7%)、根羽村 (73.7%)、大桑村 (46.7%)、売木村 (46.3%)、旧八坂村 (大町市) (35.2%)、南牧村 (33.2%)、川上村 (31.1%) の 7 町村となる (表 6)。

流出率が 5%を超えるのは、22 町村 (前回調査比+8) であった。

前回調査と比較すると、県外への流出率が増加した市町村数が 66 市町村となり、減少した市町村数を上回っている。

表 6 市町村別県外への流出率 (上位 10 位)

順位	市町村名	令和 6 年	増減	令和 3 年		増減	平成 30 年	
		流出率		流出率	順位		流出率	順位
1	南木曾町	87.7	14.8	72.9	1	-12.8	85.7	1
2	根羽村	73.7	43.7	30.0	4	0.3	29.7	6
3	大桑村	46.7	-3.3	50.0	2	-4.9	54.9	2
4	売木村	46.3	46.3	0.0	86	-7.0	7.0	15
5	旧八坂村(大町市)	35.2	27.2	8.0	8	6.9	1.1	81
6	南牧村	33.2	12.3	20.9	6	-10.2	31.1	5
7	川上村	31.1	-1.4	32.5	3	0.5	32.0	4
8	栄村	19.5	-3.7	23.2	5	-9.6	32.8	3
9	小谷村	16.8	16.4	0.4	75	-7.7	8.1	10
10	原村	12.2	7.6	4.6	16	-3.4	8.0	12

6 無店舗販売の利用 ～利用がさらに拡大

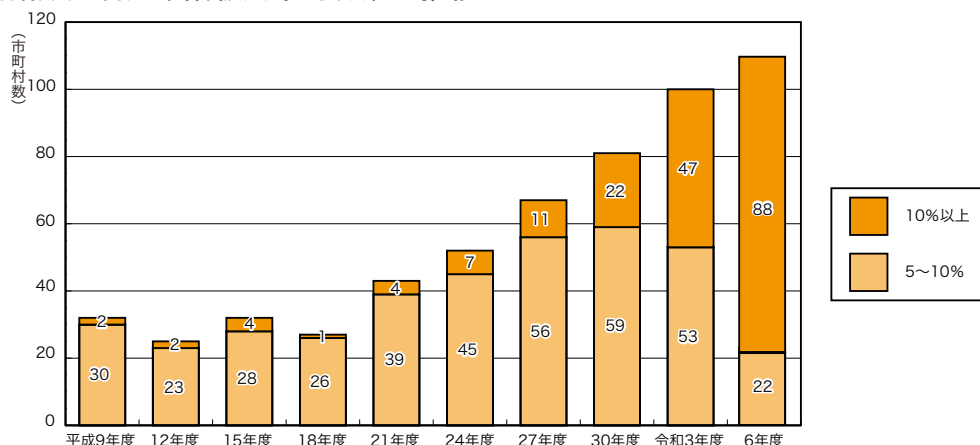
無店舗販売注) の利用率が 5%以上を占めているのは、旧奈川村 (松本市) (92.3%)、王滝村 (52.6%)、旧清内路村 (阿智村) (42.9%)、北相木村 (35.4%)、旧開田村 (木曾町) (31.2%) など 110 市町村 (前回調査比+10) である。

前回調査でも無店舗販売の影響を受ける市町村が大きく増加しているが、今回もさらに増加し、消費需要に大きな影響を与える買物形態になったといえる (図 5)。

商品群でみると、5%以上の消費需要があったのは、身の回り品 (化粧品・靴・鞆など) で 111 市町村 (前回調査比+7)、衣料品で 100 市町村 (前回調査比+9)、飲食料品で 6 村 (前回調査比△1) であった。

注) 無店舗販売：通信販売 (カタログ、TVショッピング、インターネットショッピング)、訪問販売、移動販売等

図 5 無店舗販売利用率階級別市町村数の推移



7 業態別利用店舗 ～専門スーパー利用割合が約5割に

主に買物をする業態店を商品群別に尋ねたところ、飲食料品、その他（贈答品）で大規模スーパーの、衣料品、身の回り品、文化品、日用品では専門スーパーの利用割合が高かった（図6）。

利用店舗の推移をみると、大規模スーパーの利用割合がやや低下し、専門スーパーの利用割合がやや増加している。また、一般小売店の利用割合は、やや増加している（図7）。

図6 商品群別業態別利用店舗（全県平均）

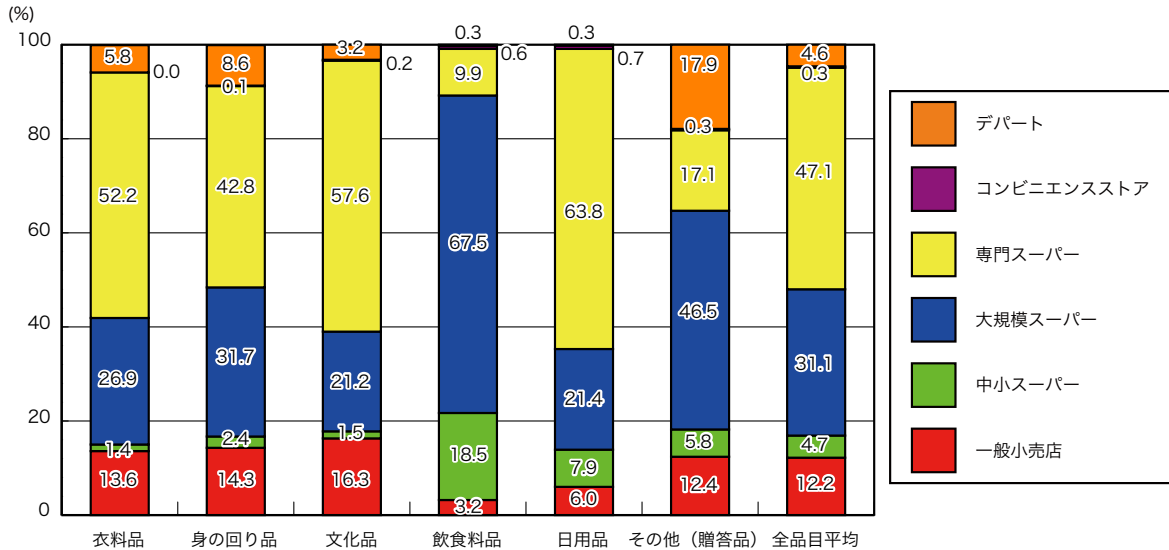
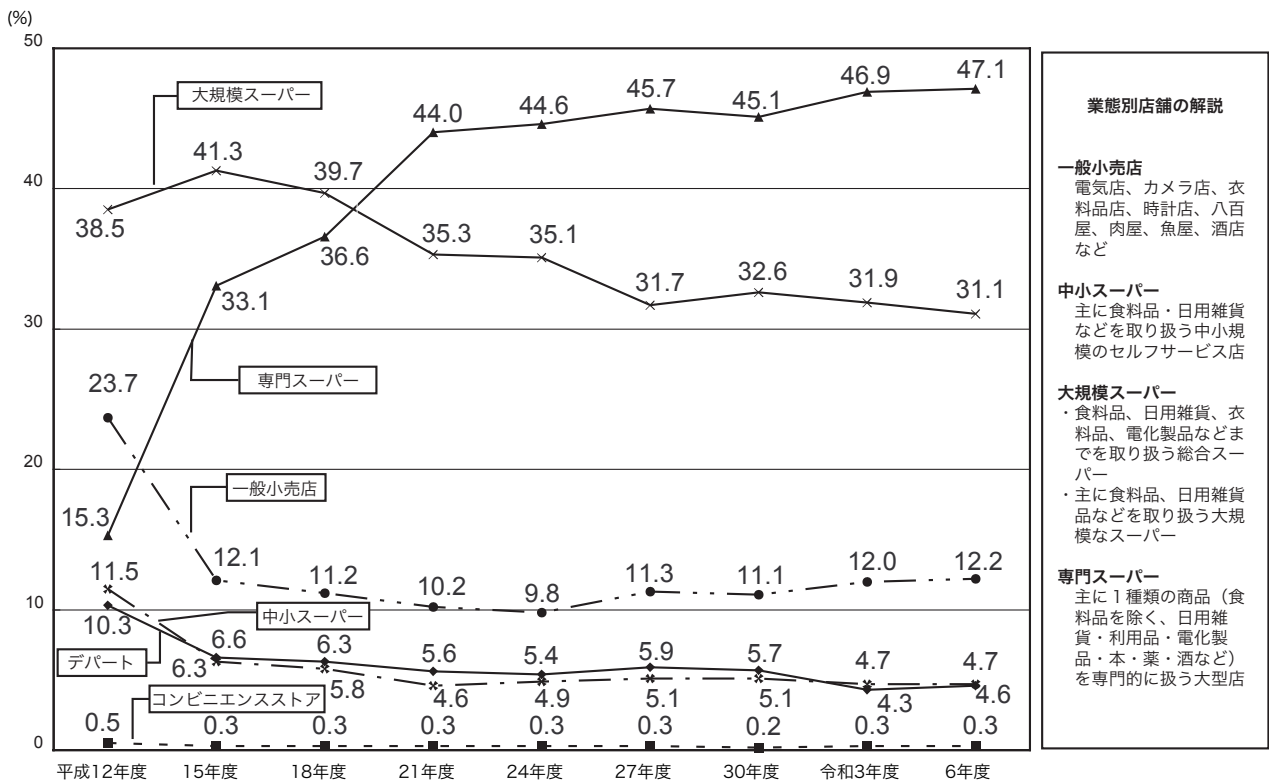


図7 利用店舗割合（全品目平均・全県平均）の推移



8 インターネットを利用した買物状況 ～利便性などから身近なツールとして利用が定着

過去1年間にインターネットを利用したと回答した人は97.0%と、前回調査よりさらに利用が拡大していることが分かる。また、インターネット利用による買物をした人の割合は、前回調査からさらに0.4ポイント増加した（図8、9）。

インターネットで買物をしたいという意向を持っている回答者に買物理由を尋ねたところ、前回同様に、「他では手に入らない」が最も多く、次に、「配達してくれる」、「割引等のサービスがある」の順となっている。「他では手に入らない」、「配達してくれる」は前回とほぼ同じ回答割合となるが、「割引等のサービスがある」が2.6ポイント、「購入手続きが簡単」が2.2ポイント、「商品情報がわかりやすい」が1.1ポイント増加している（図10）。

図8 過去1年間のインターネット利用状況

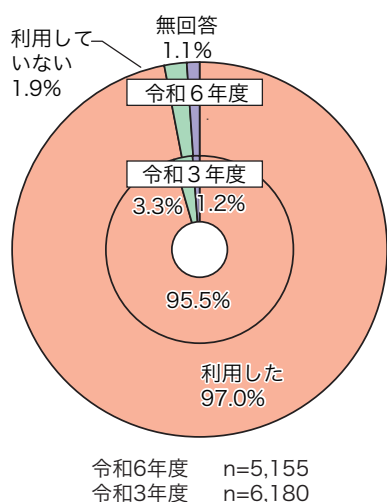


図9 過去1年間のインターネットを利用した買物の利用者割合

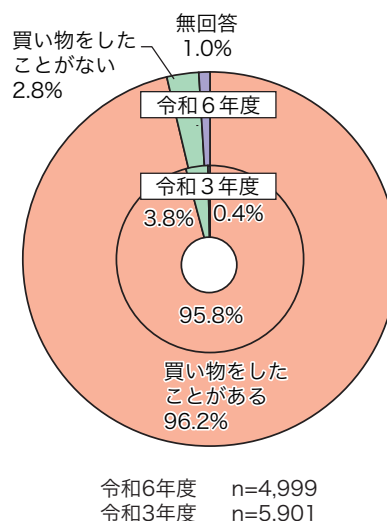
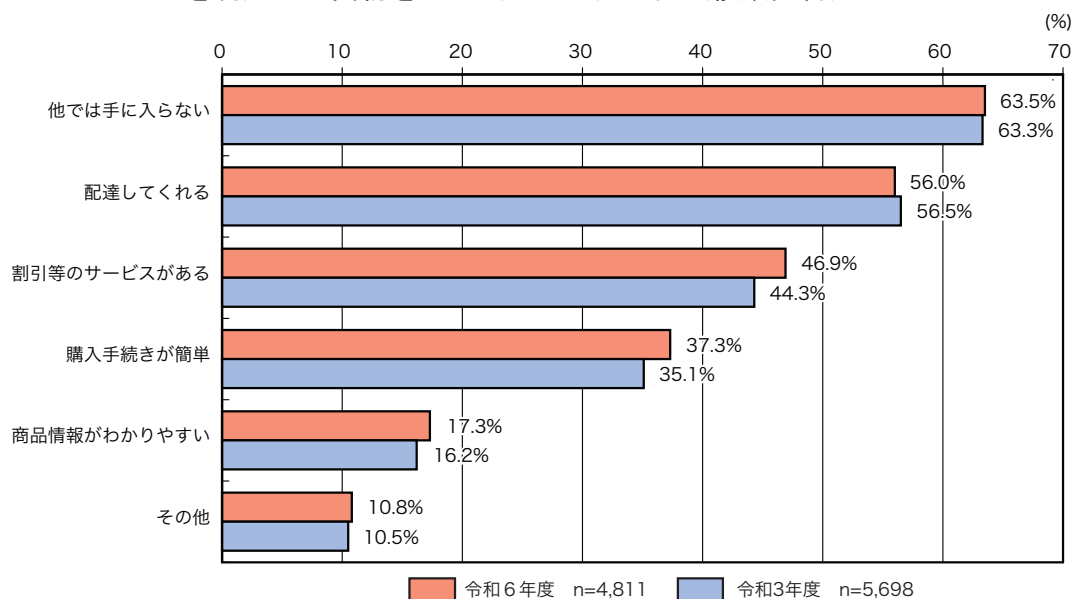


図10 インターネットを利用して買物をした（したい）理由（複数回答）



IV 調查結果

IV 調査結果

1 長野県の商圈動向

(1) 商圈（全品目平均）

《市部》

商圈人口は、17市（市町村単位）中、松本市（合併前）（617千人）が最も多く、2番目となる長野市（合併前）（607千人）と2大商圈を形成している。続いて、上田市（合併前）（234千人）、佐久市（合併前）（233千人）、諏訪市（187千人）、伊那市（合併前）（187千人）、飯田市（合併前）（159千人）の5市を加えた7市が、それぞれ15万人を上回っている。令和3年度に比べると松本市（合併前）は商圈人口が増加し、長野市（合併前）は減少したことにより順位が入れ替わった。

この他、商圈人口10万人以上15万人未満を有するのは、岡谷市（128千人）、茅野市（124千人）、中野市（合併前）（114千人）の3市となる。残り7市は10万人未満となる（表1）。

前回（令和3年度）調査と比較して商圈人口が伸びたのは、松本市（合併前）+2.9%のみとなっている。反対に最も減少したのは、小諸市△35.0%、大町市（合併前）△23.5%、飯山市△6.0%であった。

商圈を構成する市町村数が前回調査よりも増加した市は、松本市（合併前）（+2）、上田市（合併前）（+1）、塩尻市（合併前）（+1）の3市であった。反対に減少した市は、長野市（合併前）（△3）、飯田市（合併前）（△2）、小諸市（△2）、佐久市（合併前）（△2）、旧更埴市（千曲市）（△2）、伊那市（合併前）（△1）、大町市（合併前）（△1）の7市であった（表2）。

《町村部》

町村部（旧町村単位）の商圈人口は、99町村中、旧穂高町（安曇野市）（147千人）、旧豊科町（安曇野市）（133千人）の2町が10万人を超えている（表3）。

前回調査との増減をみると、旧本城村（筑北村）が24.4%と最も大きく、5%を超えた町村は、3町村となる。一方、最も減少したのは、旧望月町（佐久市）で△41.7%であった。

自町村以外の周辺市町村も商圈にしているのは、20町村である（表4）。

今回の調査で周辺市町村から5%以上吸引できず、商圈が自町村のみとなったのは、旧望月町（佐久市）、麻績村、旧戸倉町（千曲市）、旧三郷村（安曇野市）、旧信州新町（長野市）の5町村であった。

図1 商圈人口4万人以上の市町における商圈人口の比較

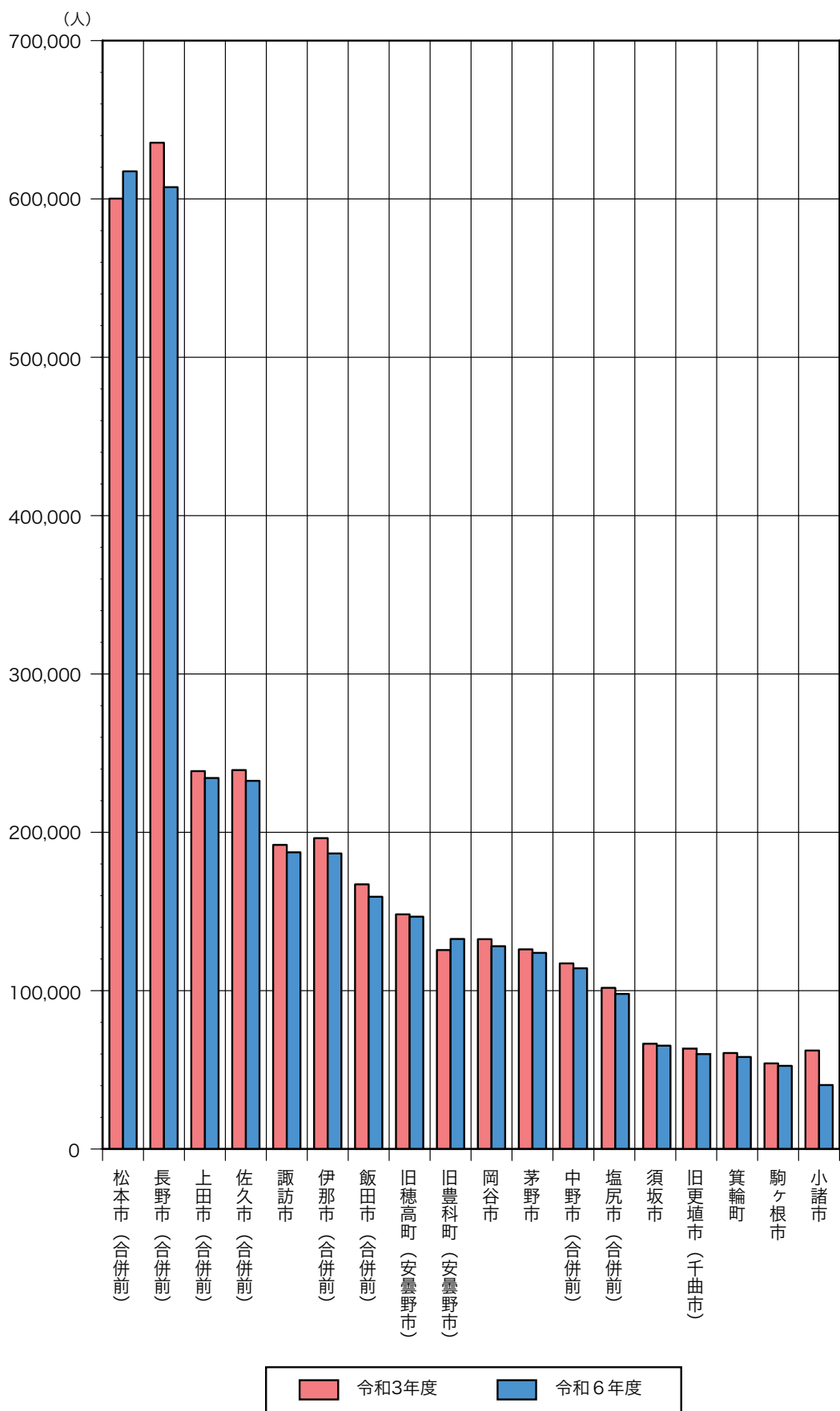


図2 商圏人口15万人以上の市の商圏

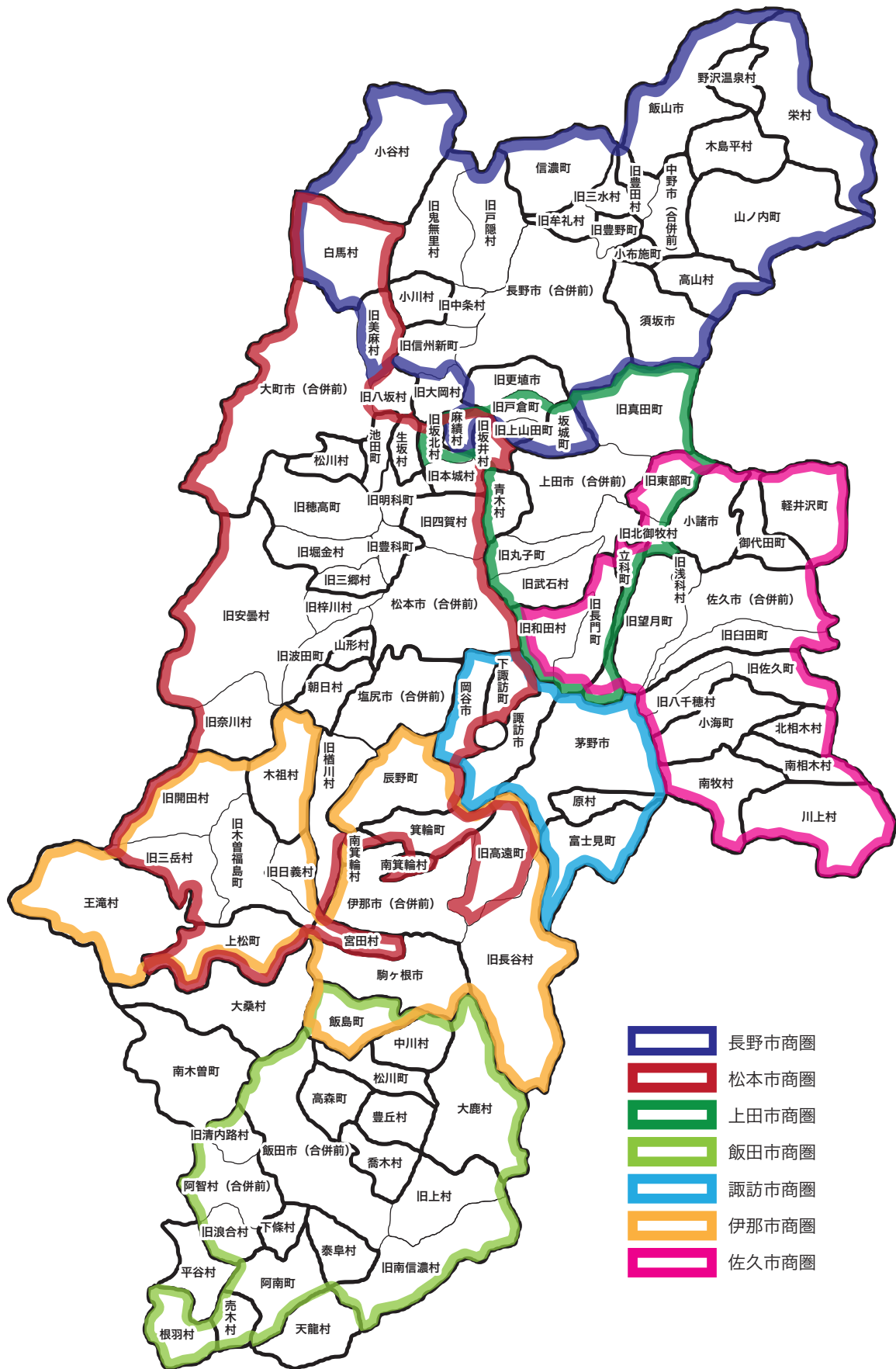


表1 市部商圏《全品目平均》

(単位：人)

市名	一次商圏 (吸引率30%以上)		二次商圏 (吸引率10%以上30%未満)		三次商圏 (吸引率5%以上10%未満)		商圏人口 合計	影響圏 (吸引率2%以上5%未満)			
	商圏内市町村	計	商圏内市町村	計	商圏内市町村	計		影響圏内市町村	計		
長野市(合併前)	長野市(合併前) 須坂市 旧更埴市(千曲市) 小谷村 小布施町 高山村 旧信州新町(長野市) 旧豊野町(長野市)	信濃町 旧牟礼村(飯綱町) 旧三水村(飯綱町) 旧戸隠村(長野市) 旧鬼無里村(長野市) 小川村 旧中条村(長野市)	15市町村 483,192	中野市(合併前) 飯山市 麻績村 白馬村 旧戸倉町(千曲市) 山ノ内町	木島平村 野沢温泉村旧豊田村 (中野市)	9市町村 103,360	旧美麻村(大町市) 旧上山田町(千曲市) 坂城町 栄村	4町村 20,872	28市町村 607,424	旧真田町(上田市) 旧和田村(長和町)	2町村 10,584
松本市(合併前)	松本市(合併前) 塩尻市(合併前) 木祖村 旧波田町(松本市) 旧四黄村(松本市) 山形村 朝日村 旧安曇村(松本市) 旧梓川村(松本市) 旧三郷村(安曇野市)	大町市(合併前) 旧木曾福島町(木曾町) 上松町 旧楡川村(塩尻市) 旧日義村(木曾町) 旧開田村(木曾町) 旧明科町(安曇野市) 旧本城村(筑北村)	10市町村 332,876	旧坂井村(筑北村) 生坂村 旧豊科町(安曇野市) 旧穂高町(安曇野市) 旧堀金村(安曇野市) 池田町 松川村	15市町村 135,088	岡谷市 下諏訪町 旧高遠町(伊那市) 辰野町 箕輪町 南箕輪村 宮田村 旧三岳村(木曾町) 旧坂北村(筑北村) 麻績村 旧奈川村(松本市) 旧美麻村(大町市) 白馬村	13市町村 149,472	38市町村 617,436	諏訪市 伊那市(合併前) 駒ヶ根市 茅野市 旧武石村(上田市) 原村 中川村 旧長谷村(伊那市) 大桑村 小谷村	10市村 213,109	
上田市(合併前)	上田市(合併前) 旧北御牧村(東御市) 旧丸子町(上田市) 旧長門町(長和町) 旧東部町(東御市) 旧真田町(上田市)	旧武石村(上田市) 旧和田村(長和町) 青木村 旧坂井村(筑北村) 旧上山田町(千曲市) 坂城町	12市町村 207,889	立科町 麻績村 旧戸倉町(千曲市)	3町村 25,008	旧坂北村(筑北村)	1村 1,397	16市町村 234,294	旧更埴市(千曲市) 旧望月町(佐久市) 旧浅科村(佐久市) 白馬村 旧八坂村(大町市)	5市町村 58,261	
岡谷市	岡谷市 下諏訪町		2市町 63,501	辰野町	1町 17,444	諏訪市	1市 47,128	4市町 128,073	茅野市 箕輪町 南箕輪村	3市町村 95,848	
飯田市(合併前)	飯田市(合併前) 松川町 高森町 阿南町 旧清内路村(阿智村) 阿智村(合併前) 旧浪合村(阿智村) 下條村	壳木村 泰阜村 喬木村 豊丘村 大鹿村 旧上村(飯田市) 旧南信濃村(飯田市)	15市町村 145,517	中川村 根羽村	2村 5,240	飯島町	1町 8,554	18市町村 159,311			
諏訪市	諏訪市		1市 47,128	茅野市 下諏訪町 富士見町 原村	4市町村 94,824	岡谷市	1市 45,418	6市町村 187,370	旧高遠町(伊那市) 辰野町	2町 22,438	
須坂市	須坂市 高山村		2市村 54,632	小布施町	1町 10,637			3市町村 65,269	旧豊野町(長野市)	1町 8,527	
小諸市	小諸市		1市 40,406					1市 40,406	佐久市(合併前) 旧白田町(佐久市) 旧望月町(佐久市) 御代田町 旧浅科村(佐久市)	5市町村 113,497	
伊那市(合併前)	伊那市(合併前) 旧高遠町(伊那市) 南箕輪村 旧長谷村(伊那市)	宮田村 旧日義村(木曾町)	6市町村 90,318	駒ヶ根市 辰野町 箕輪町 飯島町 旧木曾福島町(木曾町)	10市町村 96,336	上松町 木祖村 旧開田村(木曾町) 旧三岳村(木曾町) 王滝村		16市町村 186,654	中川村 旧楡川村(塩尻市) 大桑村	3村 9,727	
駒ヶ根市	駒ヶ根市 飯島町 宮田村		3市町村 48,084	中川村	1村 4,447			4市町村 52,531	松川町	1町 12,023	
中野市(合併前)	中野市(合併前) 山ノ内町 旧豊田村(中野市)		3市町村 51,117	飯山市 小布施町 高山村 木島平村	7市町村 47,250	野沢温泉村 旧三水村(飯綱町) 栄村	旧豊野町(長野市) 信濃町	2町 15,759	12市町村 114,126	旧牟礼村(飯綱町)	1村 5,775
大町市(合併前)	大町市(合併前) 旧八坂村(大町市) 旧美麻村(大町市)		3市村 24,500				白馬村 小谷村	2村 10,847	5市村 35,347	池田町 松川村	2町村 18,333
飯山市	飯山市 木島平村	野沢温泉村 栄村	4市村 26,552	旧豊田村(中野市)	1村 3,682			5市村 30,234			
茅野市	茅野市 原村		2市村 62,881	富士見町	1町 13,860			1市 47,128	4市町村 123,869		
塩尻市(合併前)	塩尻市(合併前) 旧楡川村(塩尻市)		2市村 65,821	木祖村 朝日村	2村 6,475	辰野町 上松町 旧開田村(木曾町) 大桑村	4町村 25,662	8市町村 97,958	旧日義村(木曾町)	1村 1,947	
旧更埴市(千曲市)	旧更埴市(千曲市)		1市 35,663	麻績村	3町村 24,260	旧上山田町(千曲市) 旧戸倉町(千曲市)		4市町村 59,923	坂城町	1町 13,149	
佐久市(合併前)	小諸市 佐久市(合併前) 旧白田町(佐久市) 旧佐久町(佐久市) 小海町 川上村 南牧村 南相木村	北相木村 旧八千穂村(佐久市) 軽井沢町 旧望月町(佐久市) 御代田町 立科町 旧浅科村(佐久市)	15市町村 203,359	旧北御牧村(東御市)	1村 4,539		旧東部町(東御市)	1町 24,614	17市町村 232,512		

表2 市部商圏の推移<<全品目平均>>

(単位:人、%)

市名	一次商圏			二次商圏			三次商圏			商圏人口			
	平成30年	令和3年	令和6年	平成30年	令和3年	令和6年	平成30年	令和3年	令和6年	平成30年	令和3年	令和6年	増減 (対R3)
長野市(合併前)	16市町村 504,076	16市町村 494,742	15市町村 483,192	12市町村 111,409	13市町村 117,791	9市町村 103,360		2町 22,965	4町村 20,872	28市町村 615,485	31市町村 635,498	28市町村 607,424	-3 -4.4
松本市(合併前)	11市町村 339,708	14市町村 344,199	10市町村 332,876	17市町村 156,217	15市町村 154,198	15市町村 135,088	11市町村 118,710	7市町村 101,807	13市町村 149,472	39市町村 614,635	36市町村 600,204	38市町村 617,436	2 2.9
上田市(合併前)	11市町村 210,364	11市町村 207,347	12市町村 207,889	4町村 28,235	3町 28,796	3町村 25,008	3市町村 48,522	1村 2,495	1村 1,397	18市町村 287,121	15市町村 238,638	16市町村 234,294	1 -1.8
岡谷市	2市町 67,674	2市町 65,973	2市町 63,501	1町 18,813	1町 18,299	1町 17,444	1市 48,088	1市 48,238	1市 47,128	4市町 134,575	4市町 132,510	4市町 128,073	0 -3.3
飯田市(合併前)	18市町村 159,848	19市町村 158,161	15市町村 145,517			2村 5,240	1町 9,061	1町 8,984	1町 8,554	19市町村 168,909	20市町村 167,145	18市町村 159,311	-2 -4.7
諏訪市	2市村 55,639	2市町 62,281	1市 47,128	3市町 88,428	2市村 63,810	4市町村 94,824	1市 48,192	2市町 65,973	1市 45,418	6市町村 192,259	6市町村 192,064	6市町村 187,370	0 -2.4
須坂市	2市村 56,208	2市村 55,828	2市村 54,632	1町 10,466	1町 10,656	1町 10,637				3市町村 66,674	3市町村 66,484	3市町村 65,269	0 -1.8
小諸市	1市 41,080	1市 40,873	1市 40,406				1町 14,877	2町村 21,327		2市町 55,957	3市町村 62,200	1市 40,406	-2 -35.0
伊那市(合併前)	9市町村 97,276	8市町村 95,794	6市町村 90,318	6市町村 85,655	8市町村 95,941	10市町村 96,336	2町村 12,606	1村 4,585		17市町村 195,537	17市町村 196,320	16市町村 186,654	-1 -4.9
駒ヶ根市	3市町村 49,333	3市町村 49,490	3市町村 48,084	1村 4,657	1村 4,585	1村 4,447				4市町村 53,990	4市町村 54,075	4市町村 52,531	0 -2.9
中野市(合併前)	3市町村 54,005	4市町村 57,159	3市町村 51,117	6市町村 44,402	6市町村 47,531	7市町村 47,250	1町 9,415	2村 12,529	2町 15,759	10市町村 107,822	12市町村 117,219	12市町村 114,126	0 -2.6
大町市(合併前)	3市村 26,479	3市村 25,625	3市村 24,500	2村 11,226	2村 10,998		2村 11,286	1村 9,579	2村 10,847	7市村 48,991	6市村 46,202	5市村 35,347	-1 -23.5
飯山市	3市村 27,911	4市村 28,363	4市村 26,552	1村 1,761		1村 3,682	2村 8,356	1村 3,790		6市村 38,028	5市村 32,153	5市村 30,234	0 -6.0
茅野市	1市 54,972	2市村 63,810	2市村 62,881	2町村 21,525	1町 14,043	1町 13,860	1市 48,088	1市 48,238	1市 47,128	4市町村 124,585	4市町村 126,091	4市町村 123,869	0 -1.8
塩尻市(合併前)	2市村 65,759	2市村 66,874	2市村 65,821	3村 9,324	2村 6,820	2村 6,475	5町村 38,582	3町 28,084	4町村 25,662	10市町村 113,665	7市町村 101,778	8市町村 97,958	1 -3.8
更埴市(千曲市)	1市 36,221	1市 36,257	1市 35,663	3町村 24,196	3町村 23,809	3町村 24,260	2村 3,860	2村 3,313		6市町村 64,277	6市町村 63,379	4市町村 59,923	-2 -5.5
佐久市(合併前)	16市町村 204,308	15市町村 203,921	15市町村 203,359	2町村 8,893	2村 6,218	1村 4,539	1町 24,412	2町 29,164	1町 24,614	19市町村 237,613	19市町村 239,303	17市町村 232,512	-2 -2.8

表3 自町村以外にも商圏を持つ町村部商圏《全品目平均》

(単位:人)

区分 町村名	一次商圏 (吸引率30%以上)		二次商圏 (吸引率10%以上30%未満)		三次商圏 (吸引率5%以上10%未満)		商圏人数 合計	影響圏 (吸引率2%以上5%未満)	
	商圏内市町村		商圏内市町村		商圏内市町村			影響圏内市町村	
		計		計		計			計
旧臼田町(佐久市)			旧臼田町(佐久市)	1町 12,677	旧佐久町(佐久穂町) 旧八千穂村(佐久穂町)	2町村 9,683	3町村 22,360	小海町 南牧村	2町村 7,401
旧佐久町(佐久穂町)			旧佐久町(佐久穂町) 南相木村 旧八千穂村(佐久穂町)	3町村 10,580			3町村 10,580	小海町 北相木村	2町村 4,810
小海町			小海町 南相木村	2町村 5,014	北相木村	1村 693	3町村 5,707	川上村 南牧村	2村 7,846
立科町			立科町	1町 6,197	旧望月町(佐久市)	1町 7,972	2町 14,169	旧北御牧村(東御市)	1村 4,539
旧丸子町(上田市)	旧和田村(長和町)	1村 1,488	旧丸子町(上田市) 旧長門町(長和町) 旧武石村(上田市)	3町村 27,376			4町村 28,864		
旧東部町(東御市)			旧北御牧村(東御市) 旧東部町(東御市)	2町村 29,153			2町村 29,153		
富士見町			富士見町	1町 13,860	原村	1村 7,717	2町村 21,577		
箕輪町	箕輪町	1町 24,481	辰野町 南箕輪村	2町村 33,647			3町村 58,128		
松川町			中川村 松川町	2町村 16,470			2町村 16,470		
高森町			中川村 松川町	4町村 35,142	高森町 豊丘村		5町村 36,056	喬木村	1村 5,626
阿智村(合併前)						阿智村(合併前) 旧浪合村(阿智村)	2村 5,273	2村 5,273	
旧木曾福島町(木曾町)	旧木曾福島町(木曾町)	1町 5,419	上松町 旧開田村(木曾町)	4町村 6,841	旧三岳村(木曾町) 王滝村		6町村 14,207	木祖村 大桑村	2村 5,510
旧日義村(木曾町)			旧日義村(木曾町) 旧三岳村(木曾町)	2村 3,012			2村 3,012	木祖村 旧開田村(木曾町)	2村 3,749
旧本城村(筑北村)			旧坂北村(筑北村)	1村 1,397			3村 3,793		
山形村	山形村	1村 8,244	朝日村	1村 4,053			4町村 28,734	旧梓川村(松本市)	1村 12,017
旧豊科町(安曇野市)	旧本城村(筑北村) 旧坂北村(筑北村) 旧豊科町(安曇野市)	3町村 29,809	旧明科町(安曇野市) 旧四賀村(松本市) 麻績村 生坂村 旧穂高町(安曇野市)	9町村 83,351	旧三郷村(安曇野市) 旧堀金村(安曇野市) 池田町 旧八坂村(大町市)		15町村 132,640	大町市(合併前) 旧坂井村(筑北村) 旧梓川村(松本市)	3市村 35,974
旧穂高町(安曇野市)	旧明科町(安曇野市) 旧穂高町(安曇野市)	2町 39,634	旧四賀村(松本市) 旧本城村(筑北村) 旧坂北村(筑北村) 生坂村	8町村 62,234	旧豊科町(安曇野市) 旧堀金村(安曇野市) 池田町 松川村		15市町村 146,728	旧八坂村(大町市) 白馬村	2村 9,064
旧梓川村(松本市)			旧安曇村(松本市) 旧梓川村(松本市)	2村 13,623			3村 31,400	旧波田町(松本市)	1町 14,831
池田町			池田町	1町 8,812	生坂村 松川村		3町村 19,870	旧四賀村(松本市)	1村 4,028
白馬村			白馬村 小谷村	2村 10,847			2村 10,847		

表4 自町村以外にも商圏を持つ町村部商圏の推移《全品目平均》

(単位:人、%)

区分 町村名	一次商圏			二次商圏			三次商圏			商圏人口			
	平成30年	令和3年	令和6年	平成30年	令和3年	令和6年	平成30年	令和3年	令和6年	平成30年	令和3年	令和6年	増減 (対R3)
旧臼田町(佐久市)				1町 13,494	3町村 18,016	1町 12,677	4町村 11,482	3町村 13,339	2町村 9,683	5町村 24,976	6町村 31,355	3町村 22,360	-3 -28.7
旧佐久町(佐久穂町)				2町村 10,511	3町村 11,054	3町村 10,580	1町 4,419	1町 4,259		3町村 14,930	4町村 15,313	3町村 10,580	-1 -30.9
小海町				1村 750	2町村 4,985	2町村 5,014	2町村 5,354	1村 952	1村 693	3町村 6,104	3町村 5,937	3町村 5,707	0 -3.9
立科町				2町 15,576	1町 6,495	1町 6,197		1町 8,052	1町 7,972	2町 15,576	2町 14,547	2町 14,169	0 -2.6
旧丸子町(上田市)			1村 1,488	3町村 28,993	4町村 29,641	3町村 27,376	1村 1,759			4町村 30,752	4町村 29,641	4町村 28,864	0 -2.6
旧東部町(東御市)				1町 24,412	2町村 29,847	2町村 29,153	1村 4,822			2町村 29,234	2町村 29,847	2町村 29,153	0 -2.3
富士見町	1町 13,974			1村 7,551	2町村 21,710	1町 13,860			1村 7,717	2町村 21,525	2町村 21,710	2町村 21,577	0 -0.6
箕輪町	1町 24,085	1町 24,807	1町 24,481	2町村 33,913	2町村 34,219	2町村 33,647		1村 1,602		3町村 57,998	4町村 60,628	3町村 58,128	-1 -4.1
松川町				1町 12,732	2町村 13,399	2町村 16,470	1村 978	1村 4,585		2町村 13,710	3町村 17,984	2町村 16,470	-1 -8.4
高森町				5町村 37,475	5町村 37,174	4町村 35,142		1村 5,844	1村 914	5町村 37,475	6町村 43,018	5町村 36,056	-1 -16.2
阿智村(合併前)				3村 6,091	1村 380		1村 545	2村 5,487	2村 5,273	4村 6,636	3村 5,867	2村 5,273	-1 -10.1
旧木曾福島町(木曾町)			1町 5,419	2町村 7,525	5町村 13,044	4町村 6,841	4町村 8,562	1村 2,068	1村 1,947	6町村 16,087	6町村 15,112	6町村 14,207	0 -6.0
旧日義村(木曾町)				1村 2,185	1村 2,068	2村 3,012		1村 1,409		1村 2,185	2村 3,477	2村 3,012	0 -13.4
旧本城村(筑北村)				1村 1,623		1村 1,397		2村 3,048	2村 2,396	1村 1,623	2村 3,048	3村 3,793	1 24.4
山形村	1村 8,205		1村 8,244	2村 6,267	3村 13,091	1村 4,053	2町村 15,601	2町村 16,640	2町村 16,437	5町村 30,073	5町村 29,731	4町村 28,734	-1 -3.4
旧豊科町(安曇野市)	2町村 28,771	3町村 32,942	3町村 29,809	11町村 96,973	9町村 89,479	9町村 83,351	2市村 25,559	2村 3,238	3村 19,480	15市町村 151,303	14町村 125,659	15町村 132,640	1 5.6
旧穂高町(安曇野市)	1町 31,950	1町 32,374	2町 39,634	8町村 67,665	8町村 69,553	8町村 62,234	8市村 53,778	5市村 46,268	5市村 44,860	17市町村 153,393	14市町村 148,195	15市町村 146,728	1 -1.0
旧梓川村(松本市)				1村 12,271	2村 13,791	2村 13,623	1村 17,749	2町村 32,954	1村 17,777	2村 30,020	4町村 46,745	3村 31,400	-1 -32.8
池田町				1町 9,520	1町 9,264	1町 8,812	1村 9,590	2町村 17,202	2村 11,058	2町村 19,110	3町村 26,466	3町村 19,870	0 -24.9
白馬村				2村 11,226	2村 10,998	2村 10,847				2村 11,226	2村 10,998	2村 10,847	0 -1.4

(2) 地元滞留率（全品目平均）

＜市部＞

地元滞留率が90%を超えた市はなく、長野市（合併前）（86.2%）、飯田市（合併前）（84.9%）、松本市（合併前）（83.7%）、上田市（合併前）（82.1%）、佐久市（合併前）（81.5%）、伊那市（合併前）（80.5%）の6市が8割台となっている。

17市のうち、最も地元滞留率が低いのは、小諸市（34.5%）、次いで、大町市（合併前）（38.5%）、塩尻市（合併前）（39.5%）、須坂市（40.3%）、飯山市（41.0%）、旧更埴市（千曲市）（43.2%）、茅野市（47.5%）の7市は5割を割込んでいる。50%以上70%未満の市は、駒ヶ根市（54.4%）、岡谷市（59.9%）、中野市（合併前）（61.3%）、諏訪市（61.9%）の4市となる。（表6）。

前回調査と比較すると、地元滞留率が増加している市はなく、諏訪市は、増減がない。一方、16市は地元滞留率が減少している。特に、大町市（合併前）（△13.5ポイント）、飯山市（△6.4ポイント）、駒ヶ根市（△6.3ポイント）、岡谷市（△6.2ポイント）は減少率が5ポイントを超えている。

＜町村部＞

町村部では、旧豊科町（安曇野市）（54.0%）、旧穂高町（安曇野市）（52.2%）の2町で地元滞留率が50%を超えている。一方、50%未満の町村は、97町村であった（表5）。

前回調査に比べ、増加したのは28町村となる。このうち、最も増加した町村は、旧上山田町（千曲市）（+10.8ポイント）と1町が10ポイントを超える増加となった。

反対に減少したのは、53町村となる。このうち、10ポイント以上の減少となったのは、旧安曇村（松本市）（△15.7ポイント）、旧梓川村（松本市）（△12.4ポイント）の2村であった（表6）。

94町村で地元滞留率が30%未満となっており、地元滞留率が低い町村が大半を占めている状況は変わらない。

表5 地元滞留率別町村数の推移

調査年度	90%以上	70%以上 90%未満	50%以上 70%未満	30%以上 50%未満	30%未満	町村数	摘要
平成9年度	0	0	4	19	80	103	H17 山口村・ 岐阜県中津川市 に編入
12年度	0	0	4	14	85	103	
15年度	0	0	3	13	87	103	
18年度	0	0	3	8	91	102	
21年度	0	0	3	10	88	※1 101	
24年度	0	0	2	9	91	102	
27年度	0	0	3	6	92	※2 101	
30年度	0	0	3	3	95	※3 101	
令和3年度	0	0	2	2	98	102	
6年度	0	0	2	3	94	※4 99	

※1 高遠町は含まない ※2 旧上村（飯田市）は含まない ※3 旧大岡村（長野市）は含まない

※4 平谷村、天龍村、旧大岡村（長野市）は含まない

表6 地元滞留率と増減（前回調査比）《全品目平均》

	減 小				増減なし ±0ポイント	増 加				合計
	10ポイント以上	10ポイント未満 5ポイント以上	5ポイント未満 2ポイント以上	2ポイント未満 0ポイント超		2ポイント未満 0ポイント超	5ポイント未満 2ポイント以上	10ポイント未満 5ポイント以上	10ポイント以上	
90%以上										0
80%以上			長野市(合併前) 松本市(合併前) 上田市(合併前) 飯田市(合併前) 佐久市(合併前)	伊那市(合併前)						6
70%以上										0
60%以上			中野市(合併前)		諏訪市					2
50%以上		岡谷市 駒ヶ根市		旧穂高町(安曇野市)			旧豊科町(安曇野市)			4
40%以上		飯山市 旧更埴市(千曲市) 箕輪町	茅野市	須坂市						5
30%以上	大町市(合併前)	小諸市 塩尻市(合併前)						旧木曾福島町(木曾町) 山形村		5
20%以上		旧臼田町(佐久市)	経井沢町 立科町 旧丸子町(上田市) 富士見町	旧東部町(東御市) 高森町 池田町		白馬村	旧佐久町(佐久穂町) 旧堀金村(安曇野市) 旧戸倉町(千曲市)		旧上山田町(千曲市)	13
10%以上	旧梓川村(松本市)	信濃町	御代田町 下諏訪町 辰野町 大桑村	小海町 旧三郷村(安曇野市) 小布施町		豊丘村 旧日義村(木曾町) 旧信州新町(長野市)	宮田村 松川町	旧豊野町(長野市)		15
10%未満	旧安曇村(松本市)	旧楮川村(塩尻市) 旧坂北村(筑北村)	川上村 旧武石村(上田市) 南箕輪村 阿南町 根羽村 南木曾町 木垣村 旧波田町(松本市) 松川村 坂城町 旧戸隠村(長野市) 旧豊田村(中野市)	旧望月町(佐久市) 旧北御牧村(東御市) 旧長門町(長和町) 青木村 原村 旧高遠町(伊那市) 中川村 下條村 旧南信濃村(飯田市) 上松町 麻績村 旧坂井村(筑北村) 生坂村 朝日村 高山村 山ノ内町 木島平村 旧牟礼村(飯綱町) 小川村	旧真田町(上田市) 南相木村 北相木村 旧長谷村(伊那市) 飯島町 旧清内路村(阿智村) 旧浪合村(阿智村) 売木村 秦阜村 大鹿村 旧上村(飯田市) 旧三岳村(木曾町) 王滝村 旧四賀村(松本市) 旧奈川村(松本市) 旧八坂村(大町市) 旧鬼無里村(長野市) 旧中条村(長野市)	阿智村(合併前) 喬木村 旧開田村(木曾町) 小谷村 野沢温泉村 栄村	南牧村 旧八千穂村(佐久穂町) 旧和田村(長和町) 旧明科町(安曇野市) 旧本城村(筑北村) 旧三水村(飯綱町)	旧浅科村(佐久市) 旧美麻村(大町市)		66
合計	3	11	27	28	19	10	12	5	1	116

地元滞留率

※平谷村、天龍村、旧大岡村(長野市)はデータがないため表記なし

(3) 吸引人口（全品目平均）

《市部》

10 万人以上の吸引人口を有する市は、長野市（合併前）（388 千人）、松本市（合併前）（273 千人）、上田市（合併前）（152 千人）、佐久市（合併前）（131 千人）、飯田市（合併前）（112 千人）の 5 市であった。

5 万人以上 10 万人未満を吸引する市は、伊那市（合併前）（80 千人）、諏訪市（51 千人）の 2 市であった。

前回調査と比べて増加した市は無く、17 市全てが減少していた。特に減少幅が大きかったのは、大町市（合併前）（11 千人）で△29.9 ポイントであった。次に、塩尻市（合併前）（29 千人）△15.1 ポイント、茅野市（35 千人）△14.2 ポイント、旧更埴市（千曲市）（21 千人）△13.7 ポイント、小諸市（17 千人）△13.2 ポイント、岡谷市（44 千人）△12.8 ポイント、駒ヶ根市（24 千人）△12.1 ポイント、飯山市（12 千人）△11.6 ポイント、飯田市（合併前）（112 千人）△10.7 ポイントとなっている（表 7）。

《町村部》

2 万人以上の吸引人口を有するのは、前回と同数で、旧穂高町（安曇野市）（33 千人）、旧豊科町（安曇野市）（33 千人）の 2 町となる。前回調査と比較して、旧穂高町（安曇野市）で 1.5 ポイント、旧豊科町（安曇野市）で 0.5 ポイントの増加となっている（表 7）。

(4) 吸引力係数（全品目平均）

吸引力係数が 100%を超える市町村は、居住人口より吸引人口が大きく、その地域商業における中核的な役割を果たしていると考えられる。

市部で 100%を超えたのは、佐久市（合併前）（185.1%）、伊那市（合併前）（139.3%）、松本市（合併前）（133.5%）、上田市（合併前）（129.6%）、飯田市（合併前）（122.0%）、長野市（合併前）（113.0%）、中野市（合併前）（108.6%）、諏訪市（107.7%）の 8 市である。

前回調査と比較して、吸引力係数が増加している市は無かった。

町村部では、旧豊科町（安曇野市）（120.7%）、旧穂高町（安曇野市）（101.8%）の 2 町で吸引力係数が 100%を超えた。

前回調査と比較して、旧豊科町（安曇野市）で 1.6 ポイント、旧穂高町（安曇野市）では 2.4 ポイントの増加となっている。（表 8）。

表7 吸引人口と増減（前回調査比）《全品目平均》

	吸引人口	減 少				増減なし±0	増 加				合計
		50ポイント以上	50ポイント未満 10ポイント以上	10ポイント未満 5ポイント以上	5ポイント未満 0ポイント超		5ポイント未満 0ポイント超	10ポイント未満 5ポイント以上	50ポイント未満 10ポイント以上	50ポイント以上	
10万人以上			飯田市(合併前)	長野市(合併前) 松本市(合併前) 上田市(合併前)	佐久市(合併前)						5
5万人以上				諏訪市 伊那市(合併前)							2
2万人以上			岡谷市 駒ヶ根市 茅野市 塩尻市(合併前) 旧更埴市(千曲市)	須坂市 中野市(合併前)			旧豊科町(安曇野市) 旧穂高町(安曇野市)				9
1万人以上			小諸市 大町市(合併前) 飯山市	箕輪町							4
5千人以上			高森町	旧丸子町(上田市)	旧東部町(東御市)		軽井沢町		山形村		5
2千人以上			旧臼田町(佐久市) 旧佐久町(佐久穂町) 御代田町 立科町 下諏訪町 富士見町 辰野町 松川町 旧梓川村(松本市)	池田町			白馬村 旧戸倉町(千曲市)	旧木曾福島町(木曾町)	旧三郷村(安曇野市)	旧堀金村(安曇野市)	15
1千人以上			旧波田町(松本市) 坂城町 信濃町	小布施町	南箕輪村					旧上山田町(千曲市) 旧豊野町(長野市)	7
500人以上			旧日義村(木曾町) 大桑村 松川村		旧真田町(上田市)	旧浅科村(佐久市)			小海町 豊丘村 旧牟礼村(飯綱町)	宮田村 旧明科町(安曇野市)	10
100人以上	南木曾町		川上村 旧望月町(佐久市) 旧北御牧村(東御市) 旧武石村(上田市) 原村 旧坂北村(筑北村) 山ノ内町 旧信州新町(長野市)	飯島町 阿智村(合併前)	中川村 麻績村		旧高遠町(伊那市)		喬木村 旧本城村(筑北村)	南牧村 旧八千穂村(佐久穂町) 旧三水村(飯綱町)	19
100人未満	旧長門町(長和町) 青木村 阿南町 根羽村 下條村 旧南信濃村(飯田市) 旧穂川村(塩尻市) 木祖村 旧三岳村(木曾町) 旧坂井村(筑北村) 生坂村 朝日村 旧安曇村(松本市) 高山村 木島平村 旧戸隠村(長野市) 小川村 旧豊田村(中野市)	上松町			南相木村 北相木村 旧和田村(長和町) 旧長谷村(伊那市) 旧清内路村(阿智村) 旧浪合村(阿智村) 売木村 泰阜村 大鹿村 旧上村(飯田市) 旧開田村(木曾町) 王滝村 旧四賀村(松本市) 旧奈川村(松本市) 旧八坂村(大町市) 旧美麻村(大町市) 小谷村 旧鬼無里村(長野市) 旧中条村(長野市) 栗村			野沢温泉村		40	
合計		19	34	13	6	21	6	1	8	8	116

※平谷村、天龍村、旧大岡村(長野市)はデータがないため表記なし

表8 吸引力係数と増減（前回調査比）《全品目平均》

吸引力係数	減少				増減なし ±0ポイント	増加				合計
	50ポイント以上	50ポイント未満 10ポイント以上	10ポイント未満 5ポイント以上	5ポイント未満 0ポイント超		5ポイント未満 0ポイント超	10ポイント未満 5ポイント以上	50ポイント未満 10ポイント以上	50ポイント以上	
130以上			松本市(合併前) 伊那市(合併前)	佐久市(合併前)						3
100以上			上田市(合併前) 飯田市(合併前) 諏訪市 中野市(合併前)	長野市(合併前)		旧豊科町(安曇野市) 旧穂高町(安曇野市)				7
80以上		岡谷市								1
50以上		高森町	駒ヶ根市 茅野市 旧更埴市(千曲市) 箕輪町	飯山市			旧木曾福島町(木曾町) 山形村			8
40以上		大町市(合併前)	小諸市 塩尻市(合併前)	須坂市						4
30以上		旧梓川村(松本市)	旧佐久町(佐久穂町)	軽井沢町 立科町 旧東部町(東御市) 富士見町 旧日義村(木曾町) 池田町			旧堀金村(安曇野市)			9
20以上		旧臼田町(佐久市)		旧丸子町(上田市) 松川町		旧三郷村(安曇野市) 白馬村 旧戸倉町(千曲市)	小海町	旧本城村(筑北村) 旧上山田町(千曲市)		9
10以上			下諏訪町 信濃町	御代田町 辰野町 南箕輪村 大桑村 坂城町 小布施町 旧信州新町(長野市)		宮田村	豊丘村 旧豊野町(長野市)			12
10未満		旧安曇村(松本市)	旧望月町(佐久市) 旧楢川村(塩尻市) 旧坂北村(筑北村) 松川村	川上村 旧北御牧村(東御市) 旧長門町(長和町) 旧真田町(上田市) 旧武石村(上田市) 青木村 原村 中川村 飯島町 阿南町 阿智村(合併前) 根羽村 下條村 旧南信濃村(飯田市) 上松町 南木曾町 木祖村 旧三岳村(木曾町) 旧波田町(松本市) 旧坂井村(筑北村) 生坂村 朝日村 高山村 山ノ内町 木島平村 旧戸隠村(長野市) 小川村 旧豊田村(中野市)	南相木村 北相木村 飯島町 旧長谷村(伊那市) 旧清内路村(阿智村) 旧浪合村(阿智村) 壳木村 泰阜村 大鹿村 旧上村(飯田市) 玉滝村 旧四賀村(松本市) 旧奈川村(松本市) 旧八坂村(大町市) 旧鬼無里村(長野市) 旧中条村(長野市)	南牧村 旧和田村(長和町) 旧高遠町(伊那市) 喬木村 旧開田村(木曾町) 旧明科町(安曇野市) 麻績村 小谷村 野沢温泉村 旧牟礼村(飯綱町) 旧三水村(飯綱町) 栄村	旧八千穂村(佐久穂町) 旧湊科村(佐久市) 旧美麻村(大町市)		63	
合計	0	6	19	46	16	18	8	3	0	116

※平谷村、天龍村、旧大岡村(長野市)はデータがないため表記なし

2 地域別商圈動向

(1) 北信地区 (図5、図6、図7)

図5 地元滞留率と増減 (北信地区) 《全品目平均》

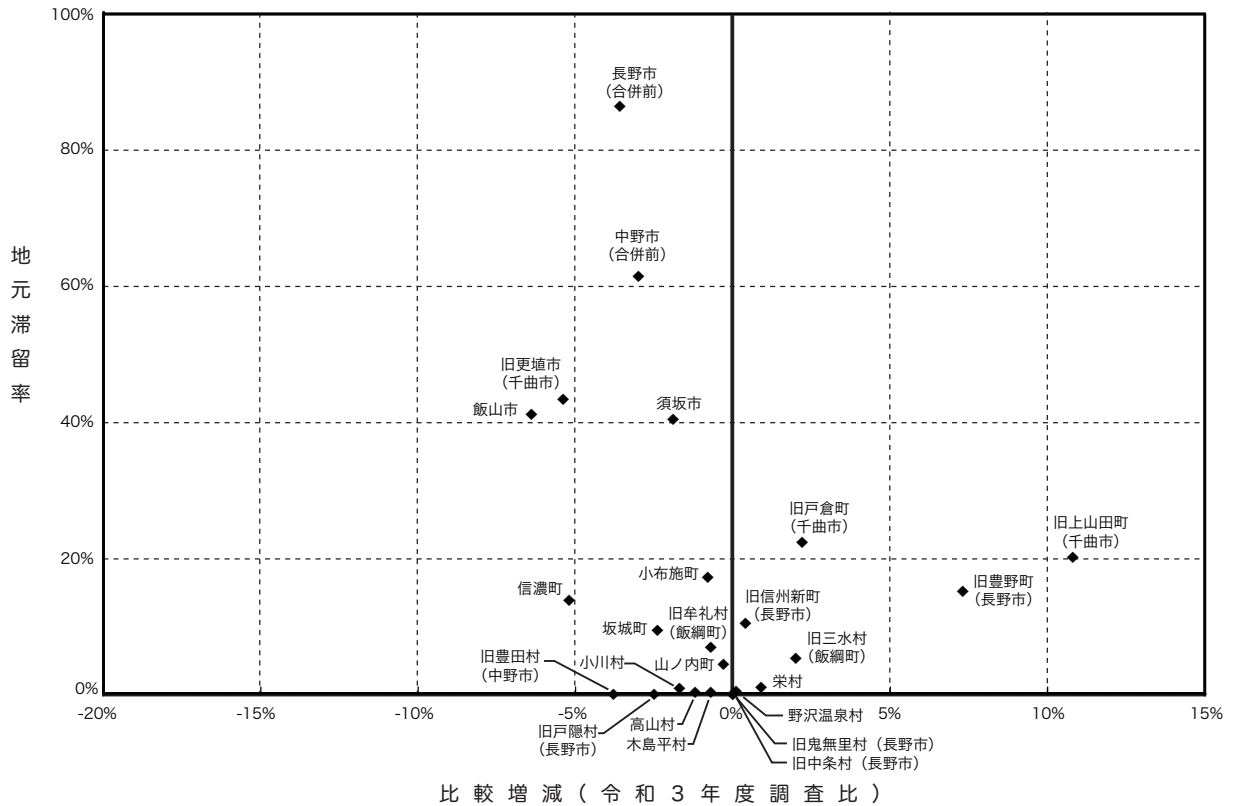


図6 吸引力係数と増減 (北信地区) 《全品目平均》

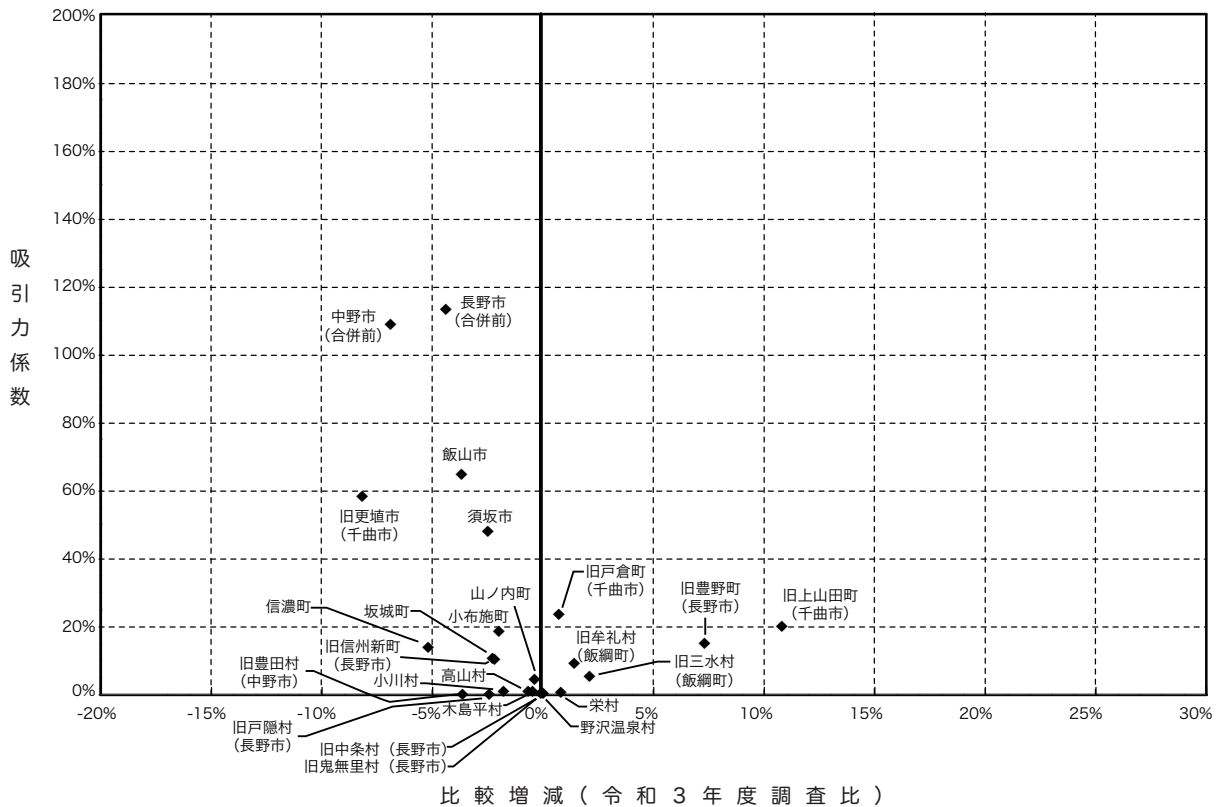
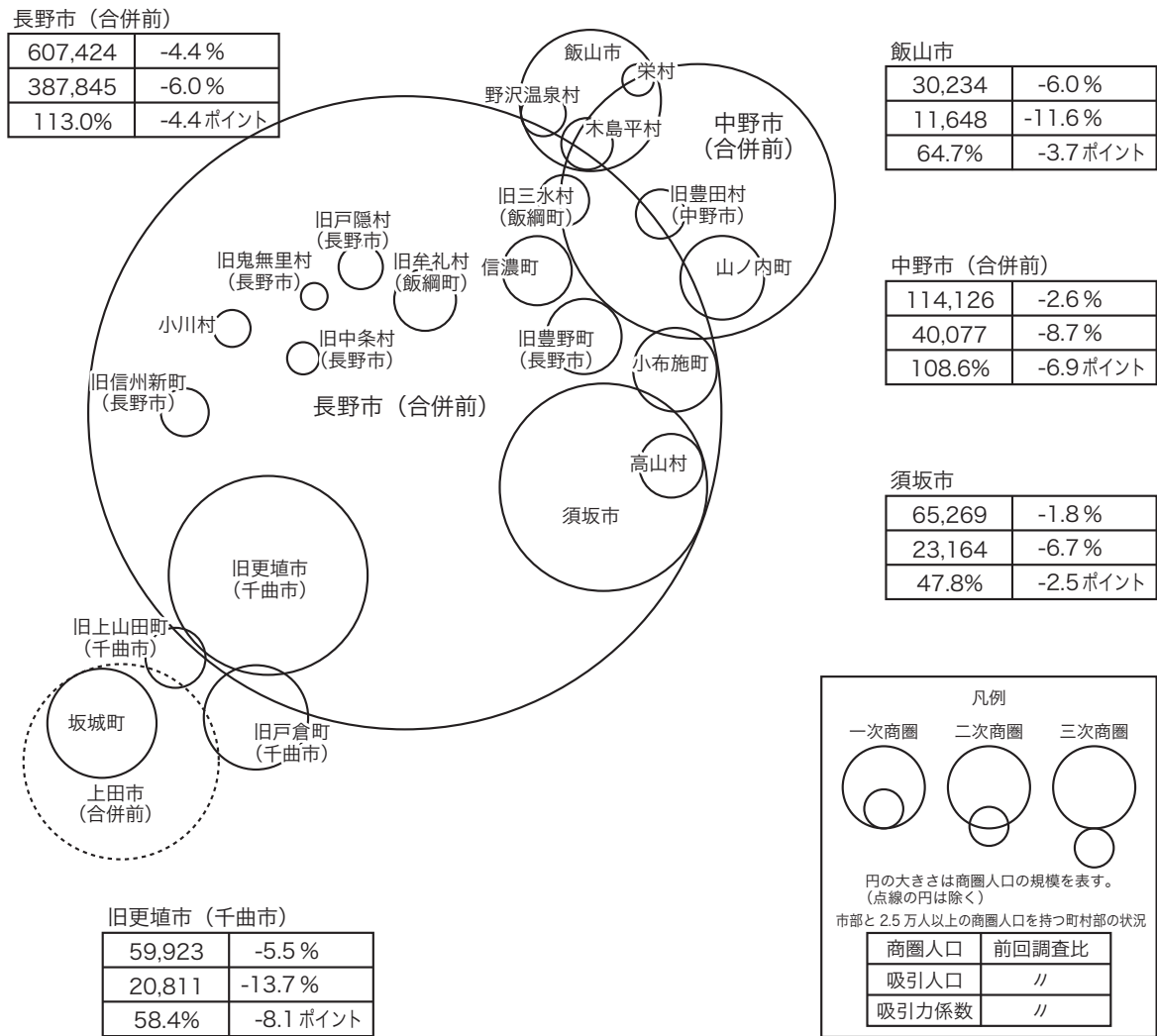


図7 北信地区の商圈構造（概念図）《全品目平均》



(注) 図表の制約上、一部に凡例と一致しない箇所がある。

- ・長野市（合併前）は、どの商圈にも含まれていない。
- ・須坂市は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・中野市（合併前）は、長野市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・飯山市は、長野市（合併前）・中野市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・旧更埴市（千曲市）は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧上山田町（千曲市）は、上田市（合併前）の一次商圈、旧更埴市（千曲市）の二次商圈、長野市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・旧大岡村はデータがない。
- ・坂城町は、上田市（合併前）の一次商圈、長野市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・旧戸倉町（千曲市）は、旧更埴市（千曲市）・長野市（合併前）・上田市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・小布施町は、長野市（合併前）の一次商圈、中野市（合併前）・須坂市の二次商圈に含まれる。
- ・高山村は、須坂市・長野市（合併前）の一次商圈、中野市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・山ノ内町は、中野市（合併前）の一次商圈、長野市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・木島平村は、飯山市の一次商圈、長野市（合併前）・中野市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・野沢温泉村は、飯山市の一次商圈、中野市（合併前）・長野市

- （合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・旧信州新町（長野市）は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧豊野町（長野市）は、長野市（合併前）の一次商圈、中野市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・信濃町は、長野市（合併前）の一次商圈、中野市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・旧牟礼村（飯綱町）は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧三水村（飯綱町）は、長野市（合併前）の一次商圈、中野市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・旧戸隠村（長野市）は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧鬼無里村（長野市）は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・小川村は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧中条村（長野市）は、長野市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧豊田村（中野市）は、中野市（合併前）の一次商圈、長野市（合併前）・飯山市の二次商圈に含まれる。
- ・栄村は、飯山市の一次商圈、中野市（合併前）の二次商圈、長野市（合併前）の三次商圈に含まれる。

北信地区の5市の、《全品目平均》《衣料品》《飲食料品》について、商圏の概念を記載した。ただし、商圏人口2.5万人未満の町村については、《全品目平均》のみとした。

長野市（合併前）

《全品目平均》（図8、図9、図10）

- (ア) 商 圏 人 口 607,424 人（前回調査比△4.4%）
- (イ) 商圏内市町村数 28 市町村（前回調査比△3）
- (ウ) 長野市（合併前）商圏から外れた市町村
旧真田町（上田市）、旧本城村（筑北村）
旧大岡村（長野市）（データなし）
- (エ) 新たに長野市（合併前）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 86.2%（前回調査比△3.6ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸引人口 387,845 人（前回調査比△6.0%）
- (ク) 吸引力係数 113.0%（前回調査比△4.4ポイント）

《衣料品》（図11）

- (ア) 商 圏 人 口 599,701 人（前回調査比△2.3%）
- (イ) 商圏内市町村数 25 市町村（前回調査△5）
- (ウ) 長野市（合併前）商圏から外れた市町村
旧本城村（筑北村）、旧坂北村（筑北村）
旧美麻村（大田市）、旧上山田町（千曲市）、栄村
旧大岡村（長野市）（データなし）
- (エ) 新たに長野市（合併前）商圏に加わった市町村
坂城町（吸引率6.6%）
- (オ) 地元滞留率 81.9%（前回調査比△6.1ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸引人口 387,689 人（前回調査比△7.7%）
- (ク) 吸引力係数 112.9%（前回調査比△6.5ポイント）

《飲食料品》（図12）

- (ア) 商 圏 人 口 428,229 人（前回調査比△12.9%）
- (イ) 商圏内市町村数 11 市町村（前回調査比△6）
- (ウ) 長野市（合併前）商圏から外れた市町村
旧更埴市（千曲市）、旧本城村（筑北村）
麻績村、旧美麻村（大田市）、小布施町
旧大岡村（長野市）（データなし）
- (エ) 新たに長野市（合併前）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 97.9%（前回調査比±0ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸引人口 366,193 人（前回調査比△3.4%）
- (ク) 吸引力係数 106.7%（前回調査比△1.1ポイント）

図8 商圈人口と吸引人口(長野市(合併前))
 《全品目平均》

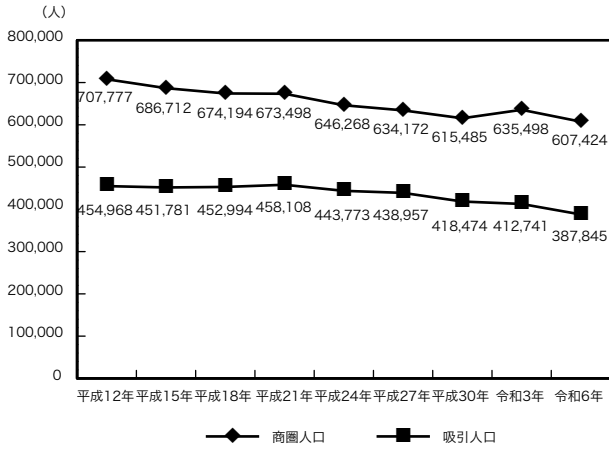


図9 地元滞留率と吸引力係数(長野市(合併前))
 《全品目平均》

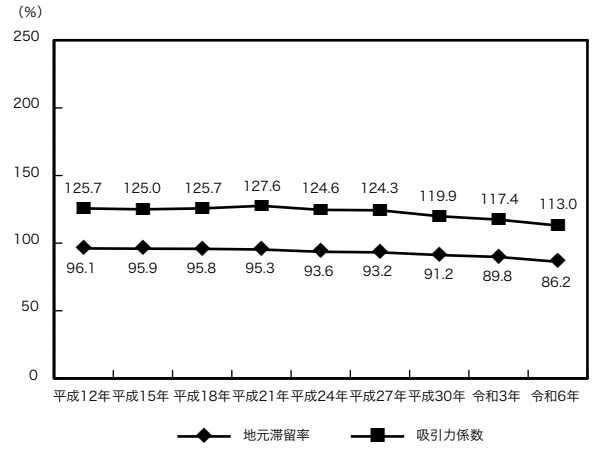


図10 長野市(合併前) 商圈 《全品目平均》

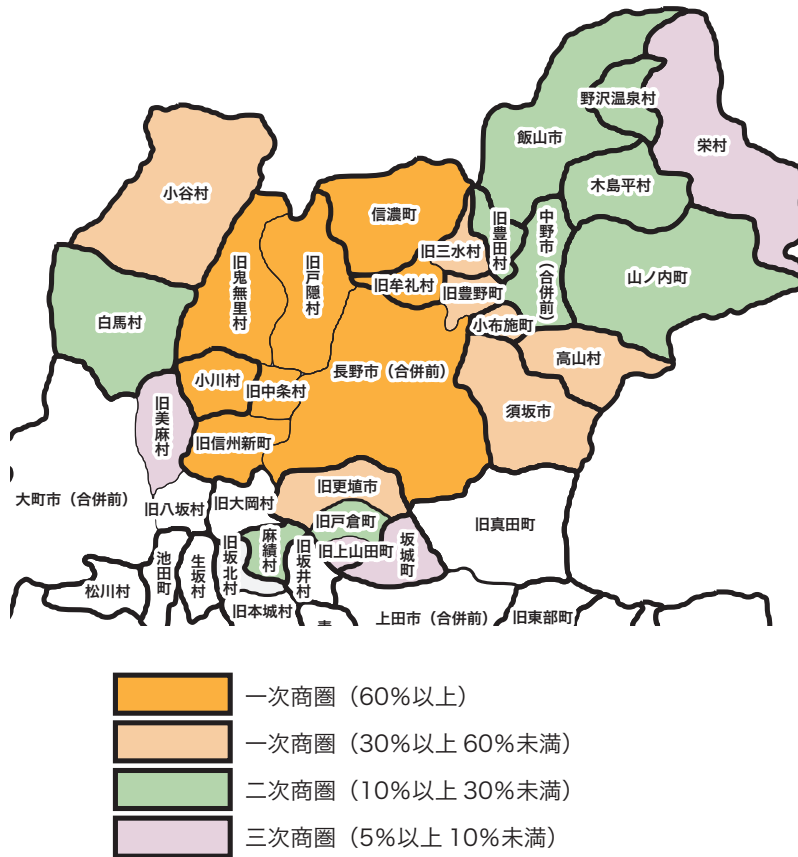


图 11 長野市（合併前）商圈 《衣料品》

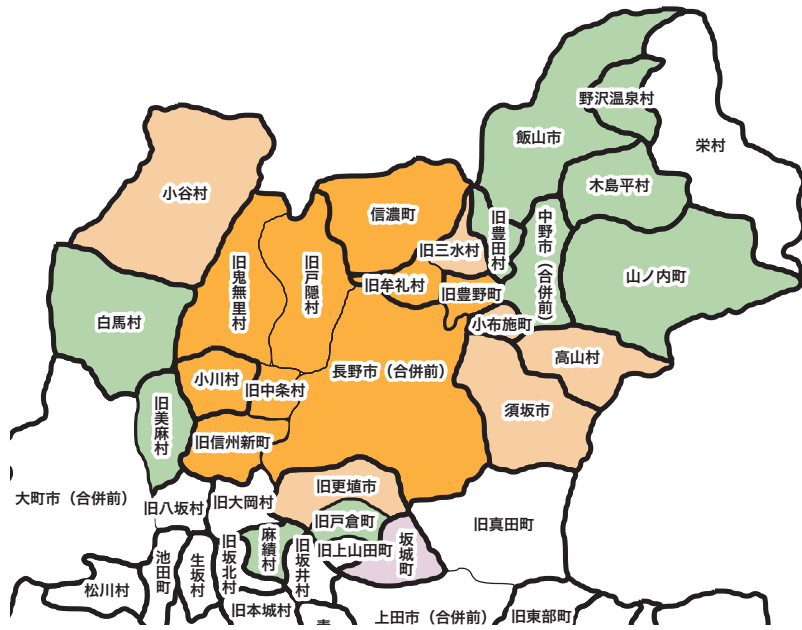
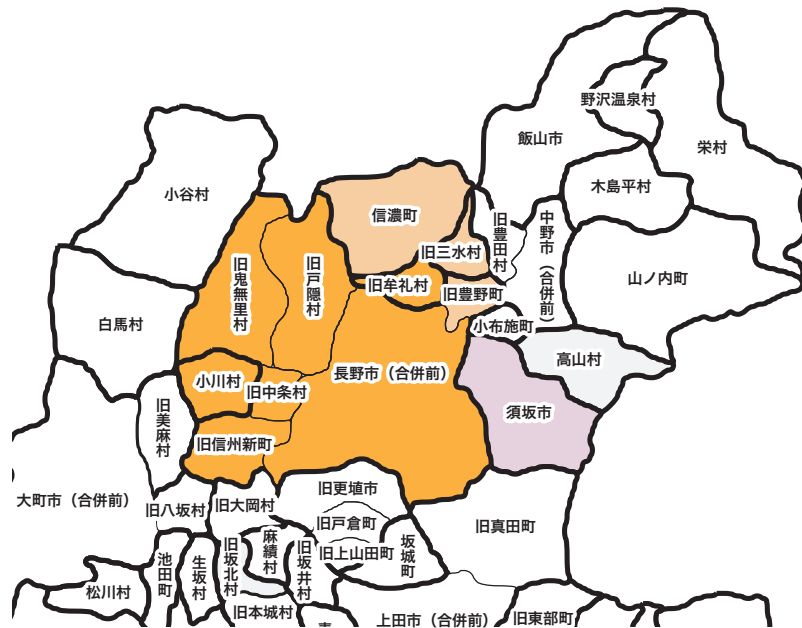


图 12 長野市（合併前）商圈 《飲食料品》



- 一次商圈（60%以上）
- 一次商圈（30%以上 60%未満）
- 二次商圈（10%以上 30%未満）
- 三次商圈（5%以上 10%未満）

須坂市

《全品目平均》（図 13、図 14、図 15）

(ア) 商 圏 人 口	65,269 人（前回調査比△1.8%）
(イ) 商圏内市町村数	3 市町村（前回調査比±0）
(ウ) 須坂市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに須坂市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	40.3%（前回調査比△1.9 ポイント）
(カ) 主な流出先	長野市（合併前）（流出率 44.6%）
(キ) 吸 引 人 口	23,164 人（前回調査比△6.7%）
(ク) 吸引力係数	47.8%（前回調査比△2.5 ポイント）

《衣料品》（図 16）

(ア) 商 圏 人 口	73,796 人（前回調査比+11.0%）
(イ) 商圏内市町村数	4 市町村（前回調査比+1）
(ウ) 須坂市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに須坂市商圏に加わった市町村	旧豊野町（長野市）（吸引率 6.9%）
(オ) 地元滞留率	29.4%（前回調査比+1.5 ポイント）
(カ) 主な流出先	長野市（合併前）（流出率 54.9%）
(キ) 吸 引 人 口	17,364 人（前回調査比+0.1%）
(ク) 吸引力係数	35.8%（前回調査比+0.6 ポイント）

《飲食料品》（図 17）

(ア) 商 圏 人 口	65,269 人（前回調査比△7.1%）
(イ) 商圏内市町村数	3 市町村（前回調査比△1）
(ウ) 須坂市商圏から外れた市町村	旧豊田村（中野市）
(エ) 新たに須坂市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	87.5%（前回調査比△5.6 ポイント）
(カ) 主な流出先	長野市（合併前）（流出率 7.9%）
(キ) 吸 引 人 口	47,893 人（前回調査比△5.4%）
(ク) 吸引力係数	98.8%（前回調査比△3.8 ポイント）

图 13 商圈人口と吸引人口（須坂市）
《全品目平均》

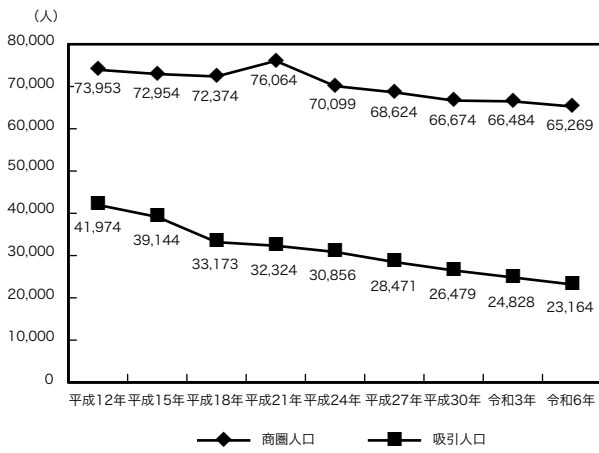


图 14 地元滞留率と吸引力係数（須坂市）
《全品目平均》

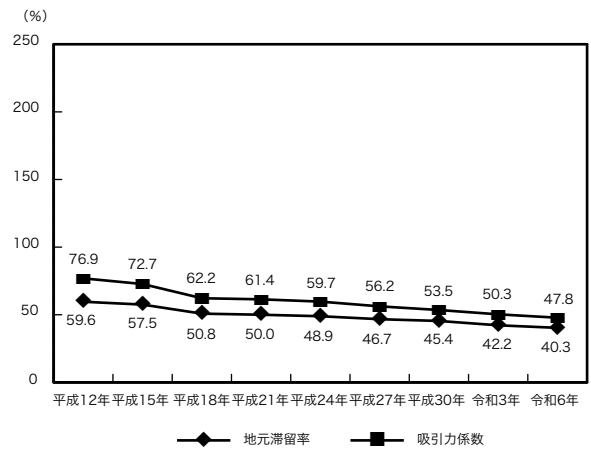


图 15 須坂市商圈 《全品目平均》



图 16 須坂市商圈 《衣料品》

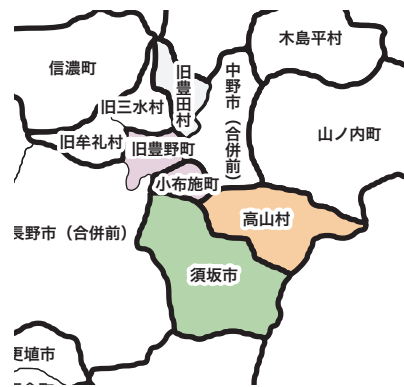
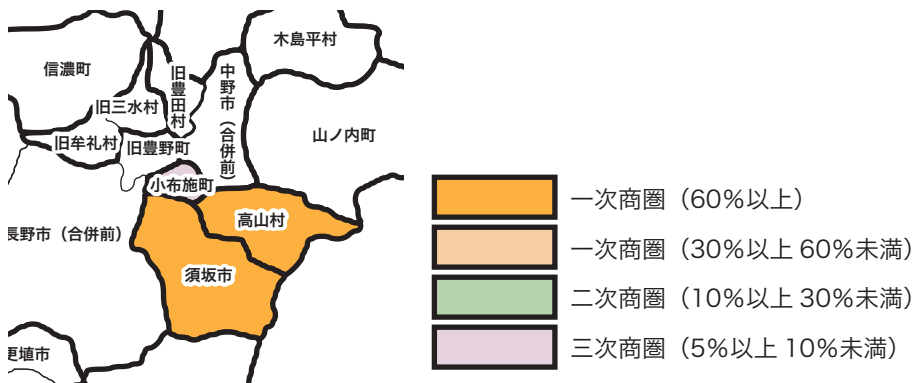


图 17 須坂市商圈 《飲食料品》



中野市（合併前）

《全品目平均》（図 18、図 19、図 20）

（ア）商 圏 人 口	114,126 人（前回調査比△2.6%）
（イ）商圏内市町村数	12 市町村（前回調査比±0）
（ウ）中野市（合併前）商圏から外れた市町村	旧牟礼村（飯綱町）
（エ）新たに中野市（合併前）商圏に加わった市町村	信濃町（吸引率6.2%）
（オ）地元滞留率	61.3%（前回調査比△3.0ポイント）
（カ）主な流出先	長野市（合併前）（流出率21.9%）
（キ）吸 引 人 口	40,077 人（前回調査比△8.7%）
（ク）吸 引 力 係 数	108.6%（前回調査比△6.9ポイント）

《衣料品》（図 21）

（ア）商 圏 人 口	119,901 人（前回調査比+6.0%）
（イ）商圏内市町村数	13 市町村（前回調査比+2）
（ウ）中野市（合併前）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに中野市（合併前）商圏に加わった市町村	信濃町（吸引率6.5%） 旧三水村（飯綱町）（吸引率31.4%）
（オ）地元滞留率	54.2%（前回調査比△7.8ポイント）
（カ）主な流出先	長野市（合併前）（流出率26.3%）
（キ）吸 引 人 口	42,352 人（前回調査比△15.5%）
（ク）吸 引 力 係 数	114.7%（前回調査比△17.2ポイント）

《飲食料品》（図 22）

（ア）商 圏 人 口	108,610 人（前回調査比+26.3%）
（イ）商圏内市町村数	10 市町村（前回調査比+1）
（ウ）中野市（合併前）商圏から外れた市町村	木島平村、旧牟礼村（飯綱町）、栄村
（エ）新たに中野市（合併前）商圏に加わった市町村	飯山市（吸引率6.0%） 野沢温泉村（吸引率6.3%） 旧豊野町（長野市）（吸引率11.4%） 信濃町（吸引率12.9%）
（オ）地元滞留率	95.0%（前回調査比+1.7ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸 引 人 口	54,325 人（前回調査比△2.3%）
（ク）吸 引 力 係 数	147.2%（前回調査比+0.8ポイント）

図 18 商圈人口と吸引人口(中野市(合併前))
《全品目平均》

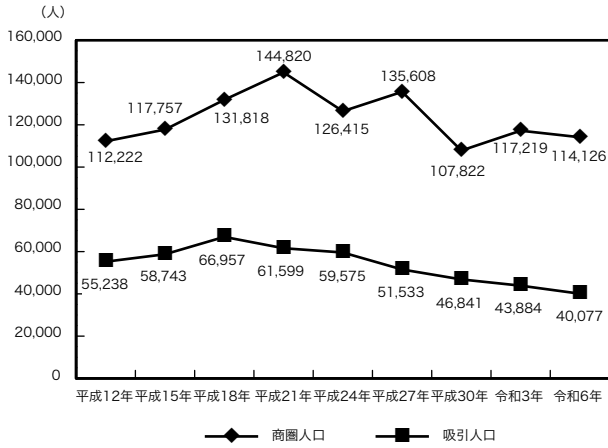


図 19 地元滞留率と吸引力係数(中野市(合併前))
《全品目平均》

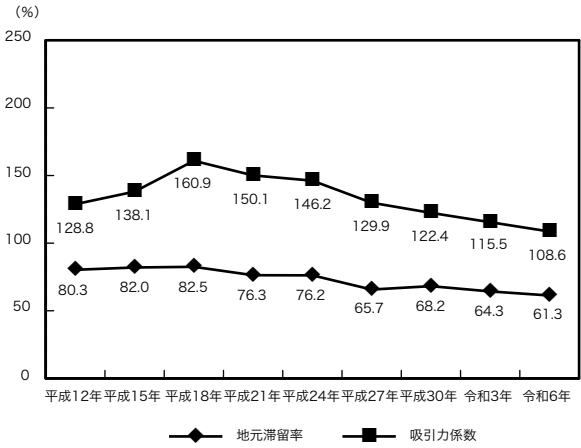


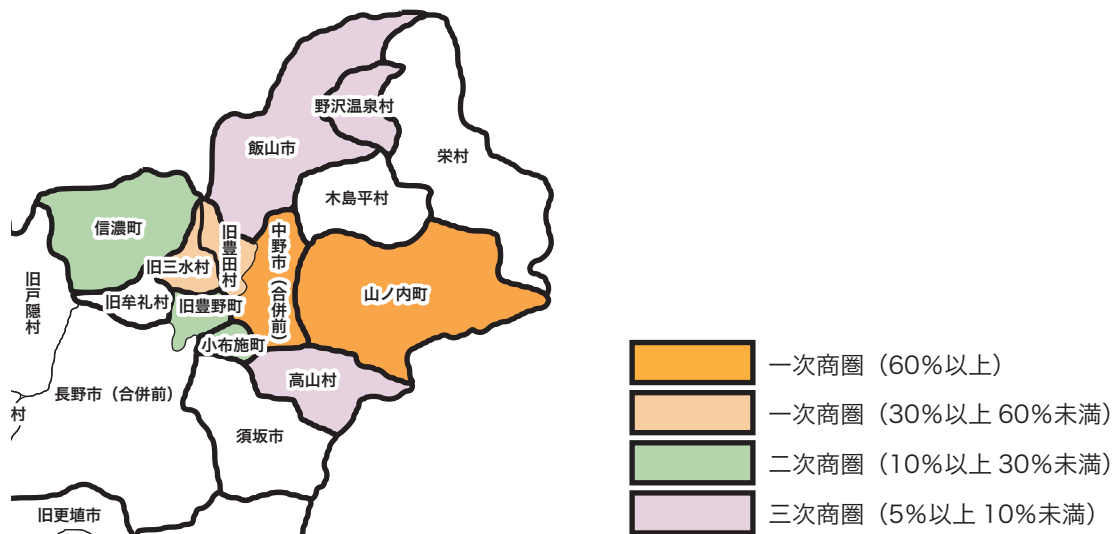
図 20 中野市(合併前) 商圈 《全品目平均》



図 21 中野市(合併前) 商圈 《衣料品》



図 22 中野市(合併前) 商圈 《飲食料品》



飯山市

《全品目平均》（図 23、図 24、図 25）

- (ア) 商 圏 人 口 30,234 人（前回調査比△6.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 5 市村（前回調査比±0）
- (ウ) 飯山市商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに飯山市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 41.0%（前回調査比△6.4 ポイント）
- (カ) 主な流出先 長野市（合併前）（流出率 23.9%）、
中野市（合併前）（流出率 15.6%）
- (キ) 吸 引 人 口 11,648 人（前回調査比△11.6%）
- (ク) 吸引力係数 64.7%（前回調査比△3.7 ポイント）

《衣料品》（図 26）

- (ア) 商 圏 人 口 30,234 人（前回調査比△6.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 5 市村（前回調査比±0）
- (ウ) 飯山市商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに飯山市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 30.1%（前回調査比△0.7 ポイント）
- (カ) 主な流出先 長野市（合併前）（流出率 27.8%）、
中野市（合併前）（流出率 23.0%）
- (キ) 吸 引 人 口 8,786 人（前回調査比△5.5%）
- (ク) 吸引力係数 48.8%（前回調査比+0.5 ポイント）

《飲食料品》（図 27）

- (ア) 商 圏 人 口 37,466 人（前回調査比+3.4%）
- (イ) 商圏内市町村数 6 市町村（前回調査比±0）
- (ウ) 飯山市商圏から外れた市町村
旧三水村（飯綱町）
- (エ) 新たに飯山市商圏に加わった市町村
信濃町（吸引率 6.5%）
- (オ) 地元滞留率 86.9%（前回調査比△8.7 ポイント）
- (カ) 主な流出先 中野市（合併前）（流出率 6.0%）
- (キ) 吸 引 人 口 25,229 人（前回調査比△7.8%）
- (ク) 吸引力係数 140.2%（前回調査比△1.9 ポイント）

図 23 商圈人口と吸引人口（飯山市）
《全品目平均》

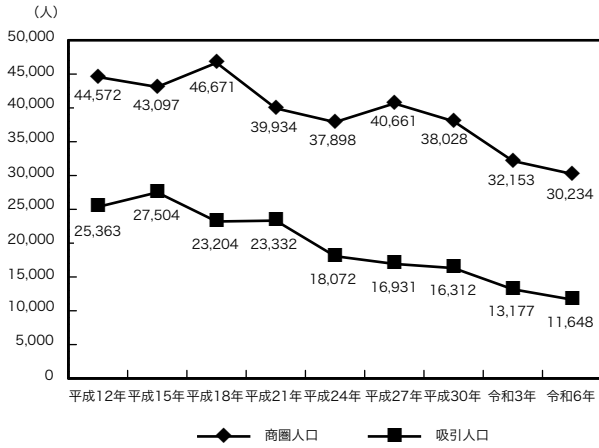


図 24 地元滞留率と吸引力係数（飯山市）
《全品目平均》

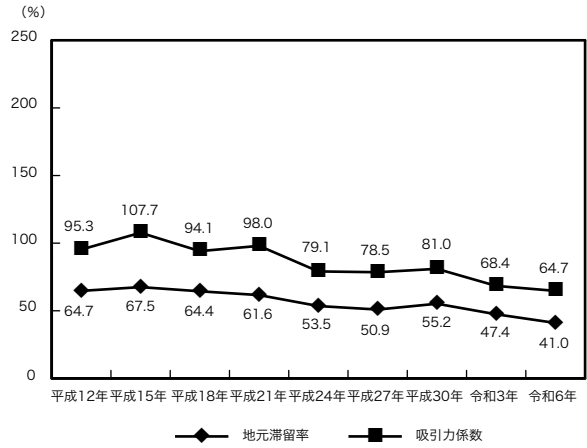


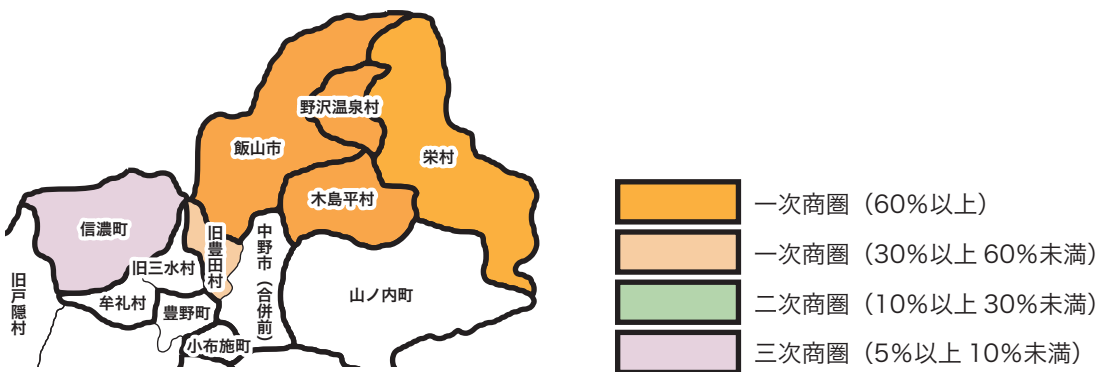
図 25 飯山市商圈 《全品目平均》



図 26 飯山市商圈 《衣料品》



図 27 飯山市商圈 《飲食料品》



旧更埴市（千曲市）

《全品目平均》（図 28、図 29、図 30）

- (ア) 商 圏 人 口 59,923 人（前回調査比△5.5%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比△2）
- (ウ) 旧更埴市（千曲市）商圏から外れた市町村
旧坂北村（筑北村）
旧大岡村（長野市）（データなし）
- (エ) 新たに旧更埴市（千曲市）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 43.2%（前回調査比△5.4 ポイント）
- (カ) 主な流出先 長野市（合併前）（流出率 40.3%）
- (キ) 吸 引 人 口 20,811 人（前回調査比△13.7%）
- (ク) 吸引力係数 58.4%（前回調査比△8.1 ポイント）

《衣料品》（図 31）

- (ア) 商 圏 人 口 59,923 人（前回調査比△1.6%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比△1）
- (ウ) 旧更埴市（千曲市）商圏から外れた市町村
旧坂北村（筑北村）
旧大岡村（長野市）（データなし）
- (エ) 新たに旧更埴市（千曲市）商圏に加わった市町村
麻績村（吸引率 10.3%）
- (オ) 地元滞留率 26.6%（前回調査比△8.6 ポイント）
- (カ) 主な流出先 長野市（合併前）（流出率 50.4%）、
- (キ) 吸 引 人 口 15,342 人（前回調査比△17.8%）
- (ク) 吸引力係数 43.0%（前回調査比△8.5 ポイント）

《飲食料品》（図 32）

- (ア) 商 圏 人 口 59,923 人（前回調査比△21.4%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比△2）
- (ウ) 旧更埴市（千曲市）商圏から外れた市町村
旧坂北村（筑北村）、坂城町
- (エ) 新たに旧更埴市（千曲市）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 95.9%（前回調査比+2.6 ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸 引 人 口 41,422 人（前回調査比△2.0%）
- (ク) 吸引力係数 116.1%（前回調査比△0.4 ポイント）

图 28 商圈人口と吸引人口(旧更埴市(千曲市))
《全品目平均》

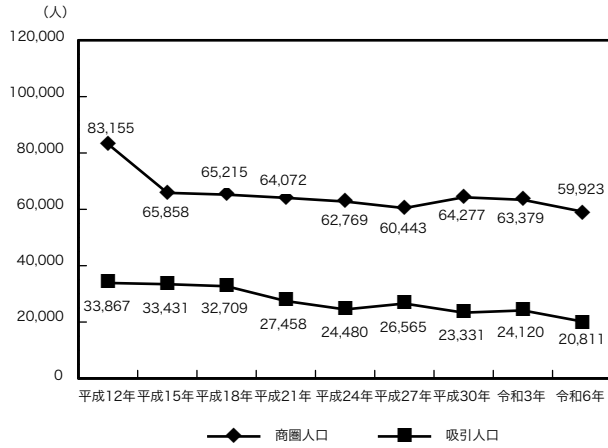


图 29 地元滞留率と吸引力係数(旧更埴市(千曲市))
《全品目平均》

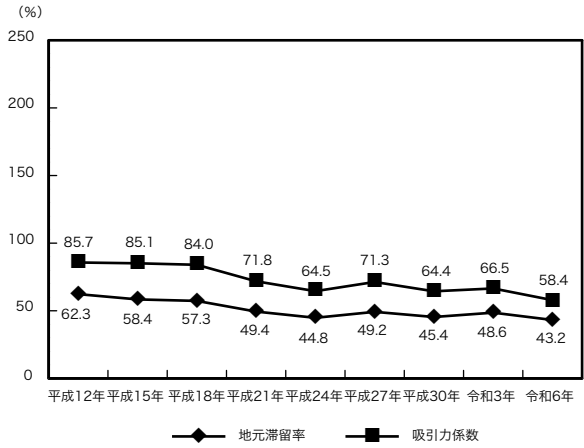


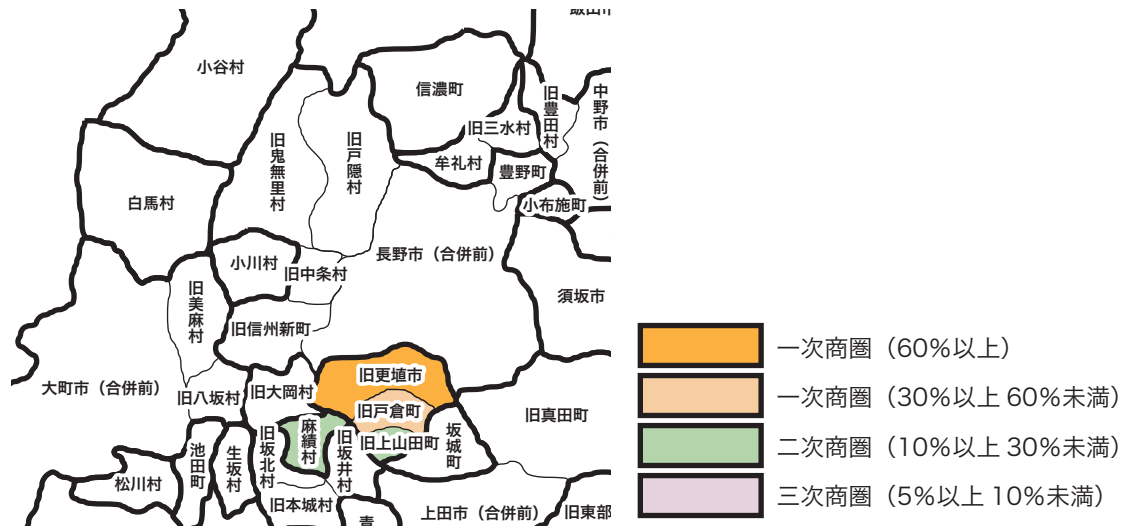
图 30 旧更埴市(千曲市) 商圈 《全品目平均》



图 31 旧更埴市(千曲市) 商圈 《衣料品》



图 32 旧更埴市(千曲市) 商圈 《飲食料品》



(2) 東信地区 (図 335、図 34、図 35)

図 33 地元滞留率と増減 (東信地区) 《全品目平均》

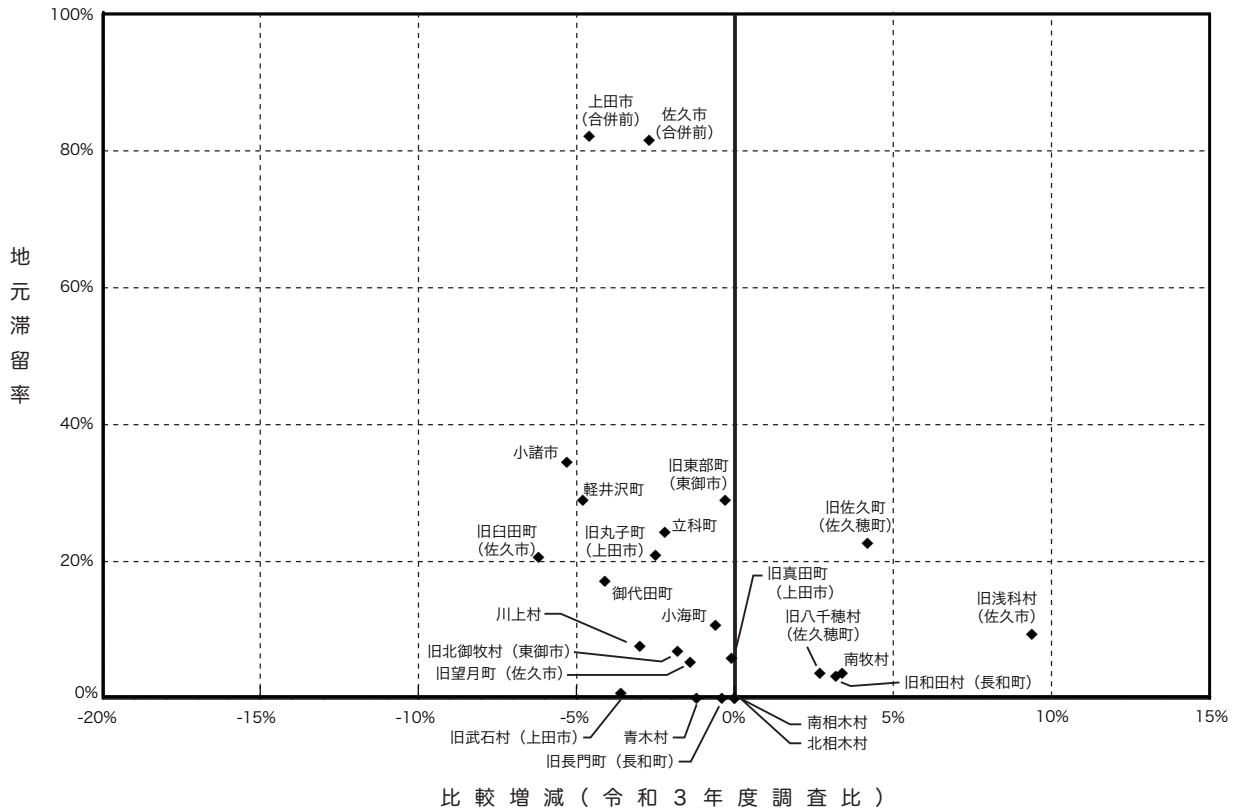


図 34 吸引力係数と増減 (東信地区) 《全品目平均》

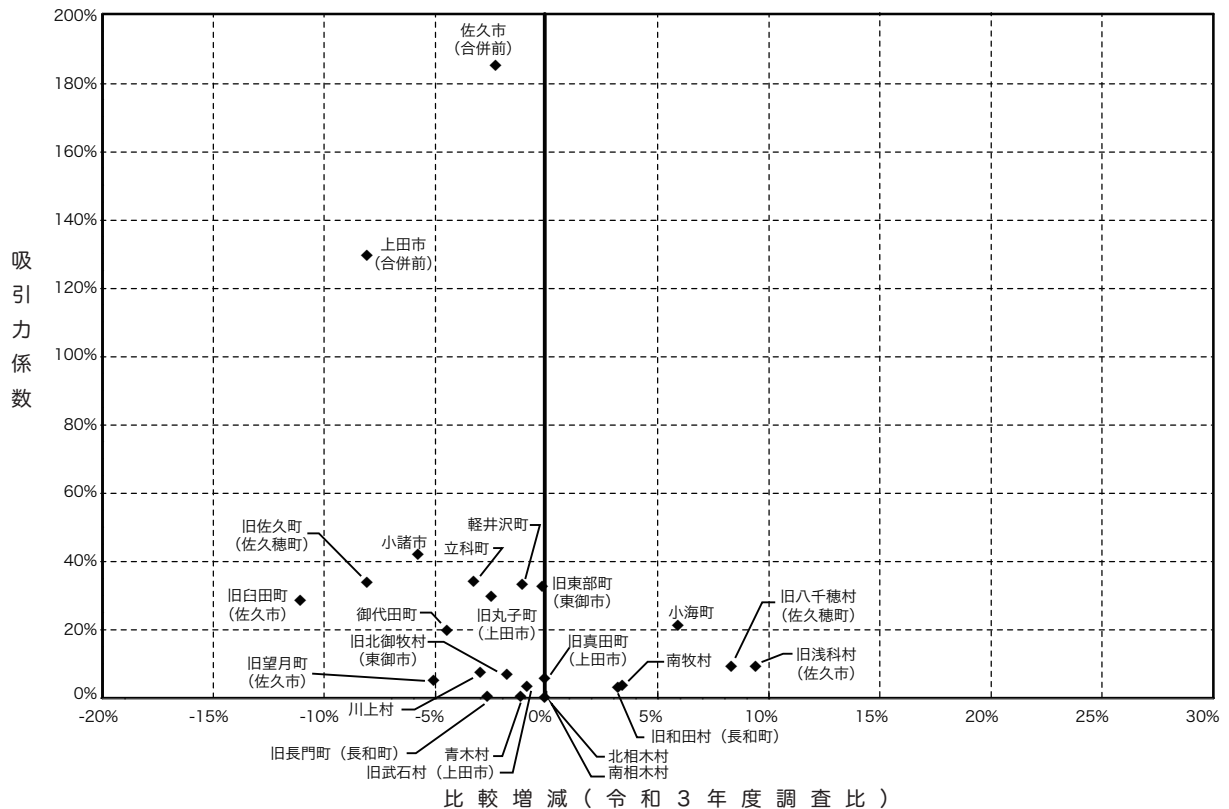


図 35 東信地区の商圈構造（概念図）《全品目平均》

上田市（合併前）

234,294	-1.8%
152,061	-7.7%
129.6%	-7.9ポイント

旧丸子町（上田市）

28,864	-2.6%
6,130	-9.5%
29.8%	-2.5ポイント

旧東部町（東御市）

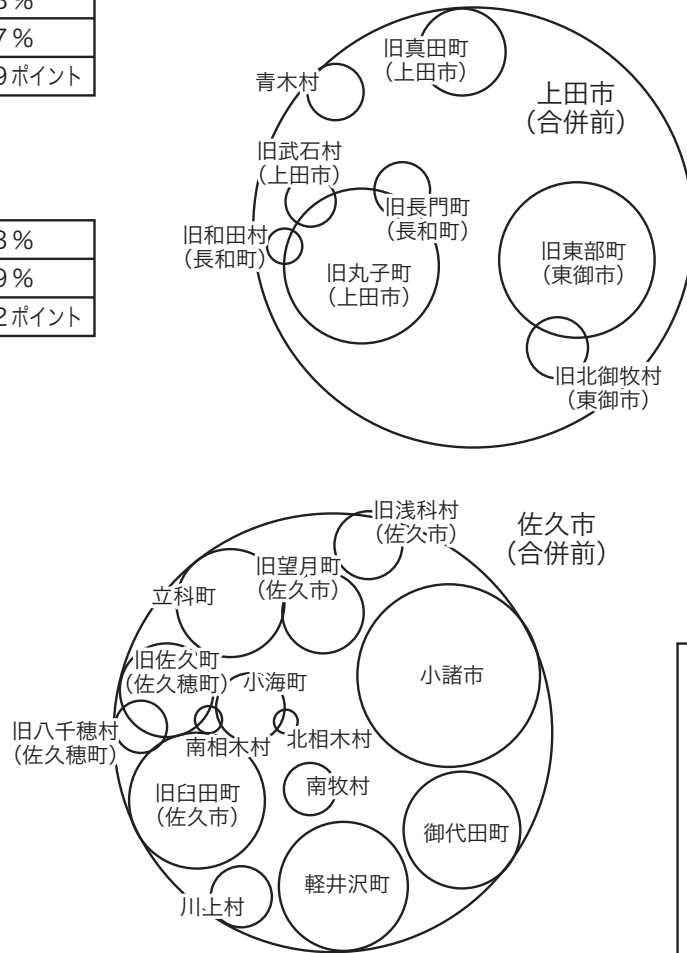
29,153	-2.3%
8,033	-2.9%
32.6%	-0.2ポイント

佐久市（合併前）

232,512	-2.8%
131,086	-2.2%
185.1%	-2.3ポイント

小諸市

40,406	-35.0%
16,958	-13.2%
42.0%	-5.8ポイント



凡例

一次商圈 二次商圈 三次商圈

円の大きさは商圈人口の規模を表す。
(点線の円は除く)

市部と2.5万人以上の商圈人口を持つ町村部の状況

商圈人口	前回調査比
吸引人口	//
吸引力係数	//

(注) 図表の制約上、一部に凡例と一致しない箇所がある。

- ・上田市（合併前）は、どの商圈にも含まれない。
- ・小諸市は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・佐久市（合併前）は、どの商圈にも含まれない。
- ・旧臼田町（佐久市）は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧佐久町（佐久穂町）は、佐久市（合併前）の一次商圈、旧臼田町（佐久市）の三次商圈に含まれる。
- ・小海町は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・川上村は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・南牧村は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・南相木村は、佐久市（合併前）の一次商圈、旧佐久町（佐久穂町）・小海町の二次商圈に含まれる。
- ・北相木村は、佐久市（合併前）の一次商圈、小海町の三次商圈に含まれる。
- ・旧八千穂村（佐久穂町）は、佐久市（合併前）の一次商圈、旧佐久町（佐久穂町）の二次商圈、旧臼田町（佐久市）の三次商圈に含まれる。
- ・軽井沢町は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧望月町（佐久市）は、佐久市（合併前）の一次商圈、立科町の三次商圈に含まれる。
- ・御代田町は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・立科町は、佐久市（合併前）の一次商圈、上田市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・旧浅科村（佐久市）は、佐久市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧北御牧村（東御市）は、上田市（合併前）の一次商圈、佐久市（合併前）・旧東部町（東御市）の二次商圈に含まれる。
- ・旧丸子町（上田市）は、上田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧長門町（長和町）は、上田市（合併前）一次商圈、旧丸子町（上田市）の二次商圈に含まれる。
- ・旧東部町（東御市）は、上田市（合併前）の一次商圈、佐久市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・旧真田町（上田市）は、上田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・旧武石村（上田市）は、上田市（合併前）の一次商圈、旧丸子町（上田市）の二次商圈に含まれる。
- ・旧和田村（長和町）は、上田市（合併前）・旧丸子町（上田市）の一次商圈に含まれる。
- ・青木村は、上田市（合併前）の一次商圈に含まれる。

東信地区の3市と自町村以外にも商圏を有する6町の、《全品目平均》《衣料品》《飲食料品》について、商圏の概要を記載した。ただし、商圏人口2.5万人未満の町村については、《全品目平均》のみとした。

上田市（合併前）

《全品目平均》（図36、図37、図38）

（ア）商圏人口	234,294人（前回調査比△1.8%）
（イ）商圏内市町村数	16市町村（前回調査比+1）
（ウ）上田市（合併前）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに上田市（合併前）商圏に加わった市町村	旧坂北村（筑北村）（吸引率6.2%）
（オ）地元滞留率	82.1%（前回調査比△4.6ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸引人口	152,061人（前回調査比△7.7%）
（ク）吸引力係数	129.6%（前回調査比△7.9ポイント）

《衣料品》（図39）

（ア）商圏人口	239,856人（前回調査比△13.2%）
（イ）商圏内市町村数	17市町村（前回調査比±0）
（ウ）上田市（合併前）商圏から外れた市町村	旧更埴市（千曲市）、旧中条村（長野市）
（エ）新たに上田市（合併前）商圏に加わった市町村	旧浅科村（佐久市）（吸引率6.4%） 旧坂北村（筑北村）（吸引率6.3%）
（オ）地元滞留率	78.0%（前回調査比△8.7ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸引人口	154,641人（前回調査比△13.4%）
（ク）吸引力係数	131.8%（前回調査比△17.3ポイント）

《飲食料品》（図40）

（ア）商圏人口	216,698人（前回調査比+3.3%）
（イ）商圏内市町村数	13市町村（前回調査比+1）
（ウ）上田市（合併前）商圏から外れた市町村	旧和田村（長和町）
（エ）新たに上田市（合併前）商圏に加わった市町村	旧望月町（佐久市）（吸引率6.3%） 旧上山田町（千曲市）（吸引率5.0%）
（オ）地元滞留率	98.7%（前回調査比+1.7ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸引人口	152,181人（前回調査比+2.0%）
（ク）吸引力係数	129.7%（前回調査比+5.1ポイント）

図 36 商圏人口と吸引人口（上田市（合併前））
《全品目平均》

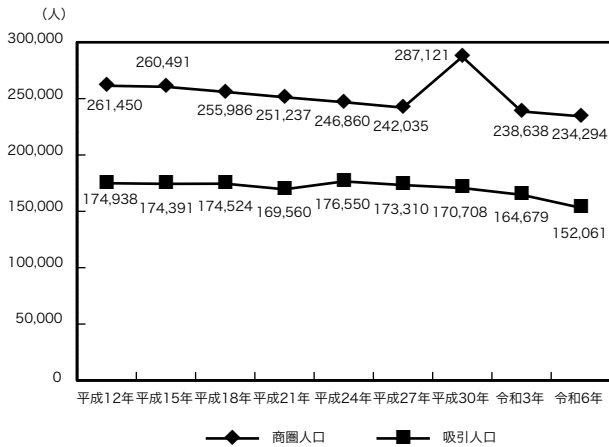


図 37 地元滞留率と吸引力係数（上田市（合併前））
《全品目平均》

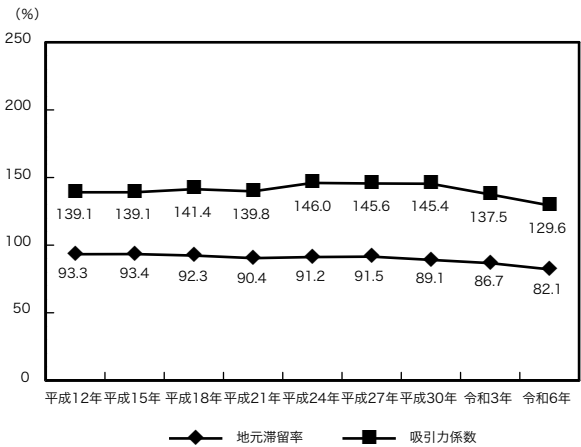


図 38 上田市（合併前）商圏 《全品目平均》

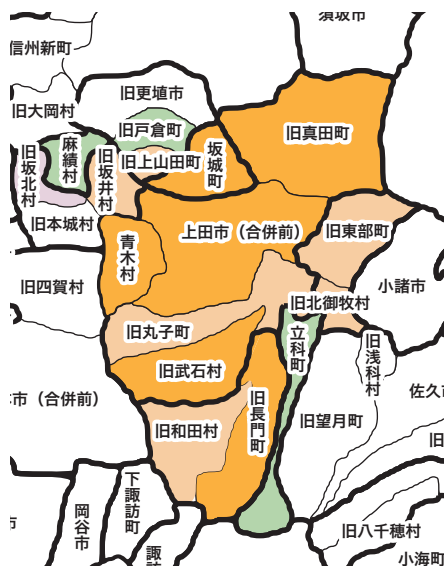


図 39 上田市（合併前）商圏 《衣料品》

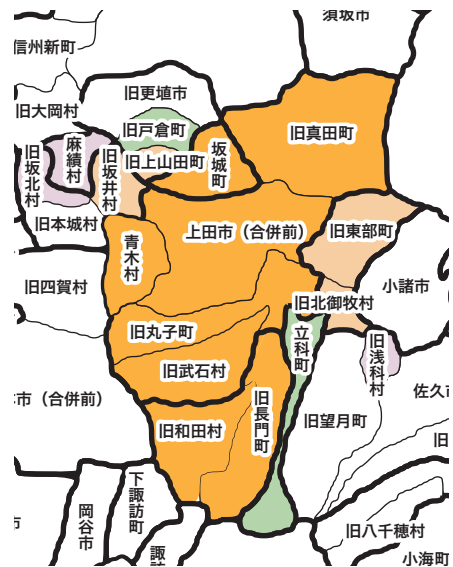
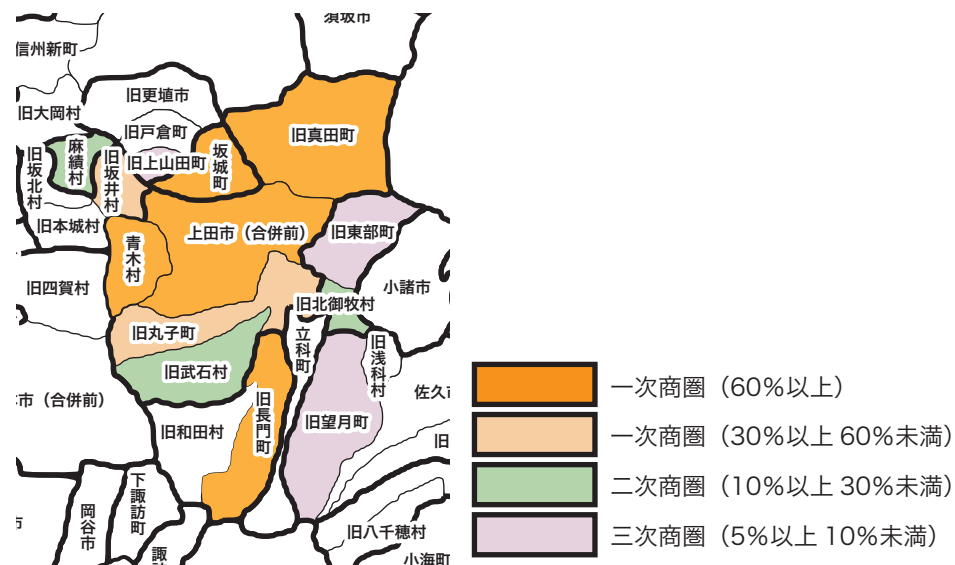


図 40 上田市（合併前）商圏 《飲食料品》



小諸市

《全品目平均》（図 41、図 42、図 43）

- (ア) 商 圏 人 口 40,406 人（前回調査比△35.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 1 市（前回調査比△2）
- (ウ) 小諸市商圏から外れた市町村
御代田町、旧浅科村（佐久市）
- (エ) 新たに小諸市商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 34.5%（前回調査比△5.3 ポイント）
- (カ) 主な流出先 佐久市（合併前）（流出率 48.1%）
- (キ) 吸 引 人 口 16,958 人（前回調査比△13.2%）
- (ク) 吸引力係数 42.0%（前回調査比△5.8 ポイント）

《衣料品》（図 44）

- (ア) 商 圏 人 口 75,820 人（前回調査比+20.5%）
- (イ) 商圏内市町村数 5 市町村（前回調査比+1）
- (ウ) 小諸市商圏から外れた市町村
<該当なし>
- (エ) 新たに小諸市商圏に加わった市町村
旧臼田町（佐久市）（吸引率 8.5%）
- (オ) 地元滞留率 24.9%（前回調査比△5.7 ポイント）
- (カ) 主な流出先 佐久市（合併前）（流出率 56.0%）
- (キ) 吸 引 人 口 17,222 人（前回調査比△3.4%）
- (ク) 吸引力係数 42.6%（前回調査比△1.0 ポイント）

《飲食料品》（図 45）

- (ア) 商 圏 人 口 78,554 人（前回調査比+17.5%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比±0）
- (ウ) 小諸市商圏から外れた市町村
御代田町、旧北御牧村（東御市）
- (エ) 新たに小諸市商圏に加わった市町村
旧望月町（佐久市）（吸引率 9.4%）
旧東部町（東御市）（吸引率 5.1%）
- (オ) 地元滞留率 90.3%（前回調査比+2.4 ポイント）
- (カ) 主な流出先 佐久市（合併前）（流出率 8.5%）
- (キ) 吸 引 人 口 42,806 人（前回調査比△2.0%）
- (ク) 吸引力係数 105.9%（前回調査比△1.0 ポイント）

図 41 商圈人口と吸引人口（小諸市）
《全品目平均》

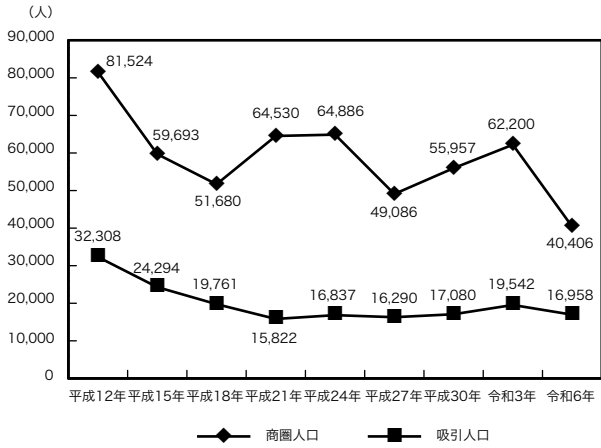


図 42 地元滞留率と吸引力係数（小諸市）
《全品目平均》

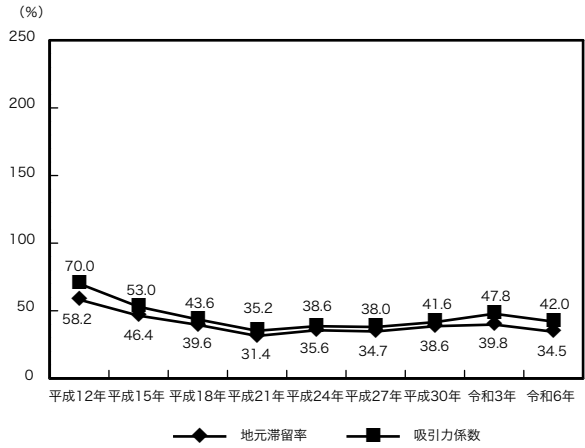


図 43 小諸市商圈 《全品目平均》

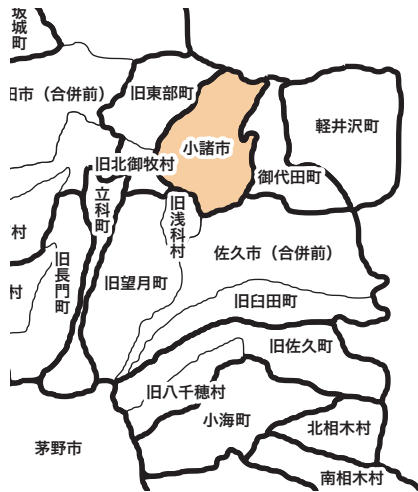


図 44 小諸市商圈 《衣料品》

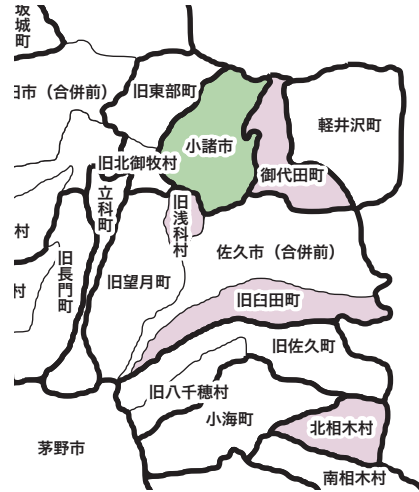
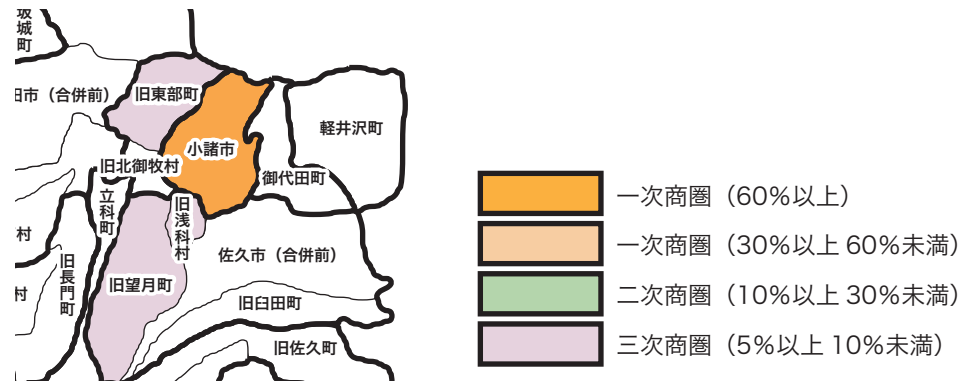


図 45 小諸市商圈 《飲食料品》



佐久市（合併前）

《全品目平均》（図 46、図 47、図 48）

- （ア）商 圏 人 口 232,512 人（前回調査比△2.8%）
- （イ）商圏内市町村数 17 市町村（前回調査比△2）
- （ウ）佐久市（合併前）商圏から外れた市町村
旧長門町（長和町）、旧和田村（長和町）
- （エ）新たに佐久市（合併前）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- （オ）地元滞留率 81.5%（前回調査比△2.6 ポイント）
- （カ）主な流出先 <該当なし>
- （キ）吸 引 人 口 131,086 人（前回調査比△2.2%）
- （ク）吸 引 力 係 数 185.1%（前回調査比△2.3 ポイント）

《衣料品》（図 49）

- （ア）商 圏 人 口 232,512 人（前回調査比△2.8%）
- （イ）商圏内市町村数 17 市町村（前回調査比△2）
- （ウ）佐久市（合併前）商圏から外れた市町村
旧長門町（長和町）、旧和田村（長和町）
- （エ）新たに佐久市（合併前）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- （オ）地元滞留率 77.0%（前回調査比△0.2 ポイント）
- （カ）主な流出先 <該当なし>
- （キ）吸 引 人 口 139,710 人（前回調査比△1.1%）
- （ク）吸 引 力 係 数 197.3%（前回調査比△0.2 ポイント）

《飲食料品》（図 50）

- （ア）商 圏 人 口 202,462 人（前回調査比+1.2%）
- （イ）商圏内市町村数 14 市町村（前回調査比+1）
- （ウ）佐久市（合併前）商圏から外れた市町村
南相木村、旧北御牧村（東御市）
- （エ）新たに佐久市（合併前）商圏に加わった市町村
小海町（吸引率 41.7%）、北相木村（吸引率 33.3%）、
旧八千穂村（佐久穂町）（吸引率 15.0%）
- （オ）地元滞留率 96.3%（前回調査比+1.5 ポイント）
- （カ）主な流出先 <該当なし>
- （キ）吸 引 人 口 93,732 人（前回調査比+1.4%）
- （ク）吸 引 力 係 数 132.4%（前回調査比+3.2 ポイント）

図 46 商圈人口と吸引人口 (佐久市 (合併前))
 《全品目平均》

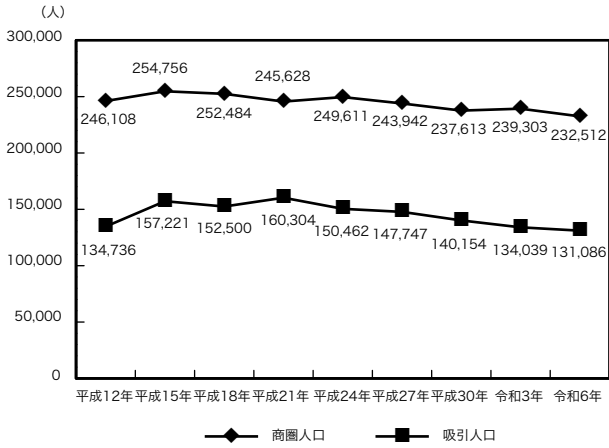


図 47 地元滞留率と吸引力係数 (佐久市 (合併前))
 《全品目平均》

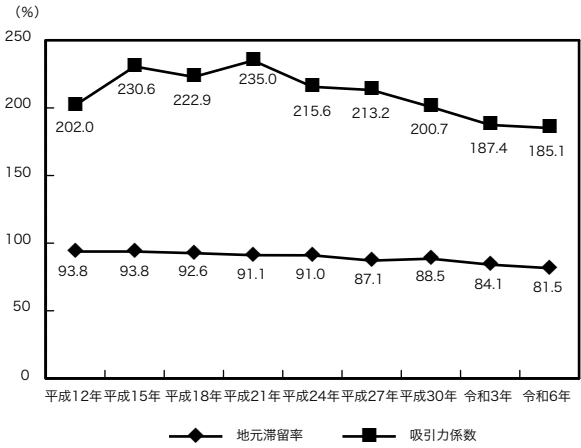


図 48 佐久市 (合併前) 商圈 《全品目平均》

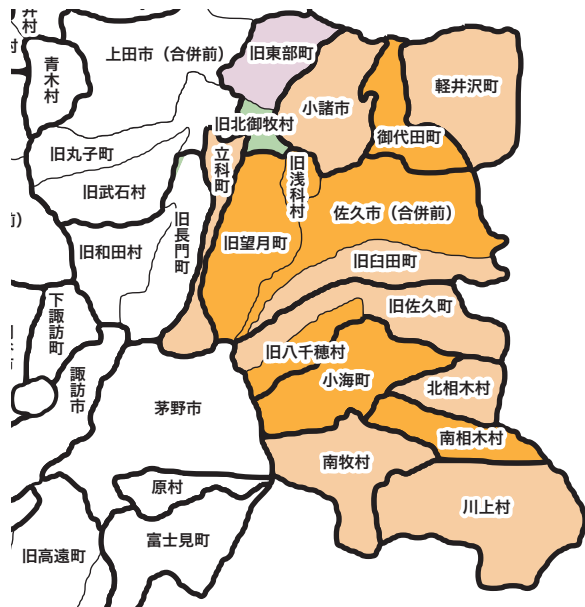
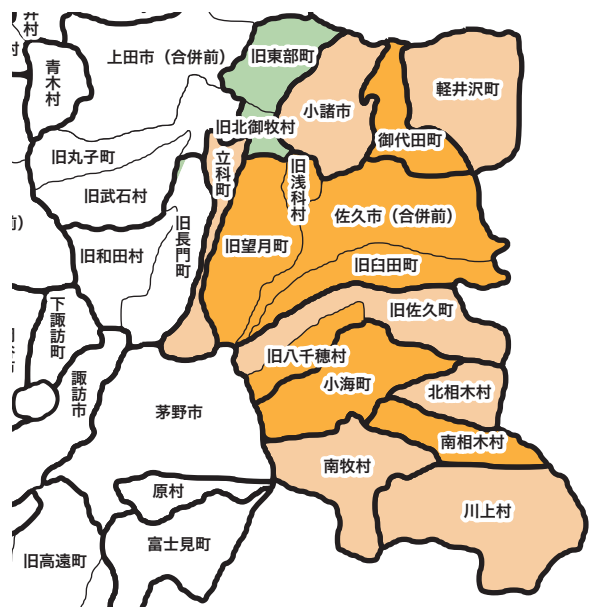
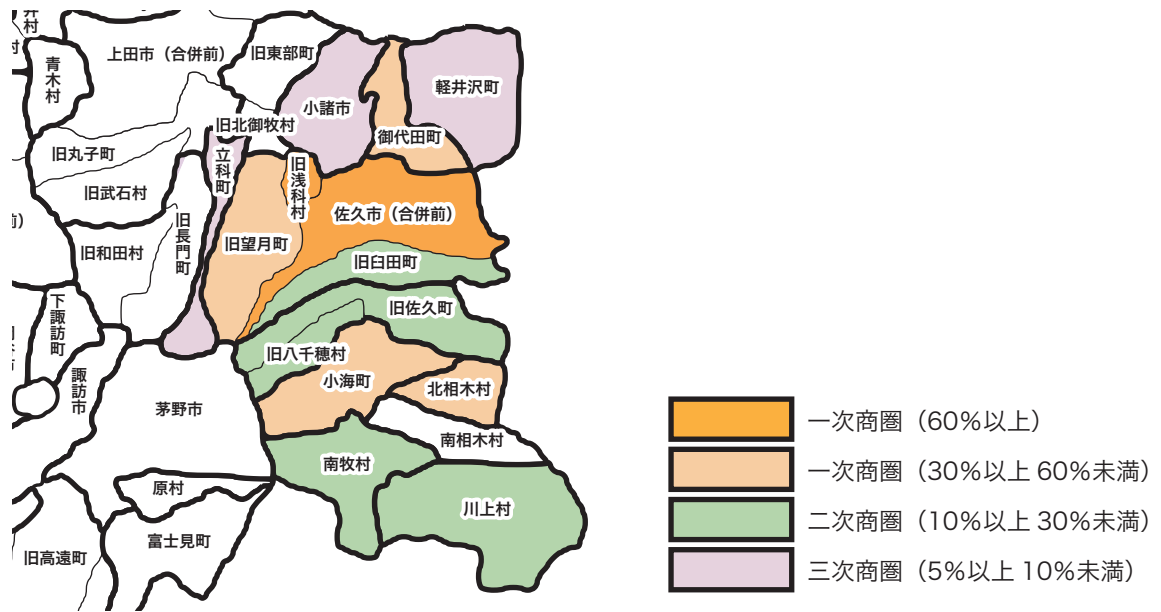


図 49 佐久市 (合併前) 商圈 《衣料品》



- 一次商圈 (60%以上)
- 一次商圈 (30%以上 60%未満)
- 二次商圈 (10%以上 30%未満)
- 三次商圈 (5%以上 10%未満)

図 50 佐久市（合併前）商圏 《飲食料品》



旧丸子町（上田市）

《全品目平均》（図 51、図 52、図 53）

（ア）商 圏 人 口	28,864 人（前回調査比△2.6%）
（イ）商圏内市町村数	4 町村（前回調査比±0）
（ウ）旧丸子町（上田市）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに旧丸子町（上田市）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	20.9%（前回調査比△2.6 ポイント）
（カ）主な流出先	上田市（合併前）（流出率 57.6%）
（キ）吸 引 人 口	6,130 人（前回調査比△9.5%）
（ク）吸引力係数	29.8%（前回調査比△2.5 ポイント）

《衣料品》（図 54）

（ア）商 圏 人 口	28,864 人（前回調査比△2.6%）
（イ）商圏内市町村数	4 町村（前回調査比±0）
（ウ）旧丸子町（上田市）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに旧丸子町（上田市）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	16.2%（前回調査比+0.8 ポイント）
（カ）主な流出先	上田市（合併前）（流出率 62.8%）
（キ）吸 引 人 口	4,409 人（前回調査比△3.5%）
（ク）吸引力係数	21.5%（前回調査比△0.3 ポイント）

《飲食料品》（図 55）

（ア）商 圏 人 口	28,864 人（前回調査比△2.6%）
（イ）商圏内市町村数	4 町村（前回調査比±0）
（ウ）旧丸子町（上田市）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに旧丸子町（上田市）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	55.2%（前回調査比△10.7 ポイント）
（カ）主な流出先	上田市（合併前）（流出率 38.5%）
（キ）吸 引 人 口	16,594 人（前回調査比△20.3%）
（ク）吸引力係数	80.8%（前回調査比△18.5 ポイント）

图 51 商圈人口と吸引人口（旧丸子町（上田市））
《全品目平均》

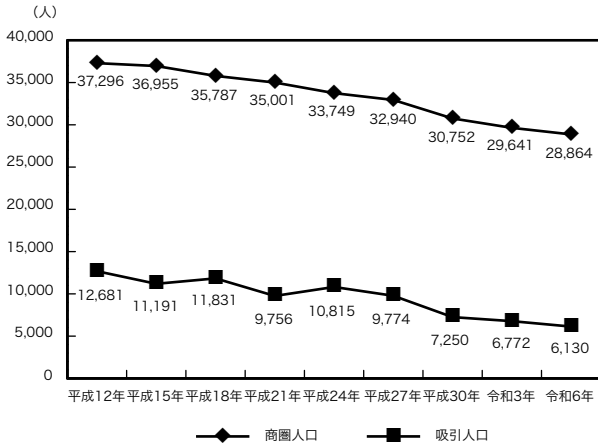


图 52 地元滞留率と吸引力係数（旧丸子町（上田市））
《全品目平均》

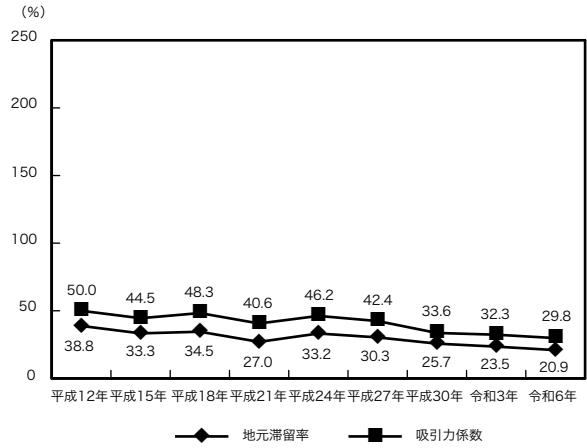


图 53 旧丸子町（上田市）商圈 《全品目平均》

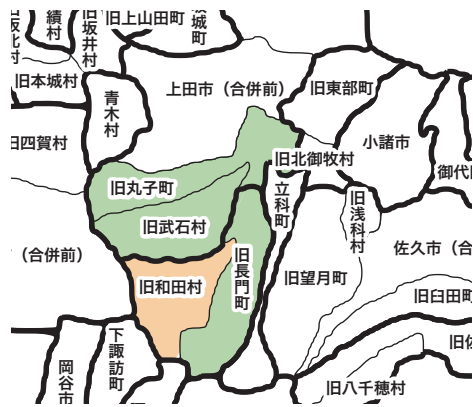
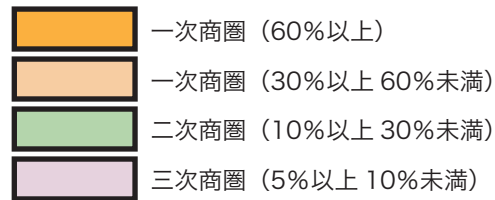


图 54 旧丸子町（上田市）商圈 《衣料品》



图 55 旧丸子町（上田市）商圈 《飲食料品》



旧東部町（東御市）

《全品目平均》（図 56、図 57、図 58）

（ア）商 圏 人 口	29,153 人（前回調査比△2.3%）
（イ）商圏内市町村数	2 町村（前回調査比±0）
（ウ）旧東部町（東御市）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに旧東部町（東御市）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	28.9%（前回調査比△0.3 ポイント）
（カ）主な流出先	上田市（合併前）（流出率 45.0%）、佐久市（合併前）（流出率 8.2%）
（キ）吸 引 人 口	8,033 人（前回調査比△2.9%）
（ク）吸引力係数	32.6%（前回調査比△0.2 ポイント）

《衣料品》（図 59）

（ア）商 圏 人 口	29,153 人（前回調査比△2.3%）
（イ）商圏内市町村数	2 町村（前回調査比±0）
（ウ）旧東部町（東御市）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに旧東部町（東御市）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	15.4%（前回調査比+1.6 ポイント）
（カ）主な流出先	上田市（合併前）（流出率 55.7%）、佐久市（合併前）（流出率 12.1%）
（キ）吸 引 人 口	4,421 人（前回調査比△6.9%）
（ク）吸引力係数	18.0%（前回調査比△0.8 ポイント）

《飲食料品》（図 60）

（ア）商 圏 人 口	29,153 人（前回調査比△2.3%）
（イ）商圏内市町村数	2 町村（前回調査比±0）
（ウ）旧東部町（東御市）商圏から外れた市町村	<該当なし>
（エ）新たに旧東部町（東御市）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	86.4%（前回調査比+3.1 ポイント）
（カ）主な流出先	上田市（合併前）（流出率 5.9%）、小諸市（流出率 5.1%）
（キ）吸 引 人 口	24,163 人（前回調査比+4.5%）
（ク）吸引力係数	98.2%（前回調査比+6.5 ポイント）

图 56 商圈人口と吸引人口(旧東部町(東御市))
《全品目平均》

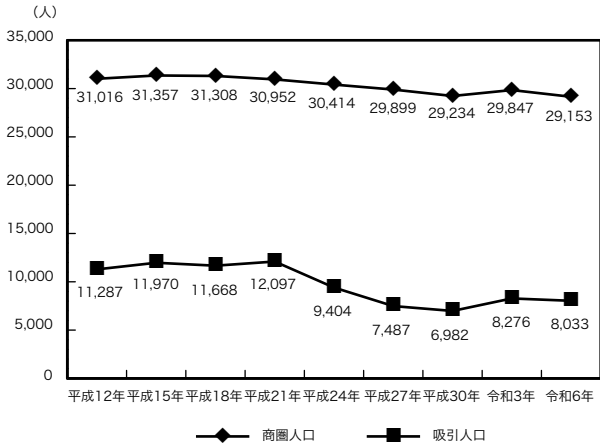


图 57 地元滞留率と吸引力係数(旧東部町(東御市))
《全品目平均》

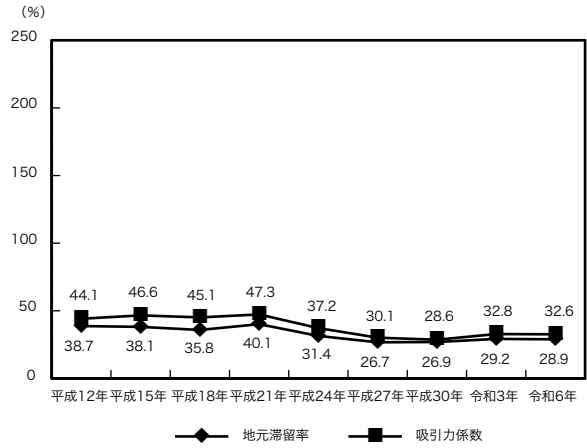


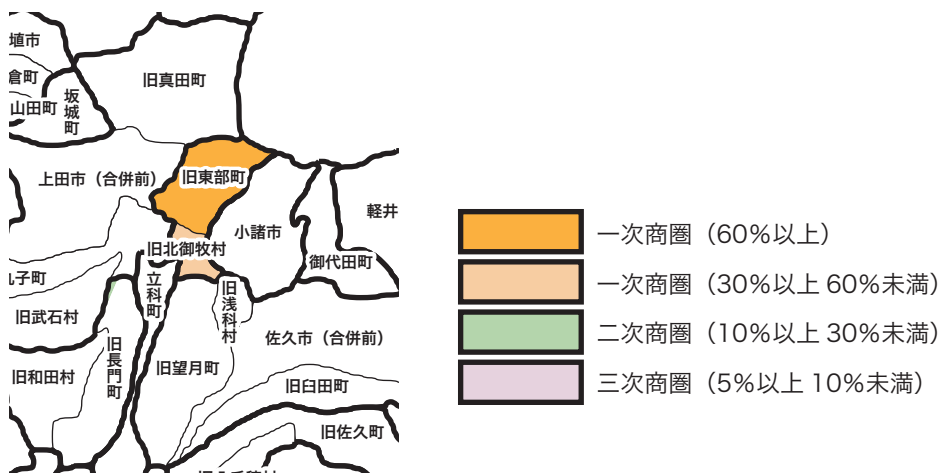
图 58 旧東部町(東御市) 商圈 《全品目平均》



图 59 旧東部町(東御市) 商圈 《衣料品》



图 60 旧東部町(東御市) 商圈 《飲食料品》



旧臼田町（佐久市）

《全品目平均》（図 61）

- (ア) 商 圏 人 口 22,360 人（前回調査比△28.7%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村（前回調査比△3）
- (ウ) 旧臼田町（佐久市）商圏から外れた市町村
小海町、南牧村、南相木村
- (エ) 新たに旧臼田町（佐久市）商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 20.6%（前回調査比△6.2 ポイント）
- (カ) 主な流出先 佐久市（合併前）（流出率 59.8%）
- (キ) 吸 引 人 口 3,631 人（前回調査比△28.5%）
- (ク) 吸引力係数 28.6%（前回調査比△11.1 ポイント）

旧佐久町（佐久穂町）

《全品目平均》（図 62）

- (ア) 商 圏 人 口 10,580 人（前回調査比△30.9%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村（前回調査比△1）
- (ウ) 旧佐久町（佐久穂町）商圏から外れた市町村
小海町
- (エ) 新たに旧佐久町（佐久穂町）商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 22.7%（前回調査比+4.2 ポイント）
- (カ) 主な流出先 佐久市（合併前）（流出率 47.6%）、
旧臼田町（佐久市）（流出率 8.6%）
- (キ) 吸 引 人 口 2,171 人（前回調査比△22.7%）
- (ク) 吸引力係数 34.0%（前回調査比△8.1 ポイント）

小海町

《全品目平均》（図 63）

- (ア) 商 圏 人 口 5,707 人（前回調査比△3.9%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村（前回調査比±0）
- (ウ) 小海町商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに小海町商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 10.6%（前回調査比△0.6 ポイント）
- (カ) 主な流出先 佐久市（合併前）（流出率 64.9%）
- (キ) 吸 引 人 口 876 人（前回調査比+33.1%）
- (ク) 吸引力係数 21.3%（前回調査比+5.9 ポイント）

(3) 中信地区 (图 65、图 66、图 67)

图 65 地元滞留率と増減 (中信地区) 《全品目平均》

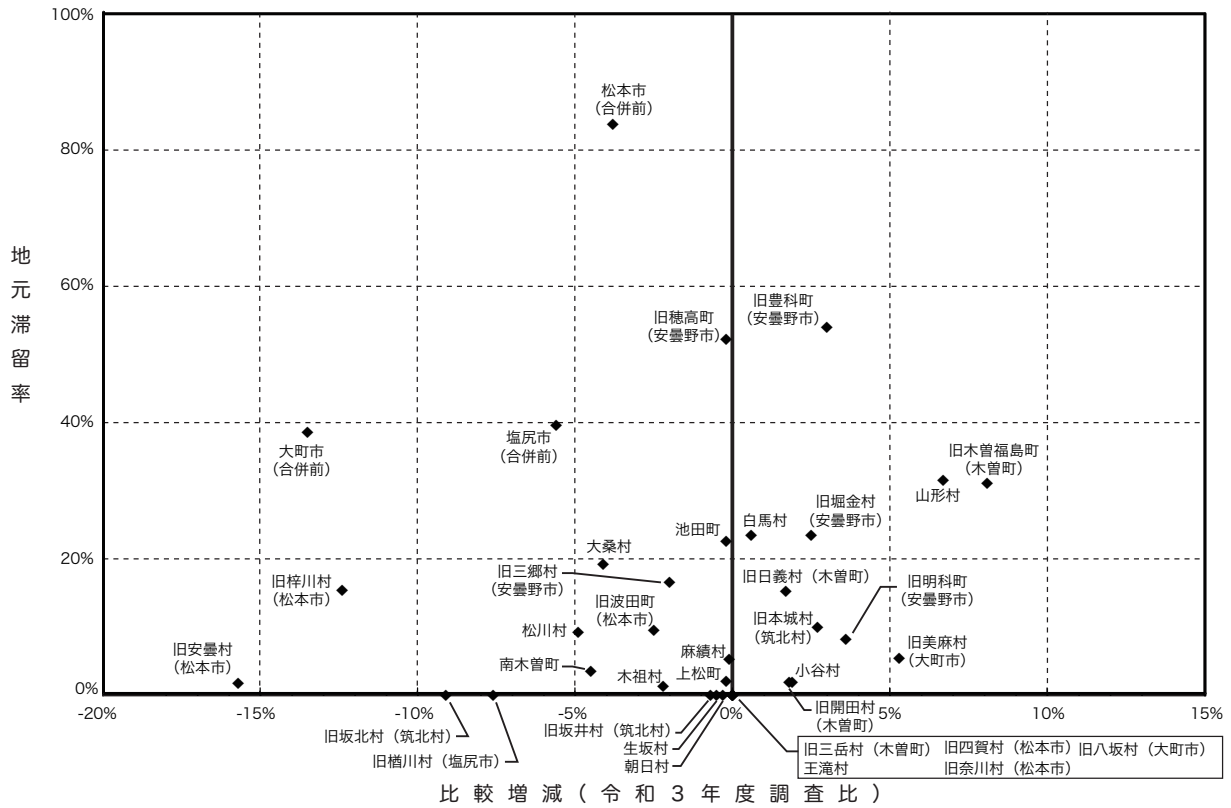
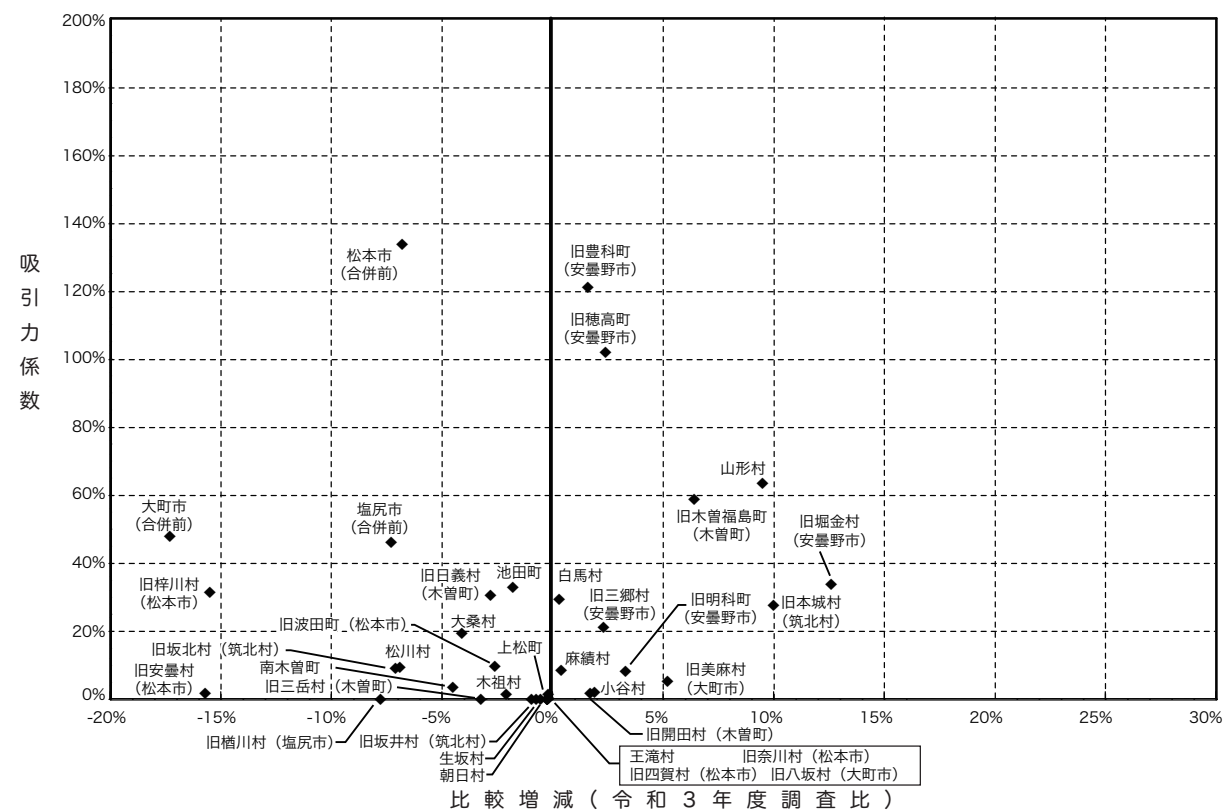


图 66 吸引力係数と増減 (中信地区) 《全品目平均》



中信地区の3市と自町村以外にも商圏を有する9町村の、《全品目平均》《衣料品》《飲食料品》について、商圏の概要を記載した。ただし、商圏人口2.5万人未満の町村については、《全品目平均》のみとした。

松本市（合併前）

《全品目平均》（図68、図69、図70）

- (ア) 商 圏 人 口 617,436人（前回調査比+2.9%）
- (イ) 商圏内市町村数 38市町村（前回調査比+2）
- (ウ) 松本市（合併前）商圏から外れた市町村
王滝村、旧八坂村（大町市）
- (エ) 新たに松本市（合併前）商圏に加わった市町村
旧高遠町（伊那市）（吸引率5.2%）、南箕輪村（吸引率6.8%）、
宮田村（吸引率5.6%）、旧三岳村（木曾町）（吸引率6.5%）
- (オ) 地元滞留率 83.7%（前回調査比△3.8ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸引人口 272,698人（前回調査比△6.0%）
- (ク) 吸引力係数 133.5%（前回調査比△6.8ポイント）

《衣料品》（図71）

- (ア) 商 圏 人 口 716,688人（前回調査比△4.2%）
- (イ) 商圏内市町村数 42市町村（前回調査比+2）
- (ウ) 松本市（合併前）商圏から外れた市町村
諏訪市、原村、旧奈川村（松本市）、旧八坂村（大町市）、
旧美麻村（大町市）、旧中条村（長野市）
- (エ) 新たに松本市（合併前）商圏に加わった市町村
旧武石村（上田市）（吸引率11.8%）、旧高遠町（伊那市）（吸引率12.5%）、
南箕輪村（吸引率14.8%）、中川村（吸引率7.3%）、
旧長谷村（伊那市）（吸引率5.9%）、宮田村（吸引率12.8%）、
旧三岳村（木曾町）（吸引率13.3%）、大桑村（吸引率5.4%）
- (オ) 地元滞留率 82.3%（前回調査比△5.3ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸引人口 296,009人（前回調査比△7.5%）
- (ク) 吸引力係数 144.9%（前回調査比△9.8ポイント）

《飲食料品》（図72）

- (ア) 商 圏 人 口 338,651人（前回調査比+3.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 14市町村（前回調査比△1）
- (ウ) 松本市（合併前）商圏から外れた市町村
旧木曾福島町（木曾町）、旧日義村（木曾町）、旧本城村（筑北村）、
旧坂北村（筑北村）、麻績村、朝日村、旧奈川村（松本市）、
旧堀金村（安曇野市）
- (エ) 新たに松本市（合併前）商圏に加わった市町村
上松町（吸引率9.5%）、旧檜川村（塩尻市）（吸引率18.8%）、
木祖村（吸引率7.1%）、旧開田村（木曾町）（吸引率11.1%）、
旧坂井村（筑北村）（吸引率20.0%）、旧梓川村（松本市）（吸引率
41.2%）、旧三郷村（安曇野市）（吸引率9.0%）
- (オ) 地元滞留率 91.8%（前回調査比+1.3ポイント）
- (カ) 主な流出先 <該当なし>
- (キ) 吸引人口 207,817人（前回調査比+1.3%）
- (ク) 吸引力係数 101.7%（前回調査比+2.5ポイント）

図 68 商圈人口と吸引人口（松本市（合併前））
 《全品目平均》

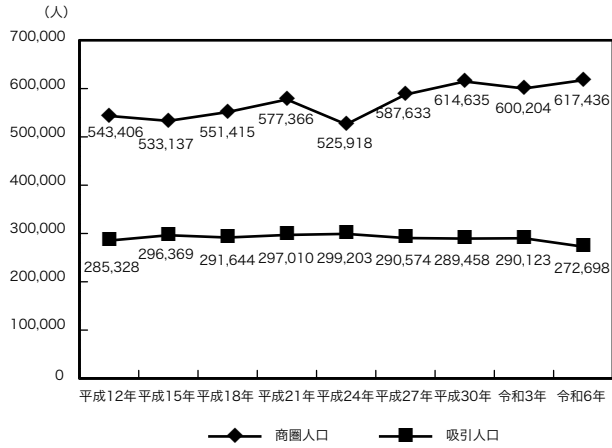


図 69 地元滞留率と吸引力係数（松本市（合併前））
 《全品目平均》

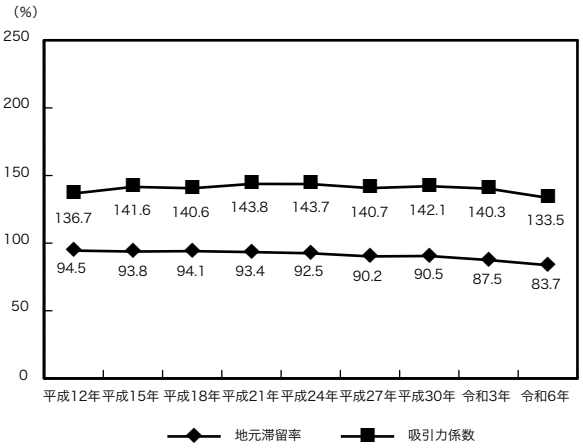


図 70 松本市（合併前）商圈 《全品目平均》

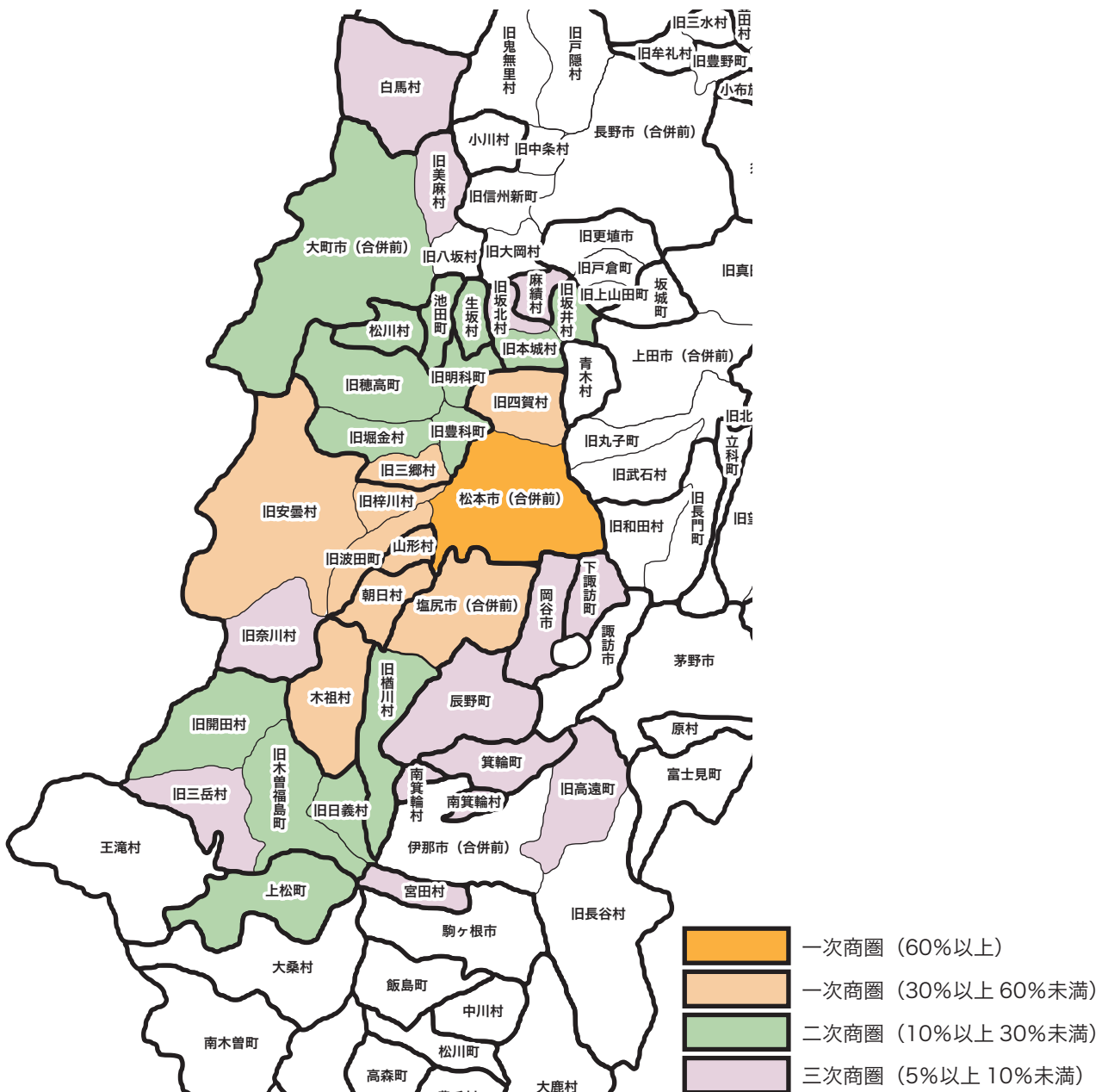
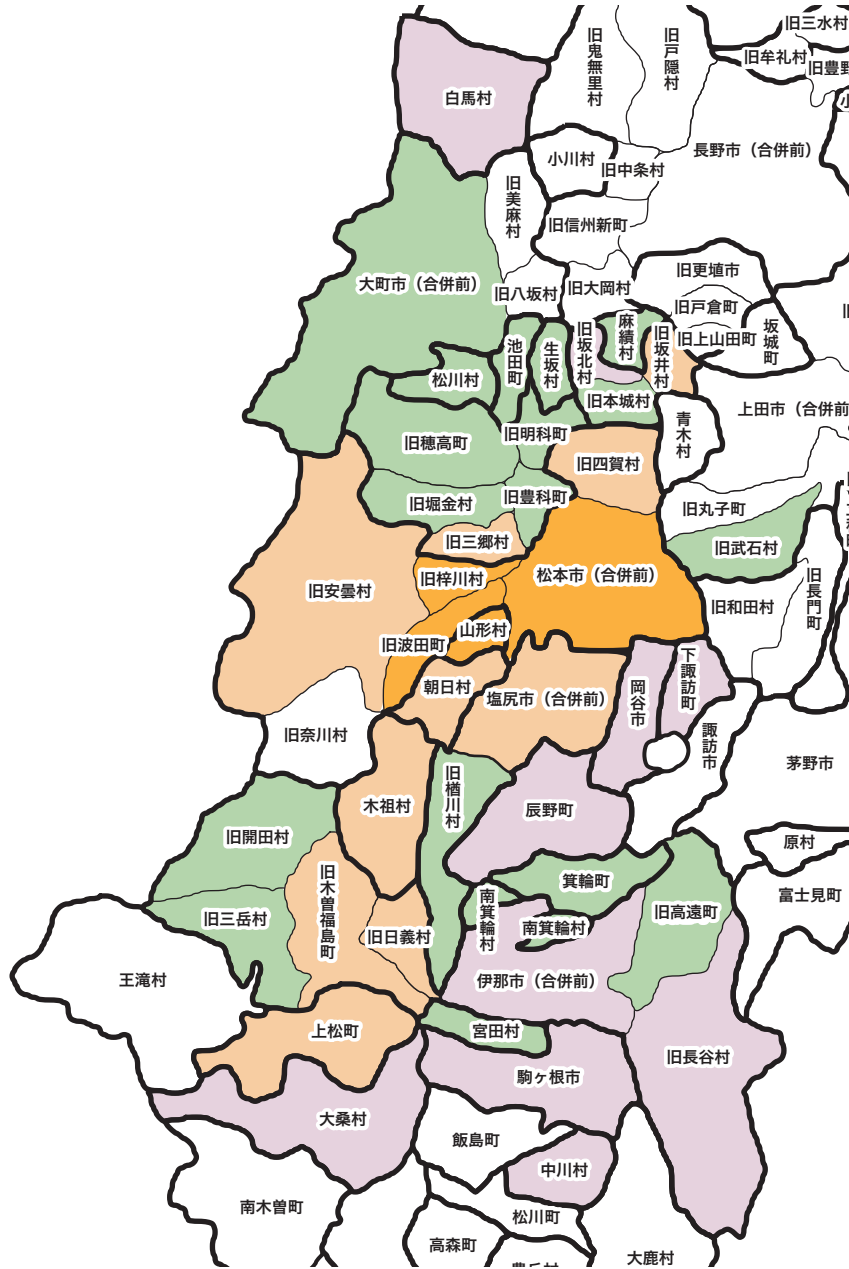
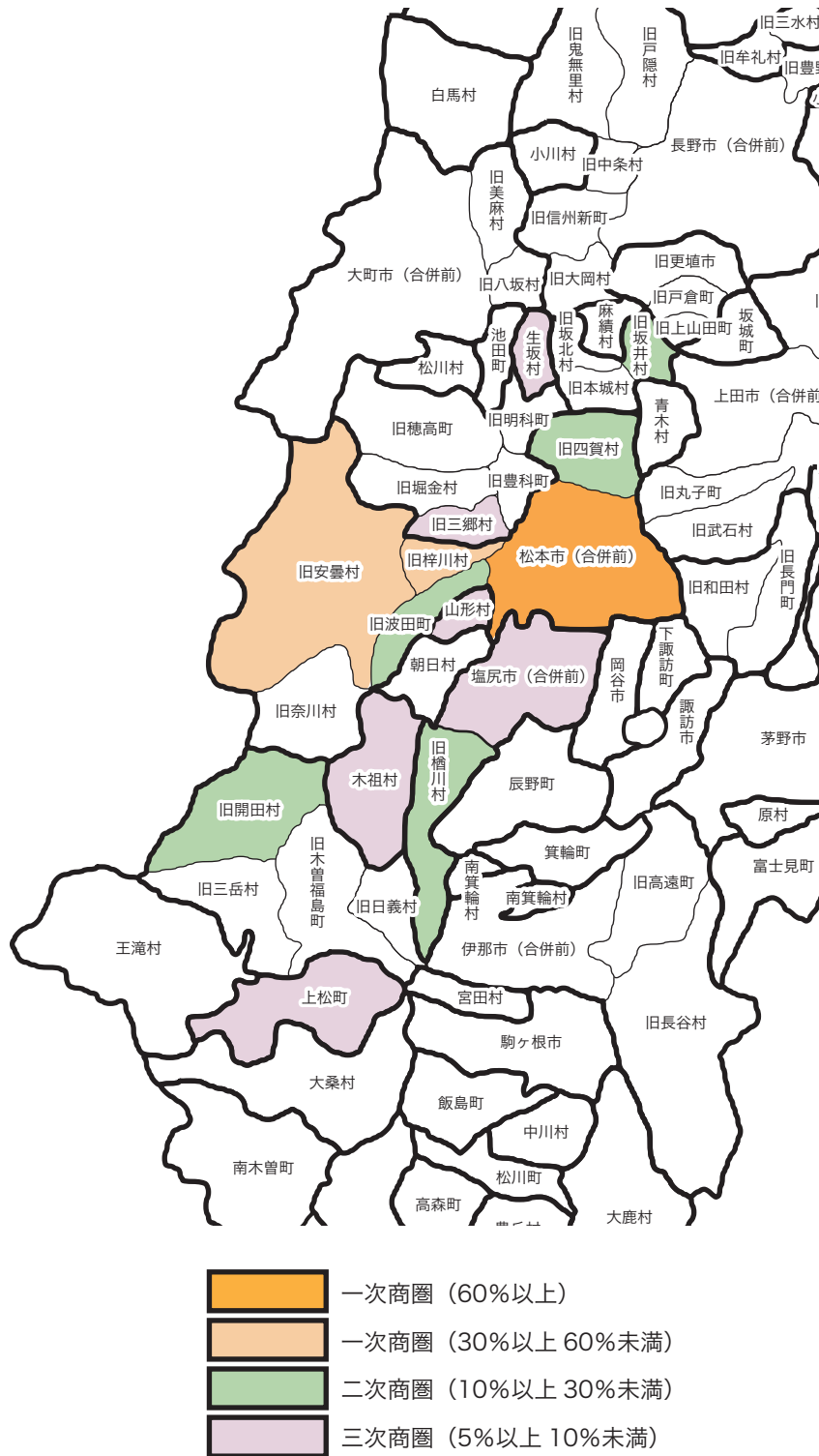


图 71 松本市（合併前）商圈 《衣料品》



- 一次商圈 (60%以上)
- 一次商圈 (30%以上 60%未満)
- 二次商圈 (10%以上 30%未満)
- 三次商圈 (5%以上 10%未満)

图 72 松本市（合併前）商圈 《飲食料品》



大町市（合併前）

《全品目平均》（図 73、図 74、図 75）

(ア) 商 圏 人 口	35,347 人（前回調査比△23.5%）
(イ) 商圏内市町村数	5 市村（前回調査比△1）
(ウ) 大町市（合併前）商圏から外れた市町村	松川村
(エ) 新たに大町市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	38.5%（前回調査比△13.5 ポイント）
(カ) 主な流出先	松本市（合併前）（流出率 19.0%）、 無店舗販売（流出率 23.7%）、 旧穂高町（安曇野市）（流出率 9.5%）
(キ) 吸 引 人 口	10,957 人（前回調査比△29.9%）
(ク) 吸引力係数	47.7%（前回調査比△17.3 ポイント）

《衣料品》（図 76）

(ア) 商 圏 人 口	34,546 人（前回調査比△25.2%）
(イ) 商圏内市町村数	4 市村（前回調査比△2）
(ウ) 大町市（合併前）商圏から外れた市町村	松川村、旧美麻村（大町市）
(エ) 新たに大町市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	25.3%（前回調査比△0.3 ポイント）
(カ) 主な流出先	松本市（合併前）（流出率 20.0%） 無店舗販売（流出率 24.0%） 旧穂高町（安曇野市）（流出率 22.0%）
(キ) 吸 引 人 口	6,788 人（前回調査比△25.9%）
(ク) 吸引力係数	29.5%（前回調査比△8.6 ポイント）

《飲食料品》（図 77）

(ア) 商 圏 人 口	36,515 人（前回調査比△21.0%）
(イ) 商圏内市町村数	5 市村（前回調査比△1）
(ウ) 大町市（合併前）商圏から外れた市町村	白馬村
(エ) 新たに大町市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	90.3%（前回調査比△9.7 ポイント）
(カ) 主な流出先	池田町（流出率 9.7%）
(キ) 吸 引 人 口	23,961 人（前回調査比△13.1%）
(ク) 吸引力係数	104.2%（前回調査比△10.4 ポイント）

图 73 商圈人口と吸引人口（大町市（合併前））
 《全品目平均》

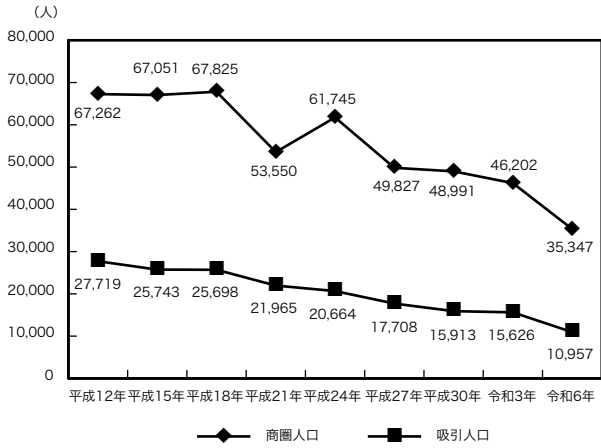


图 74 地元滞留率と吸引力係数（大町市（合併前））
 《全品目平均》

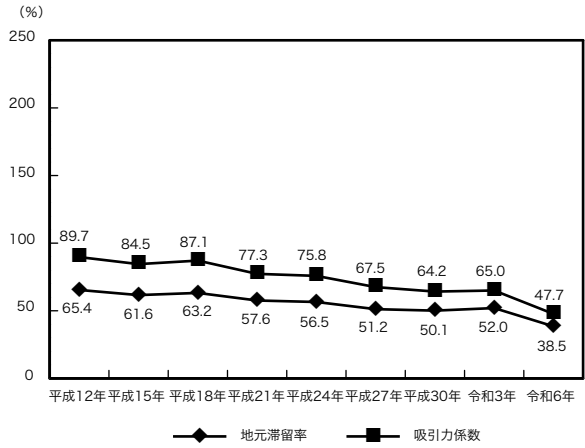


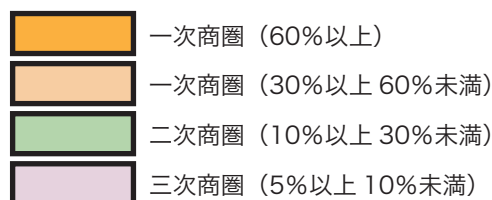
图 75 大町市（合併前）商圈 《全品目平均》



图 76 大町市（合併前）商圈 《衣料品》



图 77 大町市（合併前）商圈 《飲食料品》



塩尻市（合併前）

《全品目平均》（図 78、図 79、図 80）

（ア）商 圏 人 口	97,958 人（前回調査比△3.8%）
（イ）商圏内市町村数	8 市町村（前回調査比+1）
（ウ）塩尻市（合併前）商圏から外れた市町村	旧木曾福島町（木曾町）
（エ）新たに塩尻市（合併前）商圏に加わった市町村	旧開田村（木曾町）（吸引率 5.3%）、大桑村（吸引率 7.0%）
（オ）地元滞留率	39.5%（前回調査比△5.6 ポイント）
（カ）主な流出先	松本市（合併前）（流出率 45.1%）
（キ）吸引人口	29,271 人（前回調査比△15.1%）
（ク）吸引力係数	46.0%（前回調査比△7.3 ポイント）

《衣料品》（図 81）

（ア）商 圏 人 口	80,514 人（前回調査比△3.6%）
（イ）商圏内市町村数	7 市町村（前回調査比+1）
（ウ）塩尻市（合併前）商圏から外れた市町村	旧木曾福島町（木曾町）
（エ）新たに塩尻市（合併前）商圏に加わった市町村	旧開田村（木曾町）（吸引率 9.1%）、大桑村（吸引率 12.2%）
（オ）地元滞留率	25.8%（前回調査比△6.7 ポイント）
（カ）主な流出先	松本市（合併前）（流出率 57.9%）
（キ）吸引人口	20,362 人（前回調査比△20.3%）
（ク）吸引力係数	32.0%（前回調査比△7.5 ポイント）

《飲食料品》（図 82）

（ア）商 圏 人 口	93,014 人（前回調査比△6.8%）
（イ）商圏内市町村数	7 市町村（前回調査比±0）
（ウ）塩尻市（合併前）商圏から外れた市町村	旧木曾福島町（木曾町）
（エ）新たに塩尻市（合併前）商圏に加わった市町村	旧開田村（木曾町）（吸引率 5.6%）
（オ）地元滞留率	89.3%（前回調査比+0.2 ポイント）
（カ）主な流出先	松本市（合併前）（流出率 9.1%）
（キ）吸引人口	65,598 人（前回調査比△2.0%）
（ク）吸引力係数	103.1%（前回調査比△0.4 ポイント）

図 78 商圈人口と吸引人口（塩尻市（合併前））
 ≪全品目平均≫

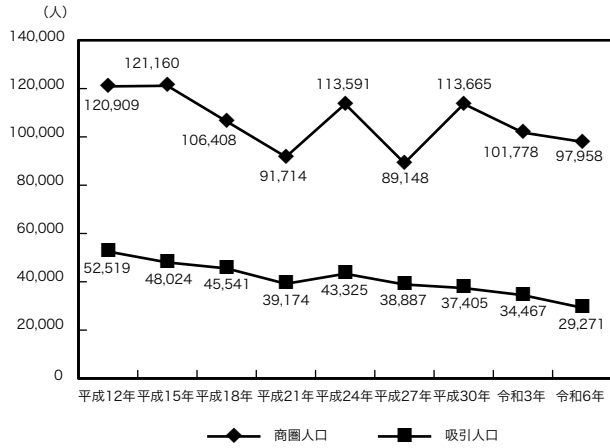


図 79 地元滞留率と吸引力係数（塩尻市（合併前））
 ≪全品目平均≫

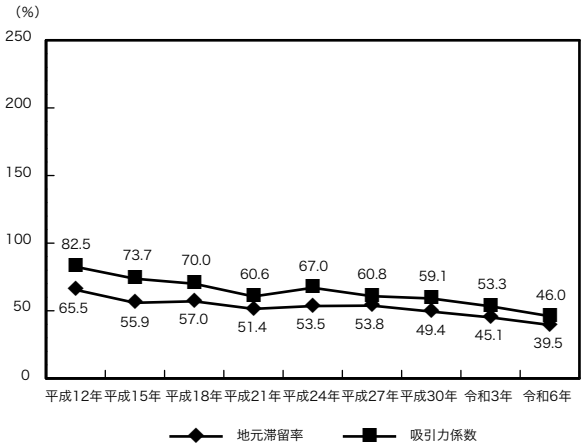


図 80 塩尻市（合併前）商圈 ≪全品目平均≫

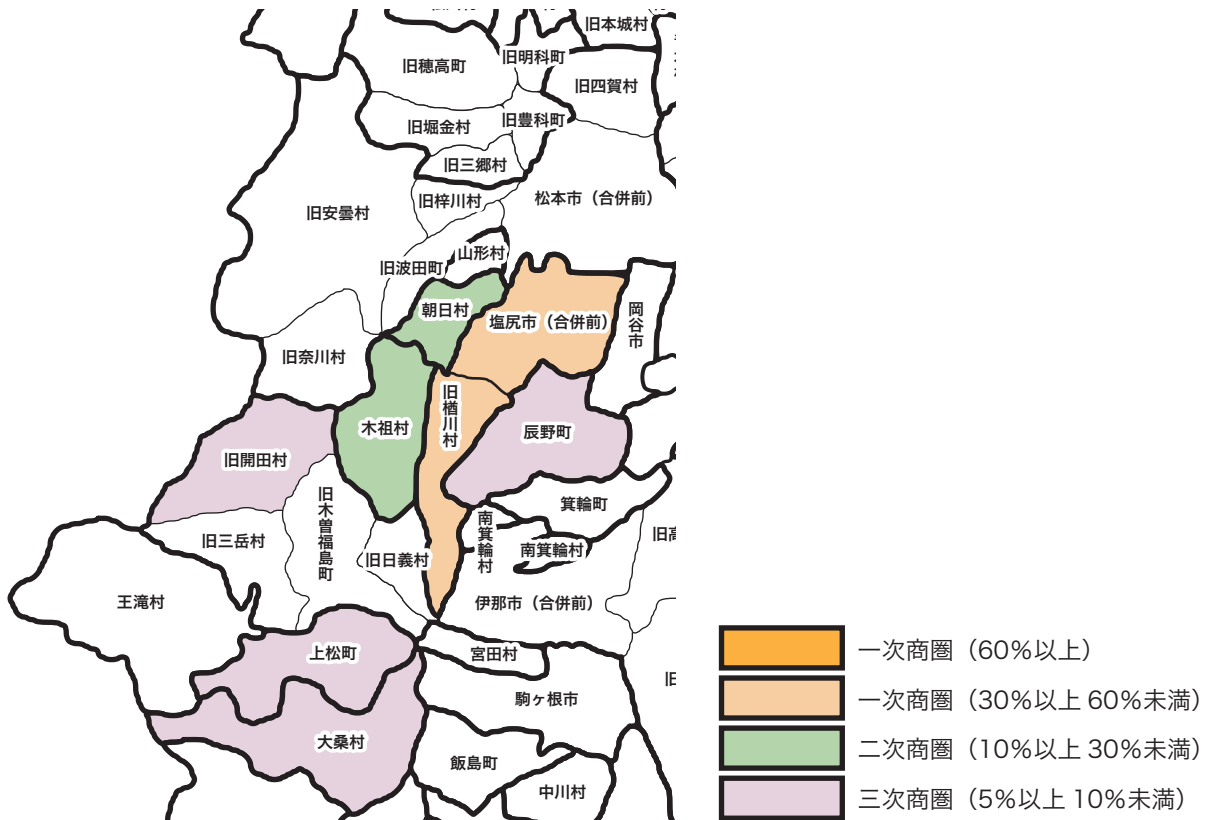


图 81 塩尻市（合併前）商圈 《衣料品》

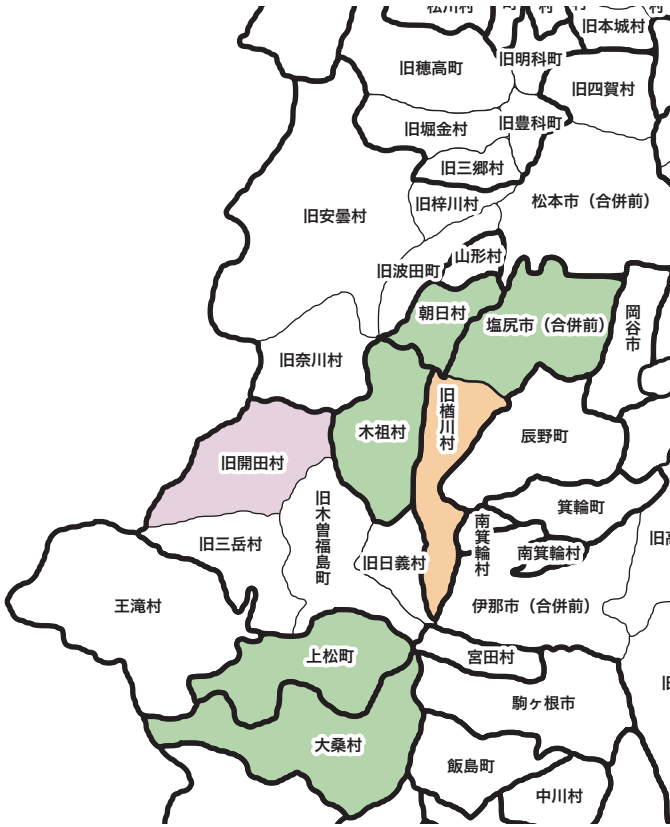
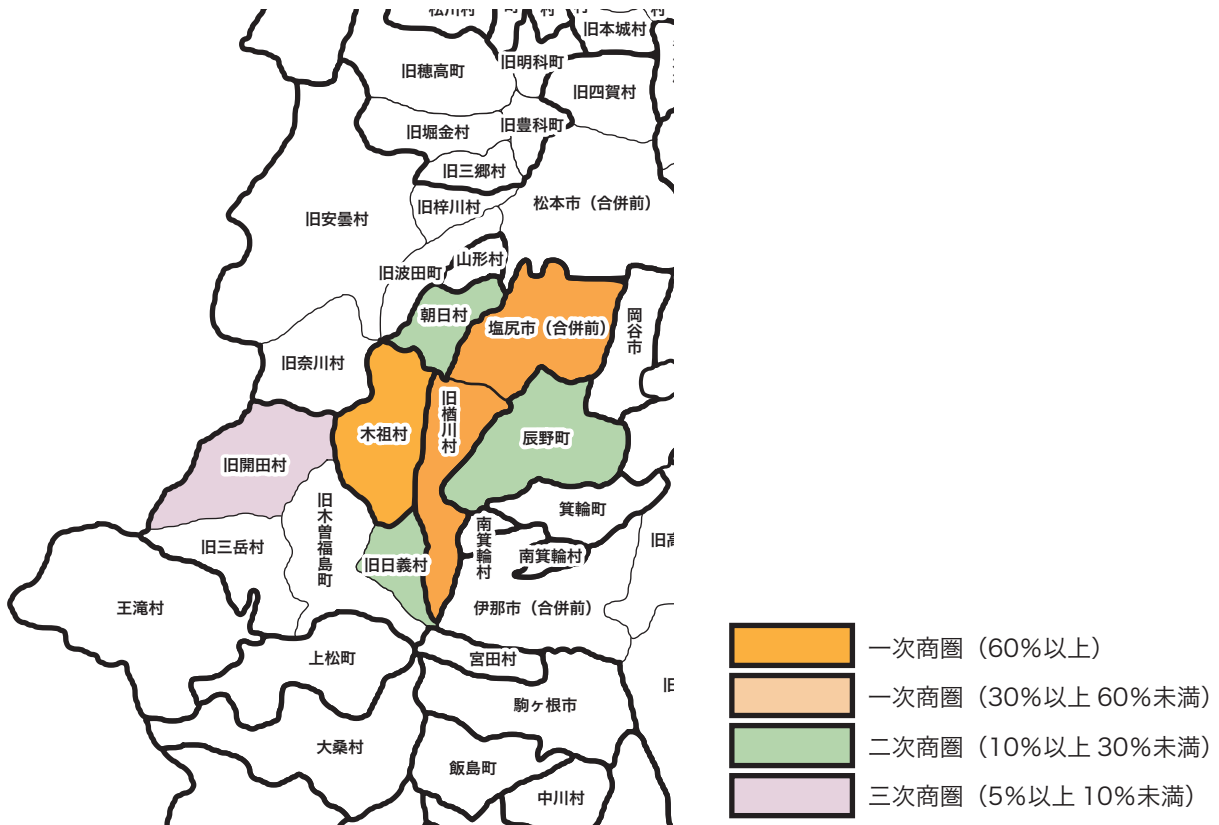


图 82 塩尻市（合併前）商圈 《飲食料品》



旧豊科町（安曇野市）

《全品目平均》（図 83、図 84、図 85）

- （ア）商 圏 人 口 132,640 人（前回調査比+5.6%）
- （イ）商圏内市町村数 15 町村（前回調査比+1）
- （ウ）旧豊科町（安曇野市）商圏から外れた市町村
旧坂井村（筑北村）
- （エ）新たに旧豊科町（安曇野市）商圏に加わった市町村
旧安曇村（松本市）（吸引率 5.2%）、白馬村（吸引率 5.3%）
- （オ）地元滞留率 54.0%（前回調査比+3.0 ポイント）
- （カ）主な流出先 松本市（合併前）（流出率 19.8%）
旧穂高町（安曇野市）（流出率 12.4%）
- （キ）吸 引 人 口 32,575 人（前回調査比+0.5%）
- （ク）吸引力係数 120.7%（前回調査比+1.6 ポイント）

《衣料品》（図 86）

- （ア）商 圏 人 口 133,609 人（前回調査比△16.0%）
- （イ）商圏内市町村数 16 市町村（前回調査比△1）
- （ウ）旧豊科町（安曇野市）商圏から外れた市町村
大町市（合併前）、旧美麻村（大町市）、小谷村
- （エ）新たに旧豊科町（安曇野市）商圏に加わった市町村
麻績村（吸引率 7.7%）
旧安曇村（松本市）（吸引率 5.9%）
- （オ）地元滞留率 43.7%（前回調査比+9.8 ポイント）
- （カ）主な流出先 松本市（合併前）（流出率 18.4%）、
旧穂高町（安曇野市）（流出率 27.0%）
- （キ）吸 引 人 口 25,647 人（前回調査比△5.5%）
- （ク）吸引力係数 95.0%（前回調査比△4.7 ポイント）

《飲食料品》（図 87）

- （ア）商 圏 人 口 72,267 人（前回調査比△31.9%）
- （イ）商圏内市町村数 10 町村（前回調査比△1）
- （ウ）旧豊科町（安曇野市）商圏から外れた市町村
旧坂井村（筑北村）、旧穂高町（安曇野市）
- （エ）新たに旧豊科町（安曇野市）商圏に加わった市町村
旧八坂村（大町市）（吸引率 8.3%）
- （オ）地元滞留率 83.3%（前回調査比+2.0 ポイント）
- （カ）主な流出先 旧穂高町（安曇野市）（流出率 8.3%）、
旧堀金村（安曇野市）（流出率 5.6%）
- （キ）吸 引 人 口 34,288 人（前回調査比△4.6%）
- （ク）吸引力係数 127.1%（前回調査比△4.9 ポイント）

图 83 商圈人口と吸引人口(旧豊科町(安曇野市))
《全品目平均》

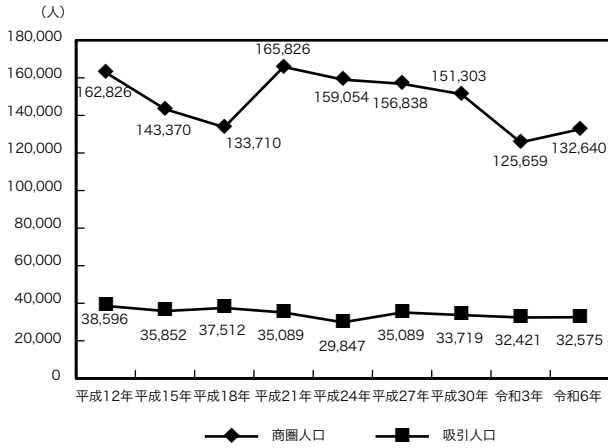


图 84 地元滞留率と吸引力係数(旧豊科町(安曇野市))
《全品目平均》

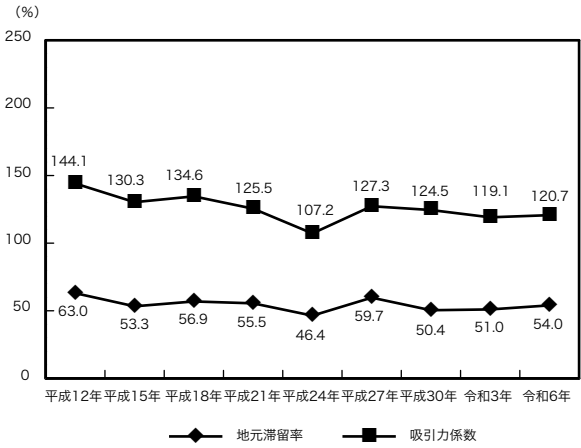


图 85 旧豊科町(安曇野市) 商圈 《全品目平均》

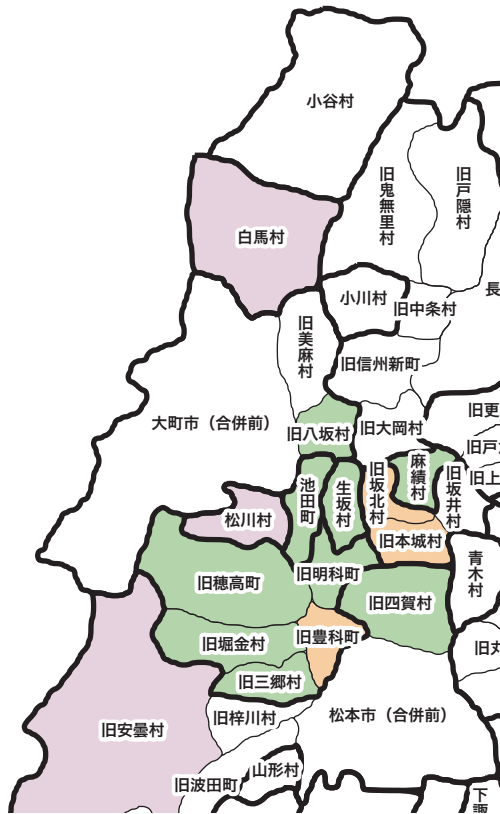
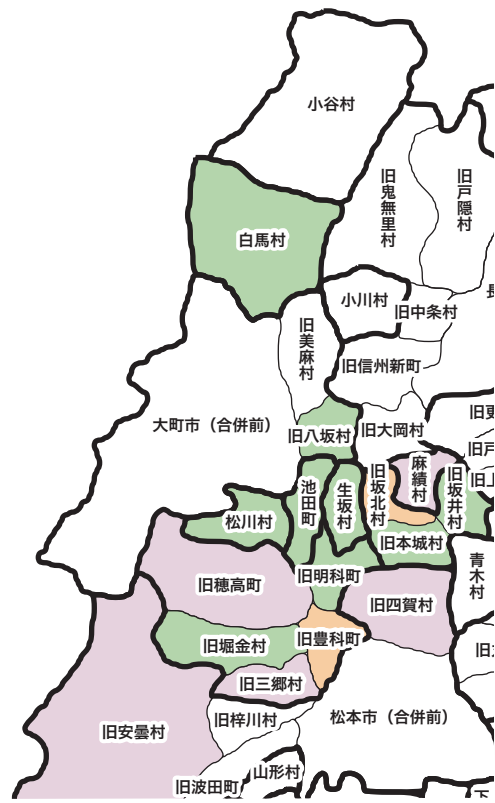
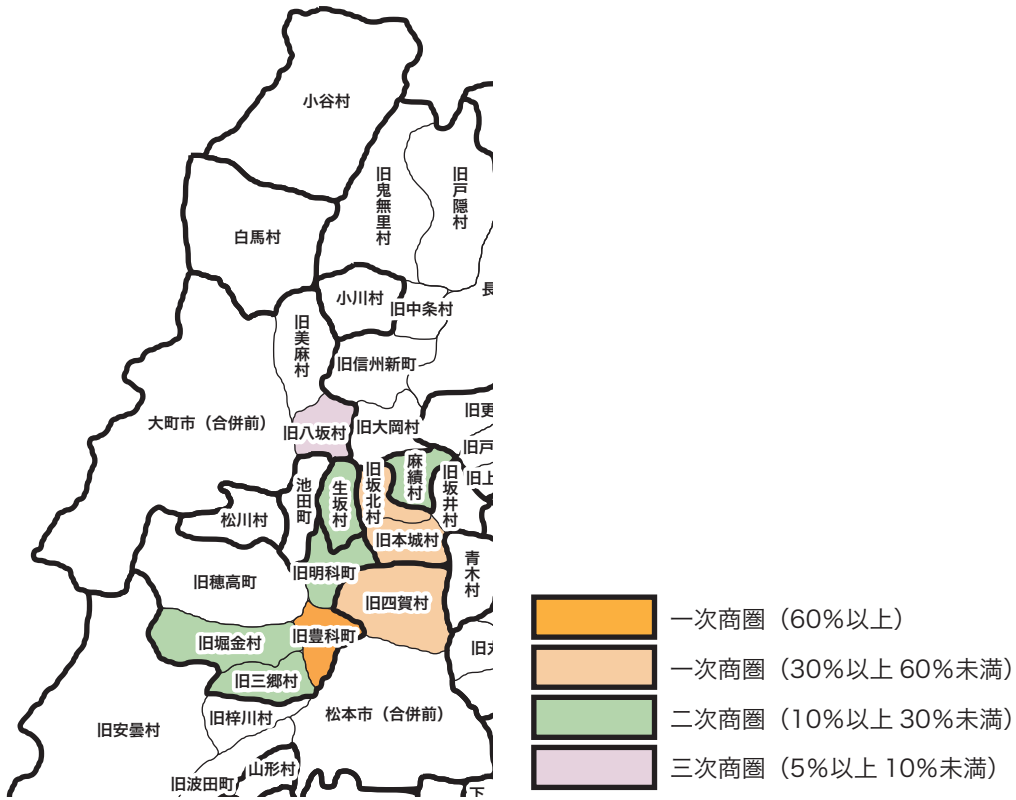


图 86 旧豊科町(安曇野市) 商圈 《衣料品》



- 一次商圈 (60%以上)
- 一次商圈 (30%以上 60%未満)
- 二次商圈 (10%以上 30%未満)
- 三次商圈 (5%以上 10%未満)

图 87 旧豊科町（安曇野市）商圈 《飲食料品》



旧穂高町（安曇野市）

《全品目平均》（図 88、図 89、図 90）

- (ア) 商 圏 人 口 146,728 人（前回調査比△1.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 15 市町村（前回調査比+1）
- (ウ) 旧穂高町（安曇野市）商圏から外れた市町村
旧八坂村（大町市）
- (エ) 新たに旧穂高町（安曇野市）商圏に加わった市町村
旧坂北村（筑北村）（吸引率 21.7%）、
旧美麻村（大町市）（吸引率 5.3%）
- (オ) 地元滞留率 52.2%（前回調査比△0.3 ポイント）
- (カ) 主な流出先 松本市（合併前）（流出率 12.4%）、
旧豊科町（安曇野市）（流出率 13.0%）
- (キ) 吸 引 人 口 32,670 人（前回調査比+1.5%）
- (ク) 吸引力係数 101.8%（前回調査比+2.4 ポイント）

《衣料品》（図 91）

- (ア) 商 圏 人 口 154,022 人（前回調査比+2.3%）
- (イ) 商圏内市町村数 15 市町村（前回調査比±0）
- (ウ) 旧穂高町（安曇野市）商圏から外れた市町村
旧美麻村（大町市）、小谷村
- (エ) 新たに旧穂高町（安曇野市）商圏に加わった市町村
旧坂北村（筑北村）（吸引率 40.6%）、
白馬村（吸引率 6.5%）
- (オ) 地元滞留率 57.7%（前回調査比+4.5 ポイント）
- (カ) 主な流出先 松本市（合併前）（流出率 11.7%）、
旧豊科町（安曇野市）（流出率 7.7%）
- (キ) 吸 引 人 口 51,860 人（前回調査比+8.1%）
- (ク) 吸引力係数 161.7%（前回調査比+13.5 ポイント）

《飲食料品》（図 92）

- (ア) 商 圏 人 口 104,703 人（前回調査比+21.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 12 町村（前回調査比+4）
- (ウ) 旧穂高町（安曇野市）商圏から外れた市町村
<該当なし>
- (エ) 新たに旧穂高町（安曇野市）商圏に加わった市町村
旧坂北村（筑北村）（吸引率 14.3%）、
旧坂井村（筑北村）（吸引率 20.0%）、
旧堀金村（安曇野市）（吸引率 10.3%）、
白馬村（吸引率 5.9%）
- (オ) 地元滞留率 88.2%（前回調査比+9.2 ポイント）
- (カ) 主な流出先 旧堀金村（安曇野市）（流出率 7.4%）
- (キ) 吸 引 人 口 40,251 人（前回調査比+20.7%）
- (ク) 吸引力係数 125.5%（前回調査比+22.5 ポイント）

图 88 商圈人口と吸引人口(旧穂高町(安曇野市))
《全品目平均》

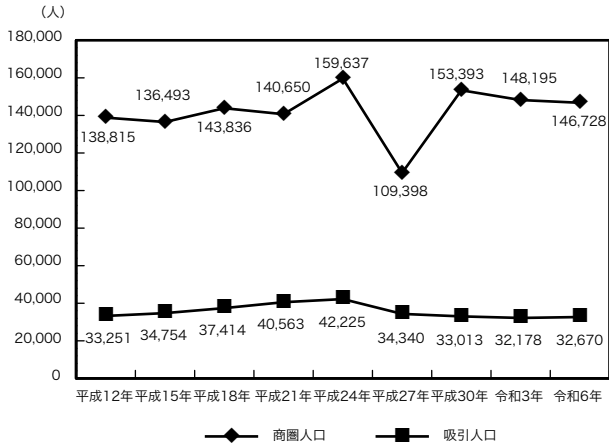


图 89 地元滞留率と吸引力係数(旧穂高町(安曇野市))
《全品目平均》

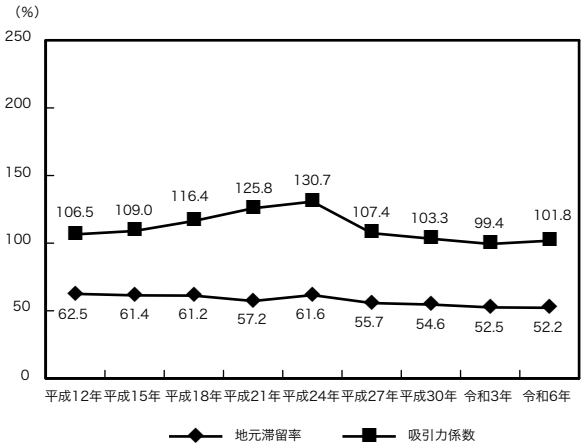


图 90 旧穂高町(安曇野市) 商圈 《全品目平均》

图 91 旧穂高町(安曇野市) 商圈 《衣料品》

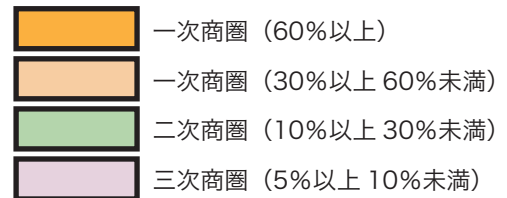
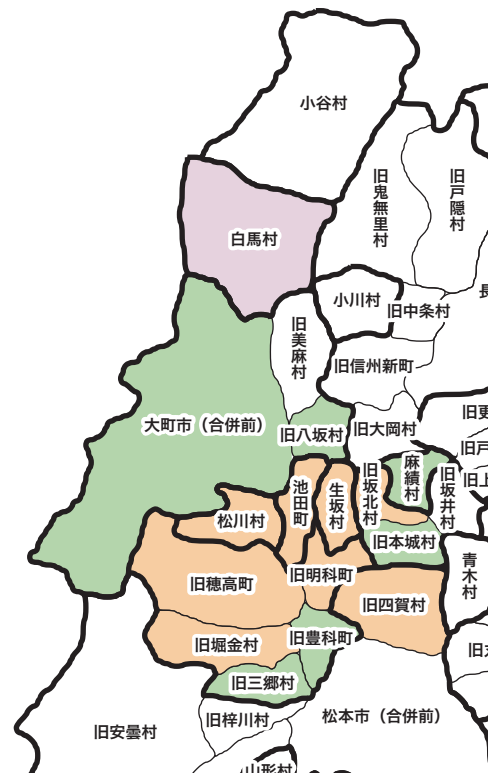
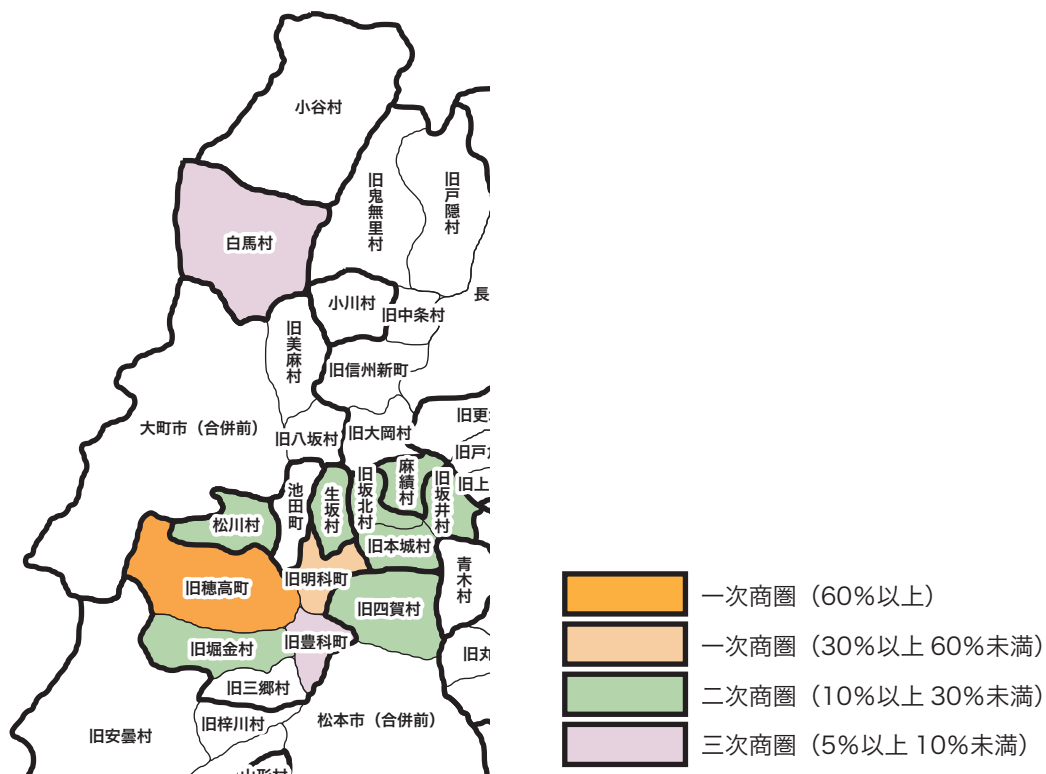


図 92 旧穂高町（安曇野市）商圈 《飲食料品》



旧梓川村（松本市）

《全品目平均》（図 93、図 94、図 95）

- （ア）商 圏 人 口 31,400 人（前回調査比△32.8%）
- （イ）商圏内市町村数 3 村（前回調査比△1）
- （ウ）旧梓川村（松本市）商圏から外れた市町村
旧波田町（松本市）
- （エ）新たに旧梓川村（松本市）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- （オ）地元滞留率 15.4%（前回調査比△12.4ポイント）
- （カ）主な流出先 松本市（合併前）（流出率 56.4%）
- （キ）吸 引 人 口 3,754 人（前回調査比△34.0%）
- （ク）吸引力係数 31.2%（前回調査比△15.5ポイント）

《衣料品》（図 96）

- （ア）商 圏 人 口 46,231 人（前回調査比+33.7%）
- （イ）商圏内市町村数 4 町村（前回調査比+1）
- （ウ）旧梓川村（松本市）商圏から外れた市町村
<該当なし>
- （エ）新たに旧梓川村（松本市）商圏に加わった市町村
旧梓川村（松本市）（吸引率 8.2%）
- （オ）地元滞留率 8.2%（前回調査比+8.2ポイント）
- （カ）主な流出先 松本市（合併前）（流出率 69.2%）
- （キ）吸 引 人 口 4,682 人（前回調査比+38.7%）
- （ク）吸引力係数 39.0%（前回調査比+11.2ポイント）

《飲食料品》（図 97）

- （ア）商 圏 人 口 13,623 人（前回調査比△71.8%）
- （イ）商圏内市町村数 2 村（前回調査比△3）
- （ウ）旧梓川村（松本市）商圏から外れた市町村
旧波田町（松本市）、生坂村、旧三郷村（安曇野市）
- （エ）新たに旧梓川村（松本市）商圏に加わった市町村
<該当なし>
- （オ）地元滞留率 30.7%（前回調査比△69.3ポイント）
- （カ）主な流出先 松本市（合併前）（流出率 41.2%）、山形村（流出率 5.3%）、
旧三郷村（安曇野市）（流出率 14.0%）
- （キ）吸 引 人 口 5,159 人（前回調査比△75.0%）
- （ク）吸引力係数 42.9%（前回調査比△126.5ポイント）

图 93 商圈人口と吸引力人口(旧梓川村(松本市))
《全品目平均》

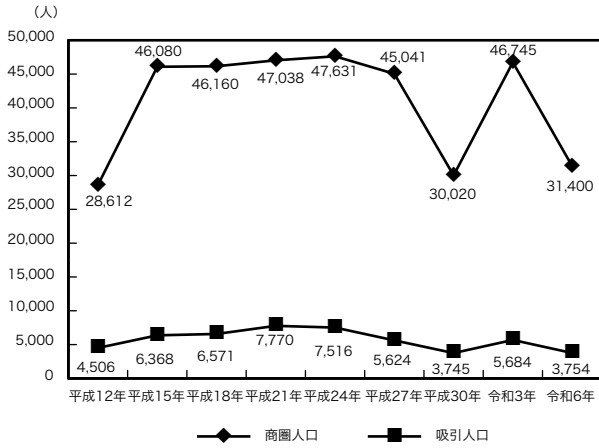


图 94 地元滞留率と吸引力係数(旧梓川村(松本市))
《全品目平均》

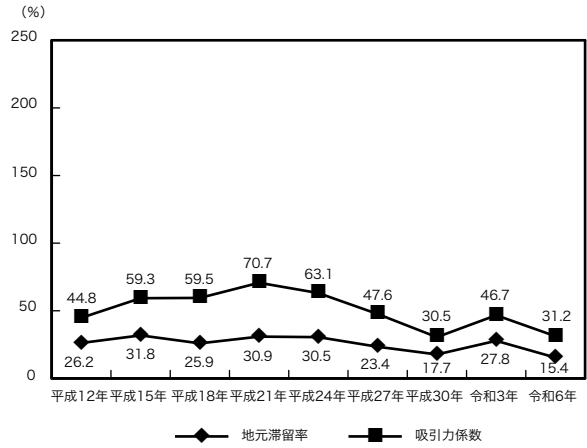


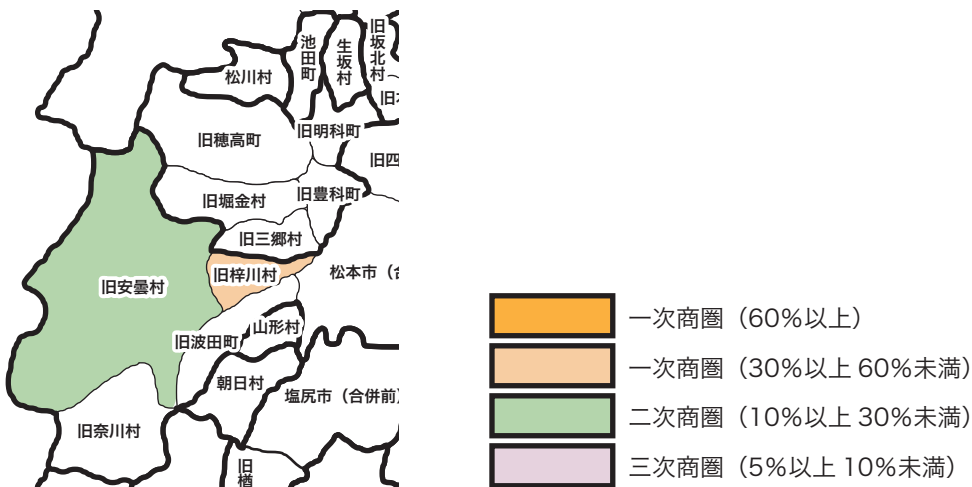
图 95 旧梓川村(松本市) 商圈 《全品目平均》



图 96 旧梓川村(松本市) 商圈 《衣料品》



图 97 旧梓川村(松本市) 商圈 《飲食料品》



山形村

《全品目平均》（図 98、図 99、図 100）

(ア) 商 圏 人 口	28,734 人（前回調査比△3.4%）
(イ) 商圏内市町村数	4 町村（前回調査比△1）
(ウ) 山形村商圏から外れた市町村	旧奈川村（松本市）
(エ) 新たに山形村商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	31.5%（前回調査比+6.7 ポイント）
(カ) 主な流出先	松本市（合併前）（流出率 55.6%）
(キ) 吸 引 人 口	5,217 人（前回調査比+16.3%）
(ク) 吸引力係数	63.3%（前回調査比+9.5 ポイント）

《衣料品》（図 101）

(ア) 商 圏 人 口	4,053 人（前回調査比△3.4%）
(イ) 商圏内市町村数	1 村（前回調査比±0）
(ウ) 山形村商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに山形村商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	3.9%（前回調査比+1.8 ポイント）
(カ) 主な流出先	松本市（合併前）（流出率 77.4%）
(キ) 吸 引 人 口	671 人（前回調査比△31.3%）
(ク) 吸引力係数	8.1%（前回調査比△3.6 ポイント）

《飲食料品》（図 102）

(ア) 商 圏 人 口	41,816 人（前回調査比+40.6%）
(イ) 商圏内市町村数	6 町村（前回調査比+1）
(ウ) 山形村商圏から外れた市町村	旧奈川村（松本市）
(エ) 新たに山形村商圏に加わった市町村	旧三岳村（木曾町）（吸引率 12.5%）、 旧梓川村（松本市）（吸引率 5.3%）
(オ) 地元滞留率	93.7%（前回調査比+16.9 ポイント）
(カ) 主な流出先	松本市（合併前）（流出率 6.3%）
(キ) 吸 引 人 口	24,408 人（前回調査比+26.1%）
(ク) 吸引力係数	296.1%（前回調査比+64.0 ポイント）

図 98 商圈人口と吸引力人口(山形村)
《全品目平均》

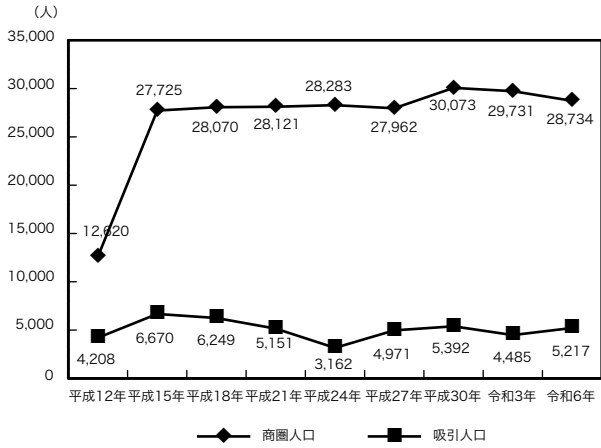


図 99 地元滞留率と吸引力係数(山形村)
《全品目平均》

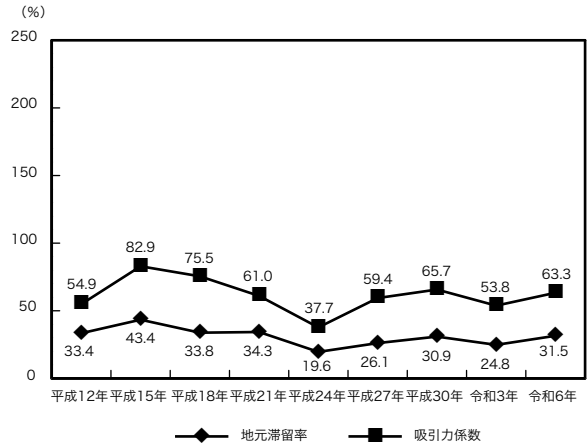


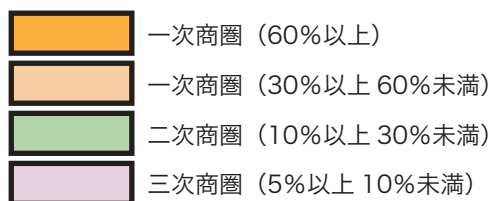
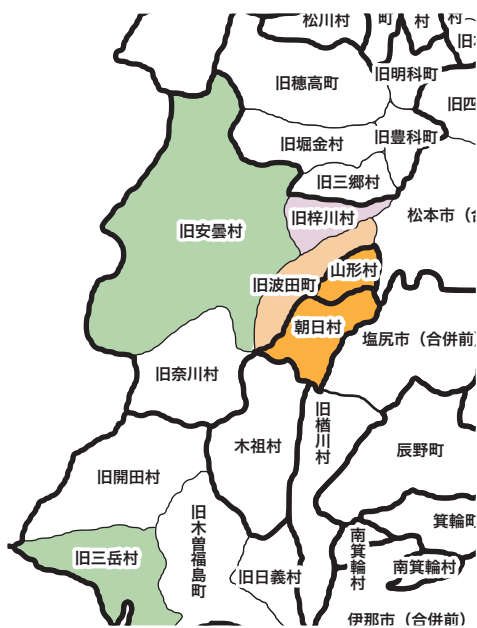
図 100 山形村商圈 《全品目平均》



図 101 山形村商圈 《衣料品》



図 102 山形村商圈 《飲食料品》



旧木曾福島町（木曾町）

《全品目平均》（図 103）

- (ア) 商 圏 人 口 14,207 人（前回調査比△6.0%）
- (イ) 商圏内市町村数 6 町村（前回調査比±0）
- (ウ) 旧木曾福島町（木曾町）商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに旧木曾福島町（木曾町）商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 31.0%（前回調査比+8.1ポイント）
- (カ) 主な流出先 松本市（合併前）（流出率 27.6%）、伊那市（合併前）（流出率 13.5%）、
その他県内（流出率 6.7%）
- (キ) 吸 引 人 口 3,182 人（前回調査比+5.8%）
- (ク) 吸引力係数 58.7%（前回調査比+6.4ポイント）

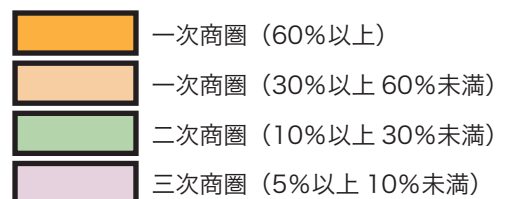
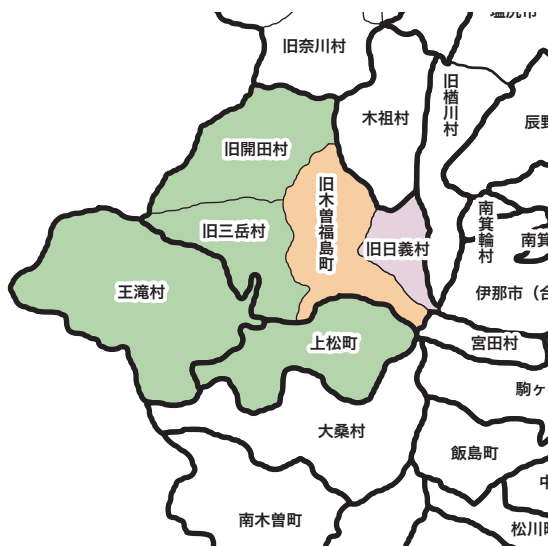
旧日義村（木曾町）

《全品目平均》（図 104）

- (ア) 商 圏 人 口 3,012 人（前回調査比△13.4%）
- (イ) 商圏内市町村数 2 村（前回調査比±0）
- (ウ) 旧日義村（木曾町）商圏から外れた市町村
旧開田村（木曾町）
- (エ) 新たに旧日義村（木曾町）商圏に加わった市町村
旧三岳村（木曾町）（吸引率 12.9%）
- (オ) 地元滞留率 15.2%（前回調査比+1.7ポイント）
- (カ) 主な流出先 松本市（合併前）（流出率 22.8%）、伊那市（合併前）（流出率 32.6%）
旧木曾福島町（木曾町）（流出率 7.2%）
- (キ) 吸 引 人 口 590 人（前回調査比△13.9%）
- (ク) 吸引力係数 30.3%（前回調査比△2.8ポイント）

図 103 旧木曾福島町（木曾町）商圏 《全品目平均》

図 104 旧日義村（木曾町）商圏 《全品目平均》



池田町

《全品目平均》(図 106)

- (ア) 商 圏 人 口 19,870 人 (前回調査比△24.9%)
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村 (前回調査比±0)
- (ウ) 池田町商圏から外れた市町村
旧明科町 (安曇野市)
- (エ) 新たに池田町商圏に加わった市町村
生坂村 (吸引率 9.0%)
- (オ) 地元滞留率 22.6% (前回調査比△0.2 ポイント)
- (カ) 主な流出先 松本市 (合併前) (流出率 20.0%)、
無店舗販売 (流出率 17.7%)、
旧豊科町 (安曇野市) (流出率 18.3%)、
旧穂高町 (安曇野市) (流出率 15.1%)
- (キ) 吸 引 人 口 2,890 人 (前回調査比△9.9%)
- (ク) 吸引力係数 32.8% (前回調査比△1.8 ポイント)

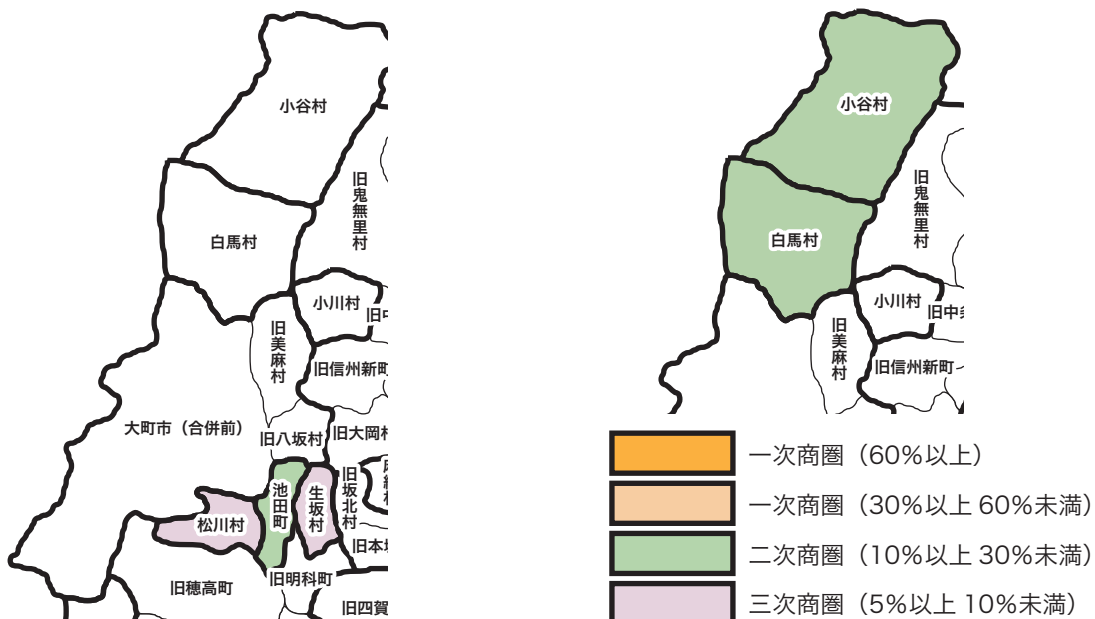
白馬村

《全品目平均》(図 107)

- (ア) 商 圏 人 口 10,847 人 (前回調査比△1.4%)
- (イ) 商圏内市町村数 2 村 (前回調査比±0)
- (ウ) 白馬村商圏から外れた市町村
<該当なし>
- (エ) 新たに白馬村商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 23.4% (前回調査比+0.6 ポイント)
- (カ) 主な流出先 長野市 (合併前) (流出率 21.5%)、
松本市 (合併前) (流出率 6.8%)、大町市 (合併前) (流出率 6.5%)
無店舗販売 (流出率 20.5%)、旧豊科町 (安曇野市) (流出率 5.3%)
その他県内 (6.3%)
- (キ) 吸 引 人 口 2,451 人 (前回調査比+0.3%)
- (ク) 吸引力係数 29.3% (前回調査比+0.3 ポイント)

図 106 池田町商圏 《全品目平均》

図 107 白馬村商圏 《全品目平均》



(4) 南信地区 (図 108、図 109、図 110)

図 108 地元滞留率と増減 (南信地区) ≪全品目平均≫

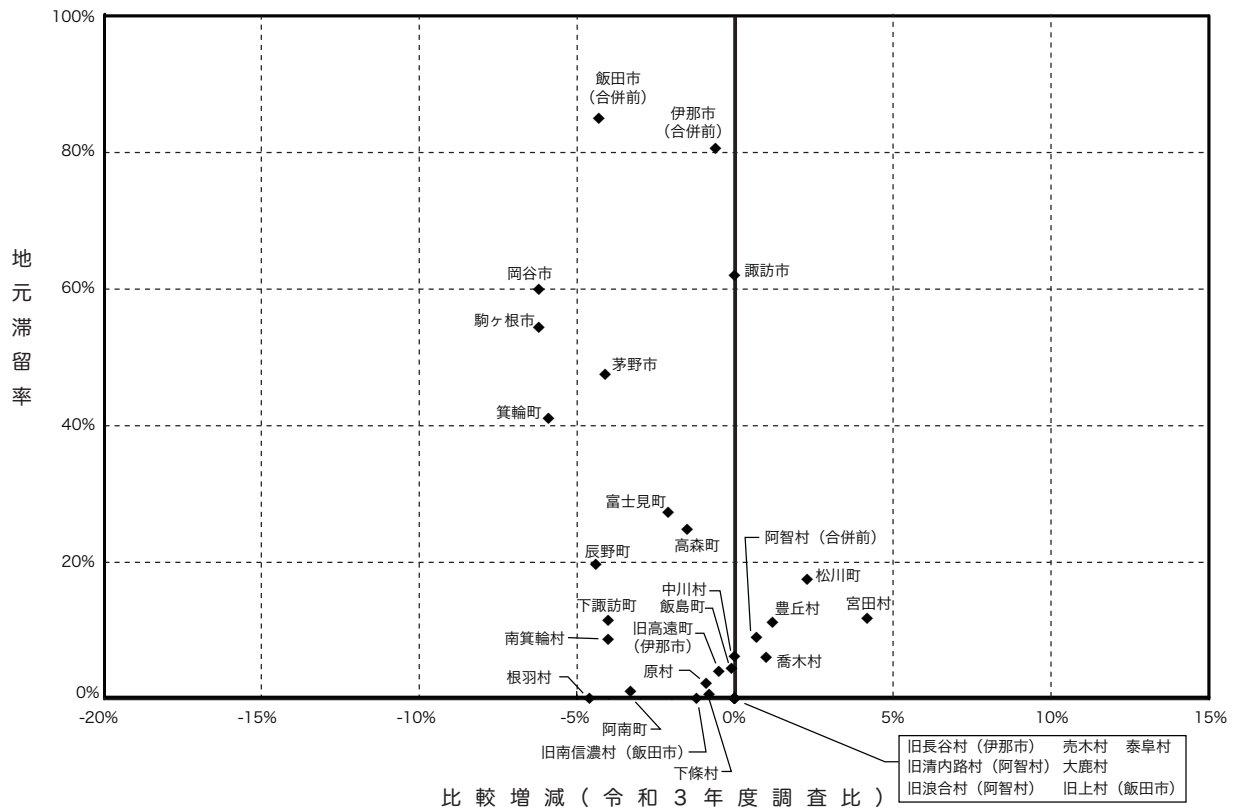


図 109 吸引力係数と増減 (南信地区) ≪全品目平均≫

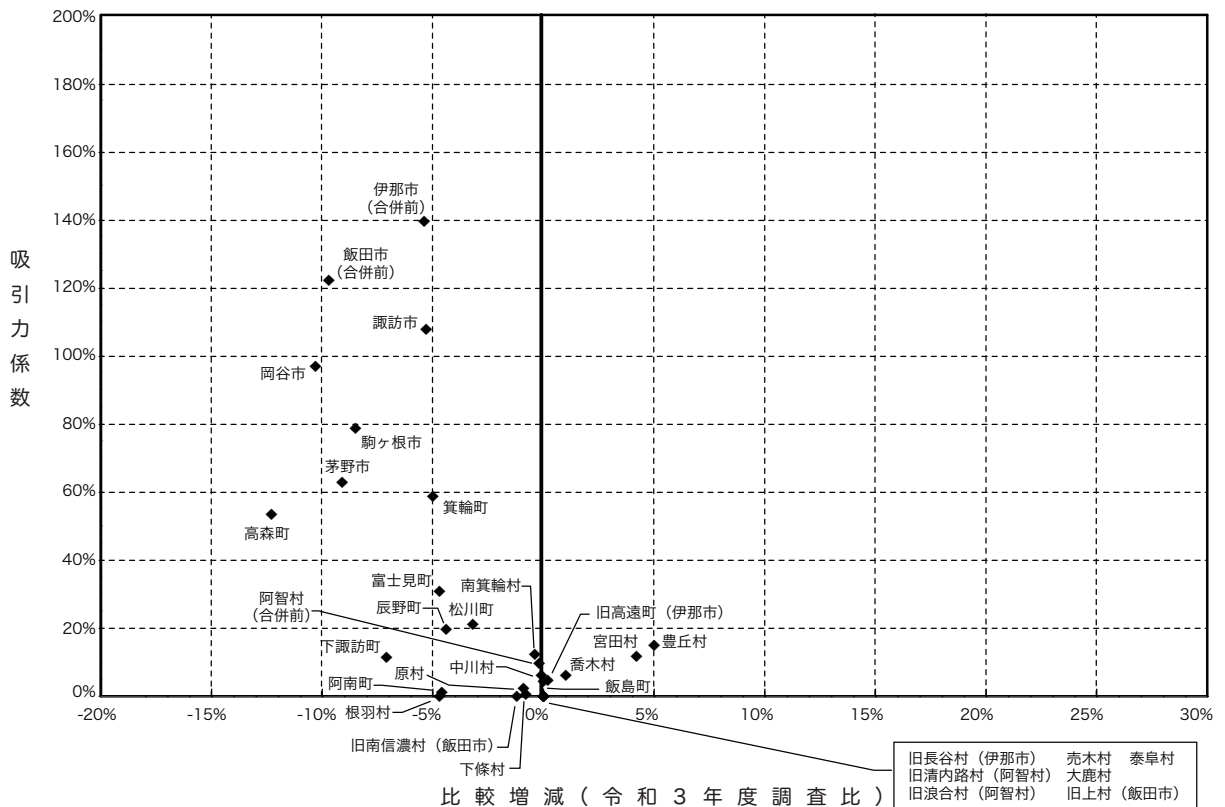
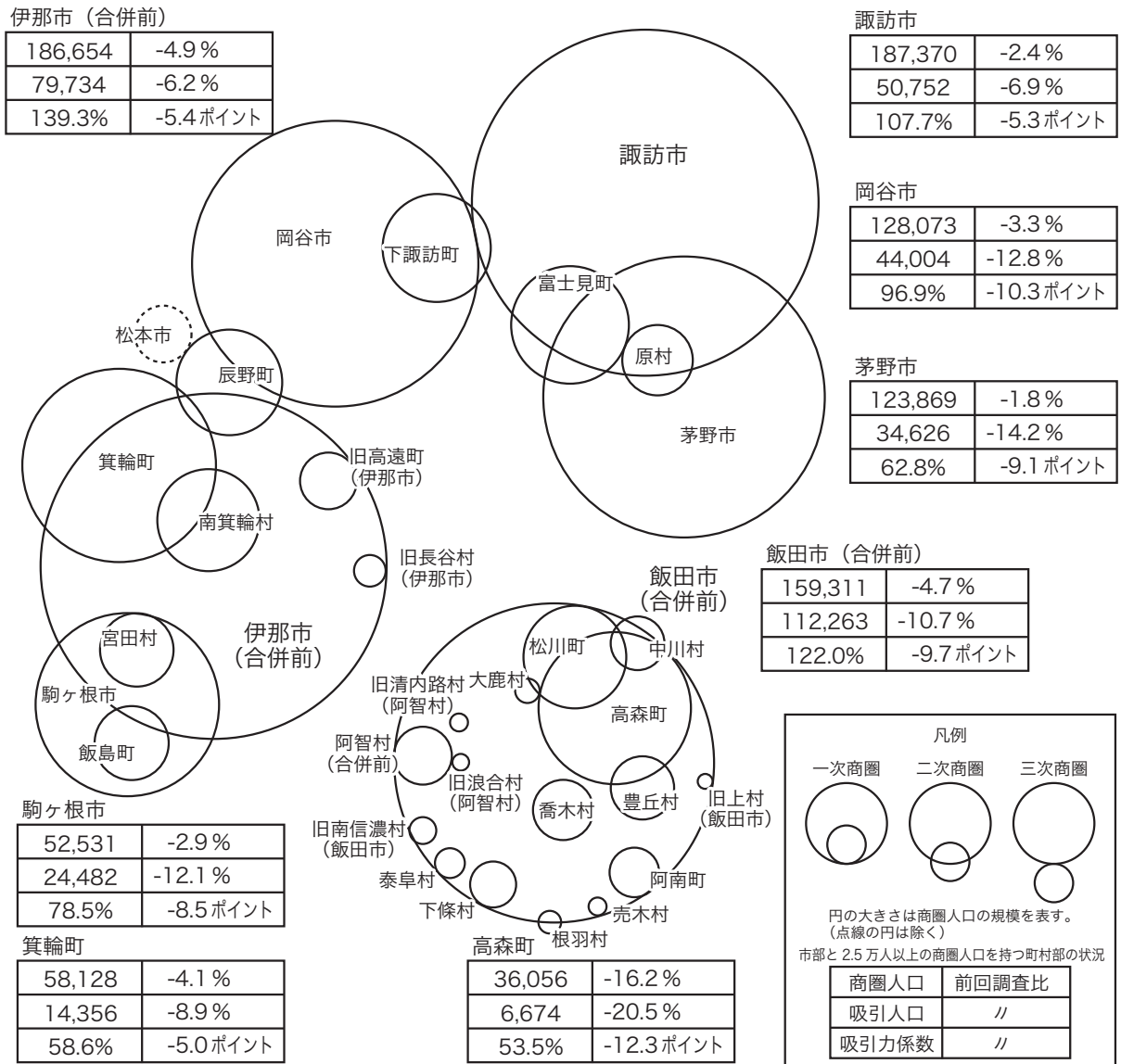


図 110 南信地区の商圈構造（概念図）《全品目平均》



(注) 図表の制約上、一部に凡例と一致しない箇所がある。

- ・ 岡谷市は、松本市（合併前）・諏訪市の三次商圈に含まれる。
- ・ 飯田市（合併前）は、どの商圈にも含まれない。
- ・ 諏訪市は、茅野市・岡谷市の三次商圈に含まれる。
- ・ 伊那市（合併前）は、どの商圈にも含まれない。
- ・ 駒ヶ根市は、伊那市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・ 茅野市は、諏訪市の二次商圈に含まれる。
- ・ 下諏訪町は、岡谷市の一次商圈、諏訪市の二次商圈、松本市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 富士見町は、諏訪市・茅野市の二次商圈に含まれる。
- ・ 原村は、茅野市の一次商圈、諏訪市の二次商圈、富士見町の三次商圈に含まれる。
- ・ 旧高遠町（伊那市）は、伊那市（合併前）の一次商圈、松本市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 辰野町は、岡谷市・伊那市（合併前）・箕輪町の二次商圈、松本市（合併前）・塩尻市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 箕輪町は、伊那市（合併前）の二次商圈、松本市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 飯島町は、駒ヶ根市の一次商圈、伊那市（合併前）の二次商圈、飯田市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 南箕輪村は、伊那市（合併前）の一次商圈、箕輪町の二次商圈、松本市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 中川村は、飯田市（合併前）・駒ヶ根市・高森町・松川町の二次商圈に含まれる。
- ・ 旧長谷村（伊那市）は、伊那市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 宮田村は、伊那市（合併前）・駒ヶ根市の一次商圈、松本市（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 松川町は、飯田市（合併前）の一次商圈、高森町の二次商圈に含まれる。
- ・ 高森町は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 阿南町は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 旧清内路村（阿智村）は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 阿智村（合併前）は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 旧浪合村（阿智村）は、飯田市（合併前）の一次商圈、阿智村（合併前）の三次商圈に含まれる。
- ・ 平谷村は、データがない。
- ・ 根羽村は、飯田市（合併前）の二次商圈に含まれる。
- ・ 下條村は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 売木村は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 天龍村は、データがない。
- ・ 泰阜村は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 喬木村は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 豊丘村は、飯田市（合併前）の一次商圈、高森町の二次商圈に含まれる。
- ・ 大鹿村は、飯田市（合併前）の一次商圈、高森町の三次商圈に含まれる。
- ・ 旧上村（飯田市）は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。
- ・ 旧南信濃村（飯田市）は、飯田市（合併前）の一次商圈に含まれる。

南信地区の6市と自町村以外にも商圏を有する5町村の、《全品目平均》《衣料品》《飲食料品》について、商圏の概要を記載した。ただし、商圏人口2.5万人未満の町村については、《全品目平均》のみとした。

諏訪市

《全品目平均》（図111、図112、図113）

(ア) 商圏人口	187,370人（前回調査比△2.4%）
(イ) 商圏内市町村数	6市町村（前回調査比±0）
(ウ) 諏訪市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに諏訪市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	61.9%（前回調査比±0.0ポイント）
(カ) 主な流出先	茅野市（流出率6.9%）、岡谷市（流出率6.4%）
(キ) 吸引人口	50,752人（前回調査比△6.9%）
(ク) 吸引力係数	107.7%（前回調査比△5.3ポイント）

《衣料品》（図114）

(ア) 商圏人口	187,370人（前回調査比△2.4%）
(イ) 商圏内市町村数	6市町村（前回調査比±0）
(ウ) 諏訪市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに諏訪市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	48.5%（前回調査比+1.9ポイント）
(カ) 主な流出先	岡谷市（流出率11.6%）、 茅野市（流出率9.7%）
(キ) 吸引人口	40,761人（前回調査比△8.3%）
(ク) 吸引力係数	86.5%（前回調査比△5.6ポイント）

《飲食料品》（図115）

(ア) 商圏人口	132,206人（前回調査比△31.2%）
(イ) 商圏内市町村数	5市町村（前回調査比△1）
(ウ) 諏訪市商圏から外れた市町村	茅野市
(エ) 新たに諏訪市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	90.7%（前回調査比+0.6ポイント）
(カ) 主な流出先	茅野市（流出率7.1%）
(キ) 吸引人口	54,335人（前回調査比△2.7%）
(ク) 吸引力係数	115.3%（前回調査比△0.5ポイント）

図 111 商圈人口と吸引人口（諏訪市）
《全品目平均》

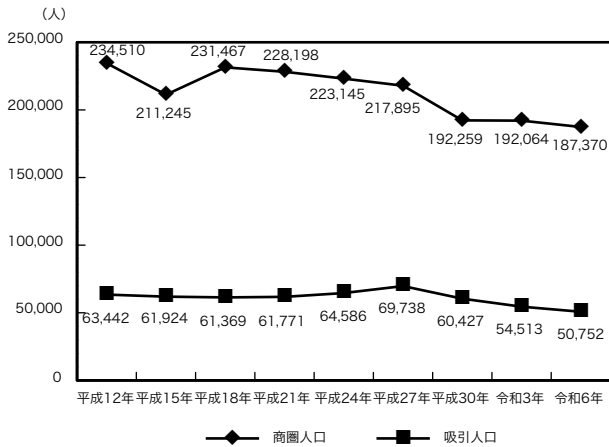


図 112 地元滞留率と吸引力係数（諏訪市）
《全品目平均》

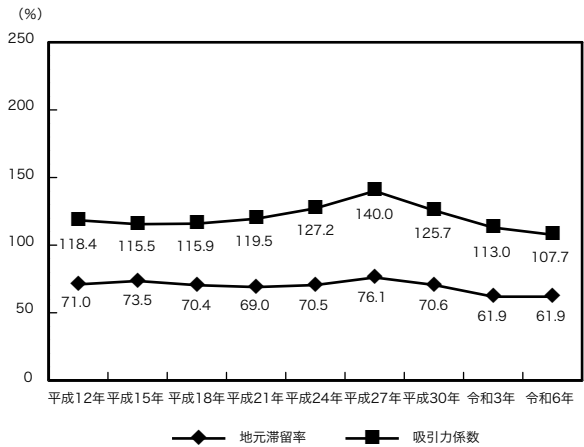


図 113 諏訪市商圈 《全品目平均》

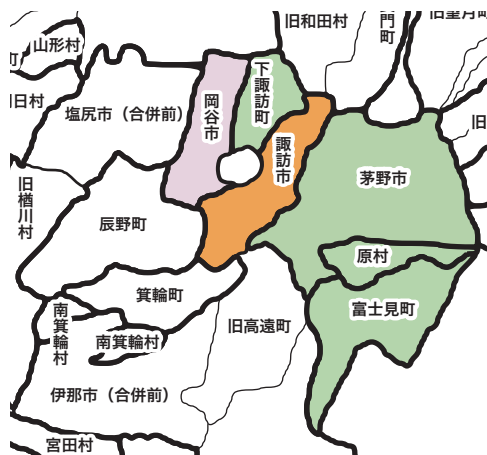


図 114 諏訪市商圈 《衣料品》

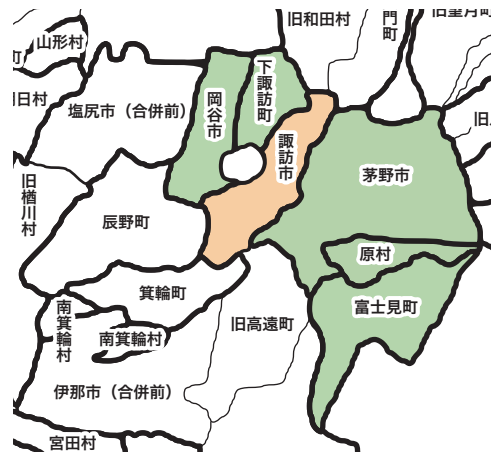
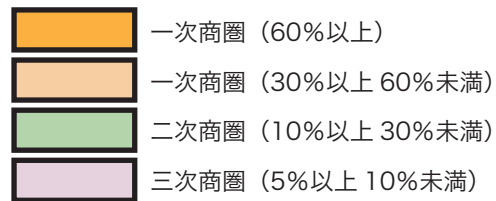
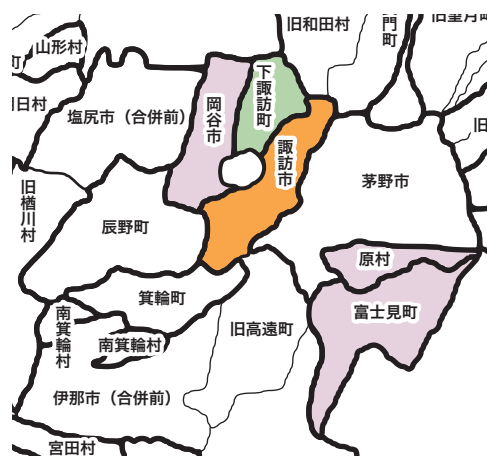


図 115 諏訪市商圈 《飲食料品》



岡谷市

《全品目平均》（図 116、図 117、図 118）

- (ア) 商 圏 人 口 128,073 人（前回調査比△3.3%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町（前回調査比±0）
- (ウ) 岡谷市商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに岡谷市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 59.9%（前回調査比△6.2 ポイント）
- (カ) 主な流出先 諏訪市（流出率 9.4%）、松本市（合併前）（流出率 6.0%）
- (キ) 吸 引 人 口 44,004 人（前回調査比△12.8%）
- (ク) 吸引力係数 96.9%（前回調査比△10.3 ポイント）

《衣料品》（図 119）

- (ア) 商 圏 人 口 128,073 人（前回調査比△42.1%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比△3）
- (ウ) 岡谷市商圏から外れた市町村
茅野市、原村、箕輪町
- (エ) 新たに岡谷市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 56.4%（前回調査比△7.6 ポイント）
- (カ) 主な流出先 諏訪市（流出率 10.3%）、松本市（合併前）（流出率 8.6%）
- (キ) 吸 引 人 口 51,851 人（前回調査比△14.4%）
- (ク) 吸引力係数 114.2%（前回調査比△14.4 ポイント）

《飲食料品》（図 120）

- (ア) 商 圏 人 口 63,501 人（前回調査比△3.7%）
- (イ) 商圏内市町村数 2 市町（前回調査比±0）
- (ウ) 岡谷市商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに岡谷市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 84.6%（前回調査比△3.4 ポイント）
- (カ) 主な流出先 諏訪市（流出率 8.4%）
- (キ) 吸 引 人 口 46,751 人（前回調査比△6.0%）
- (ク) 吸引力係数 102.9%（前回調査比△2.7 ポイント）

図 116 商圈人口と吸引人口（岡谷市）
《全品目平均》

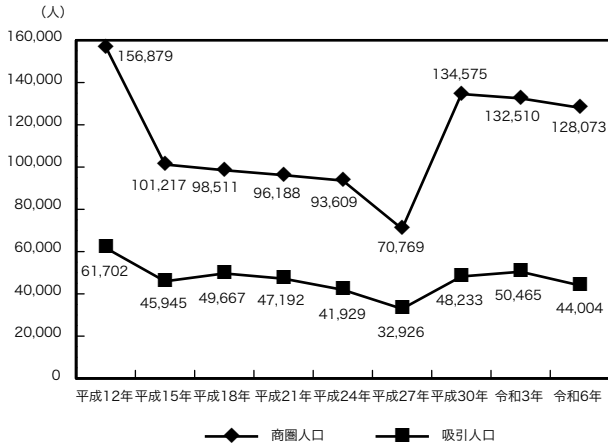


図 117 地元滞留率と吸引力係数（岡谷市）
《全品目平均》

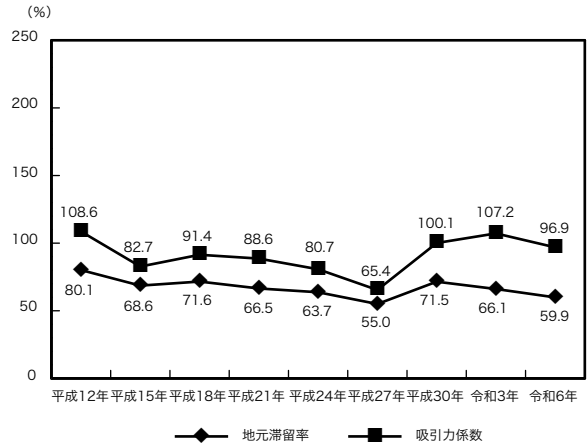


図 118 岡谷市商圈 《全品目平均》

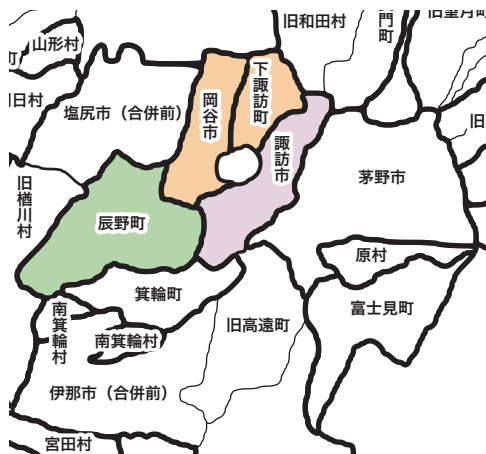


図 119 岡谷市商圈 《衣料品》

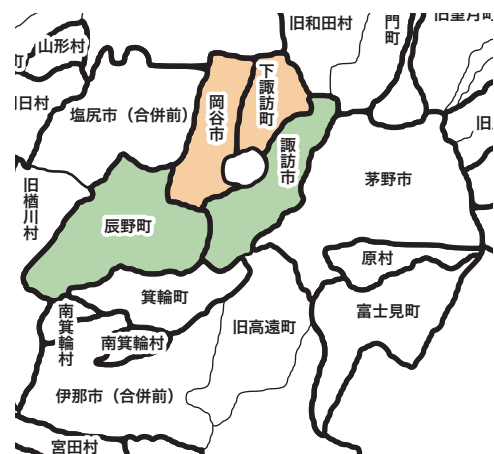
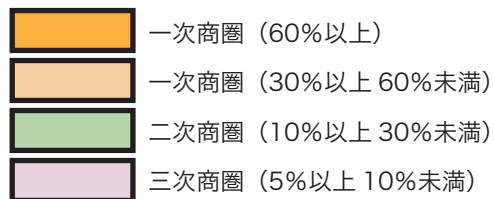


図 120 岡谷市商圈 《飲食料品》



茅野市

《全品目平均》（図 121、図 122、図 123）

(ア) 商 圏 人 口	123,869 人（前回調査比△1.8%）
(イ) 商圏内市町村数	4 市町村（前回調査比±0）
(ウ) 茅野市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに茅野市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	47.5%（前回調査比△4.1 ポイント）
(カ) 主な流出先	諏訪市（流出率 18.2%）
(キ) 吸 引 人 口	34,626 人（前回調査比△14.2%）
(ク) 吸引力係数	62.8%（前回調査△9.1 ポイント）

《衣料品》（図 124）

(ア) 商 圏 人 口	123,869 人（前回調査比△1.8%）
(イ) 商圏内市町村数	4 市町村（前回調査比±0）
(ウ) 茅野市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに茅野市商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	46.1%（前回調査比△5.3 ポイント）
(カ) 主な流出先	諏訪市（流出率 13.8%）
(キ) 吸 引 人 口	36,200 人（前回調査比△20.3%）
(ク) 吸引力係数	65.6%（前回調査比△15.3 ポイント）

《飲食料品》（図 125）

(ア) 商 圏 人 口	123,869 人（前回調査比+10.5%）
(イ) 商圏内市町村数	4 市町村（前回調査比+1）
(ウ) 茅野市商圏から外れた市町村	<該当なし>
(エ) 新たに茅野市商圏に加わった市町村	富士見町（吸引率 23.8%）
(オ) 地元滞留率	94.8%（前回調査比+3.9 ポイント）
(カ) 主な流出先	<該当なし>
(キ) 吸 引 人 口	62,548 人（前回調査比+9.6%）
(ク) 吸引力係数	113.4%（前回調査比+11.8 ポイント）

図 121 商圈人口と吸引人口（茅野市）
《全品目平均》

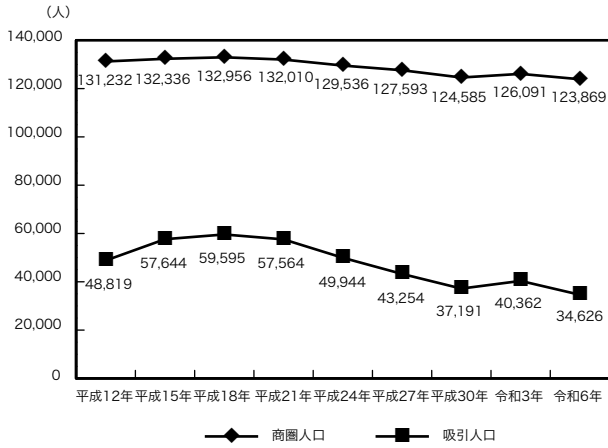


図 122 地元滞留率と吸引力係数（茅野市）
《全品目平均》

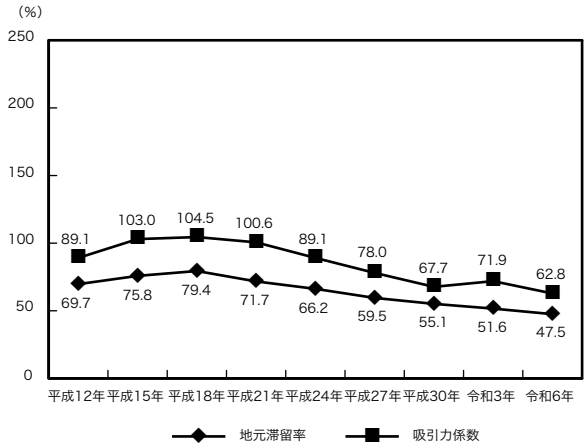


図 123 茅野市商圈 《全品目平均》

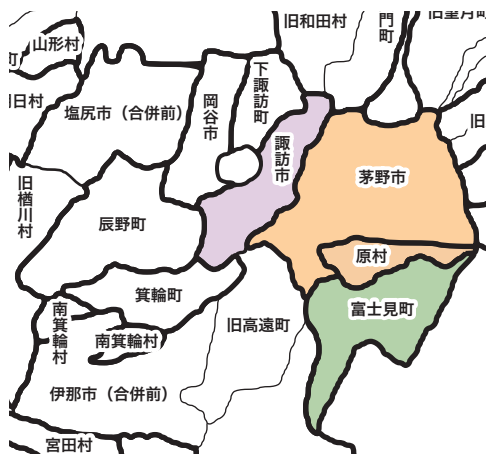


図 124 茅野市商圈 《衣料品》

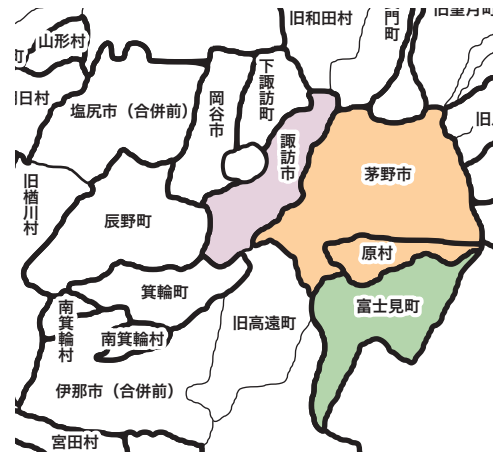
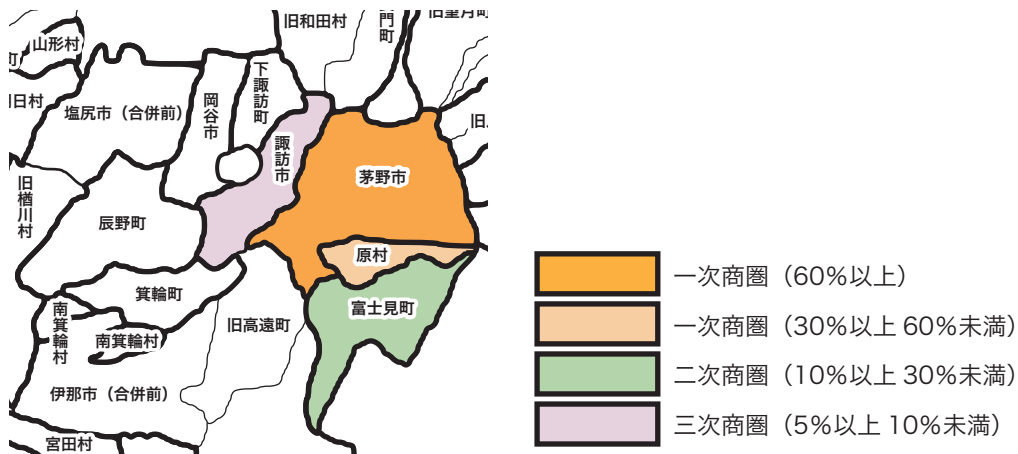


図 125 茅野市商圈 《飲食料品》



伊那市（合併前）

《全品目平均》（図 126、図 127、図 128）

（ア）商 圏 人 口	186,654 人（前回調査比△4.9%）
（イ）商圏内市町村数	16 市町村（前回調査比△1）
（ウ）伊那市（合併前）商圏から外れた市町村	中川村
（エ）新たに伊那市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	80.5%（前回調査比△0.6 ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸 引 人 口	79,734 人（前回調査比△6.2%）
（ク）吸引力係数	139.3%（前回調査比△5.4 ポイント）

《衣料品》（図 129）

（ア）商 圏 人 口	188,846 人（前回調査比△3.8%）
（イ）商圏内市町村数	17 市町村（前回調査比±0）
（ウ）伊那市（合併前）商圏から外れた市町村	中川村
（エ）新たに伊那市（合併前）商圏に加わった市町村	旧檜川村（塩尻市）（吸引率 5.3%）
（オ）地元滞留率	74.8%（前回調査比△3.2 ポイント）
（カ）主な流出先	松本市（合併前）（流出率 5.6%）
（キ）吸 引 人 口	80,346 人（前回調査比△10.7%）
（ク）吸引力係数	140.3%（前回調査比△12.8 ポイント）

《飲食料品》（図 130）

（ア）商 圏 人 口	144,952 人（前回調査比+3.5%）
（イ）商圏内市町村数	12 市町村（前回調査比△1）
（ウ）伊那市（合併前）商圏から外れた市町村	飯島町、王滝村
（エ）新たに伊那市（合併前）商圏に加わった市町村	辰野町（吸引率 14.5%）
（オ）地元滞留率	96.5%（前回調査比+3.4 ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸 引 人 口	83,201 人（前回調査比+1.2%）
（ク）吸引力係数	145.3%（前回調査比+5.3 ポイント）

図 126 商圈人口と吸引人口（伊那市（合併前））
《全品目平均》

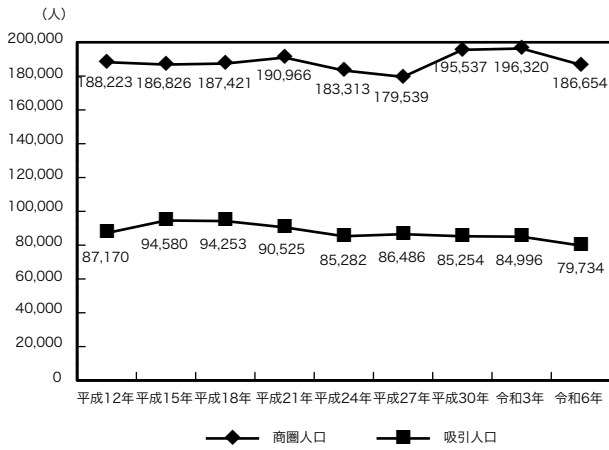


図 127 地元滞留率と吸引力係数（伊那市（合併前））
《全品目平均》

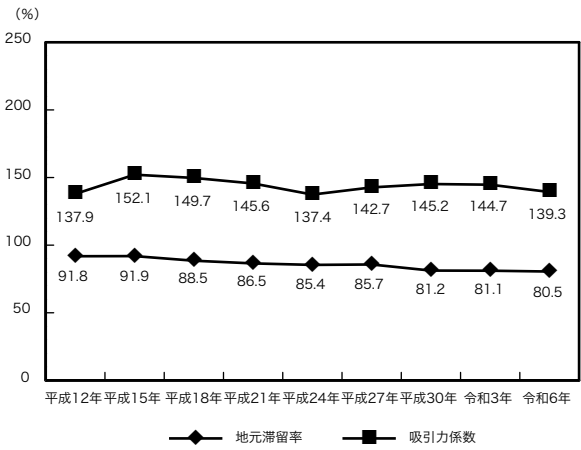


図 128 伊那市（合併前）商圈 《全品目平均》

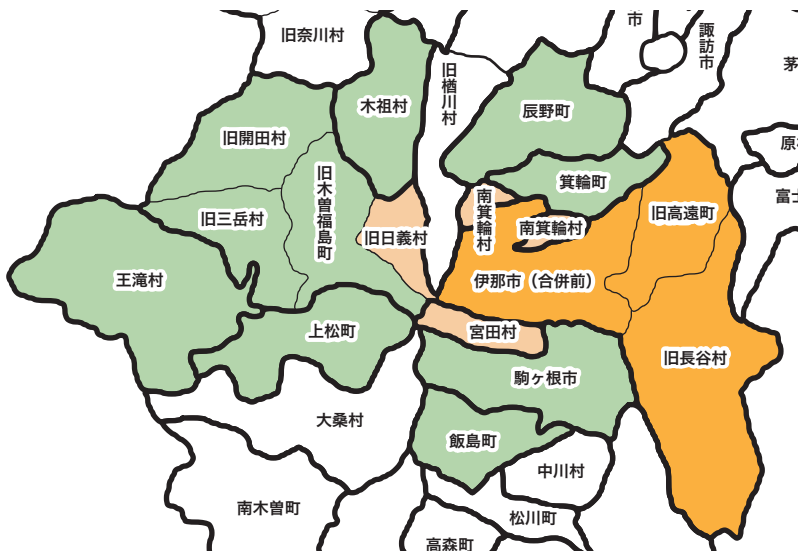
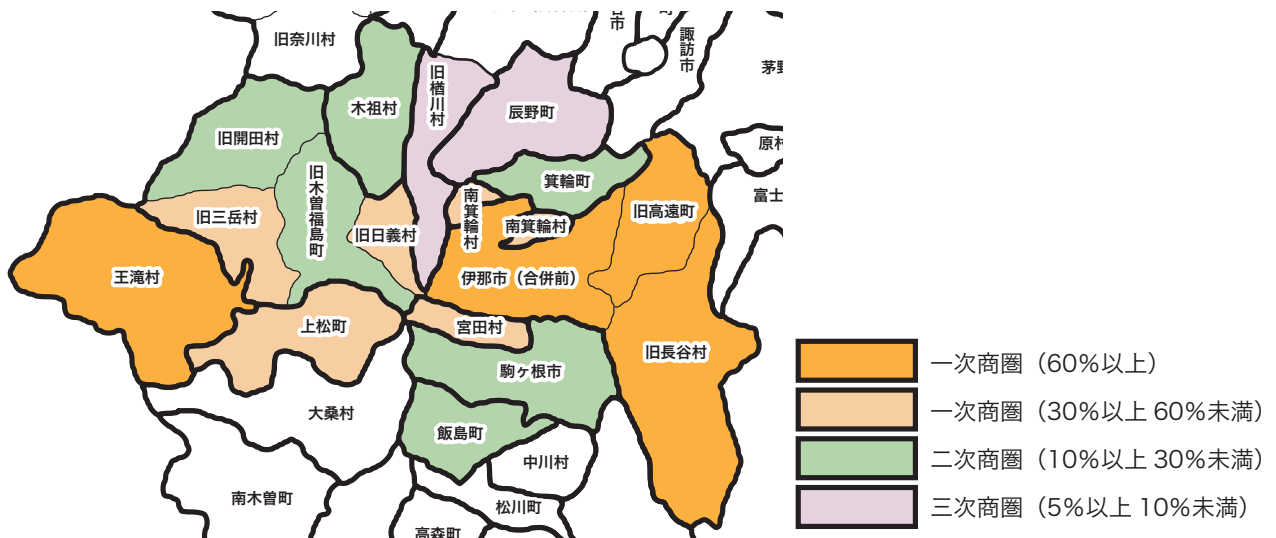


図 129 伊那市（合併前）商圈 《衣料品》



駒ヶ根市

《全品目平均》（図 131、図 132、図 133）

- (ア) 商 圏 人 口 52,531 人（前回調査比△2.9%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比±0）
- (ウ) 駒ヶ根市商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに駒ヶ根市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 54.4%（前回調査比△6.3 ポイント）
- (カ) 主な流出先 伊那市（合併前）（流出率 15.8%）
- (キ) 吸 引 人 口 24,482 人（前回調査比△12.1%）
- (ク) 吸引力係数 78.5%（前回調査比△8.5 ポイント）

《衣料品》（図 134）

- (ア) 商 圏 人 口 48,084 人（前回調査比△2.8%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 市町村（前回調査比±0）
- (ウ) 駒ヶ根市商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに駒ヶ根市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 40.8%（前回調査比△7.6 ポイント）
- (カ) 主な流出先 伊那市（合併前）（流出率 26.3%）、
松本市（合併前）（流出率 6.8%）
- (キ) 吸 引 人 口 18,868 人（前回調査比△19.5%）
- (ク) 吸引力係数 60.5%（前回調査比△12.8 ポイント）

《飲食料品》（図 135）

- (ア) 商 圏 人 口 52,531 人（前回調査比△22.1%）
- (イ) 商圏内市町村数 4 市町村（前回調査比△2）
- (ウ) 駒ヶ根市商圏から外れた市町村
松川町、大鹿村
- (エ) 新たに駒ヶ根市商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 92.9%（前回調査比△1.9 ポイント）
- (カ) 主な流出先 ＜該当なし＞
- (キ) 吸 引 人 口 39,635 人（前回調査比△2.5%）
- (ク) 吸引力係数 127.1%（前回調査比±0.0 ポイント）

図 131 商圈人口と吸引人口（駒ヶ根市）
《全品目平均》

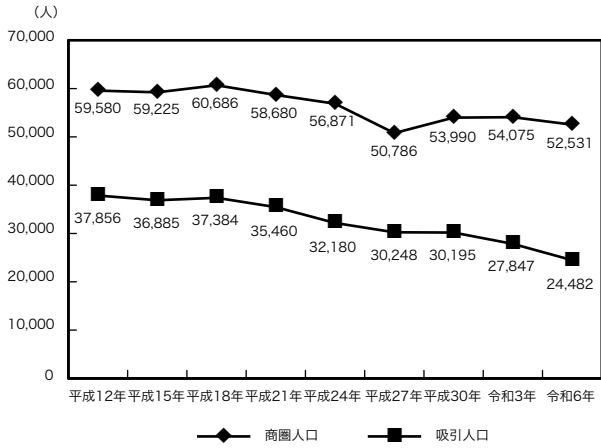


図 132 地元滞留率と吸引力係数（駒ヶ根市）
《全品目平均》

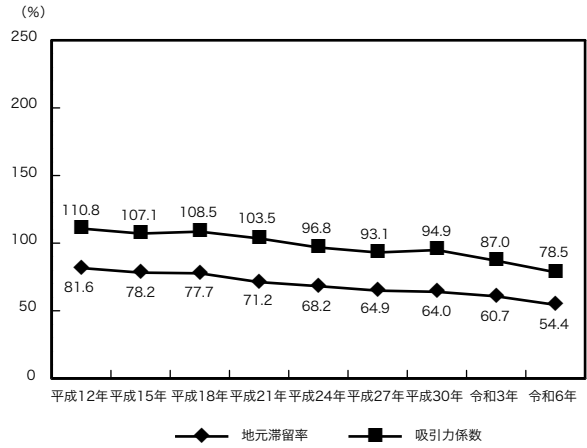


図 133 駒ヶ根市商圈 《全品目平均》

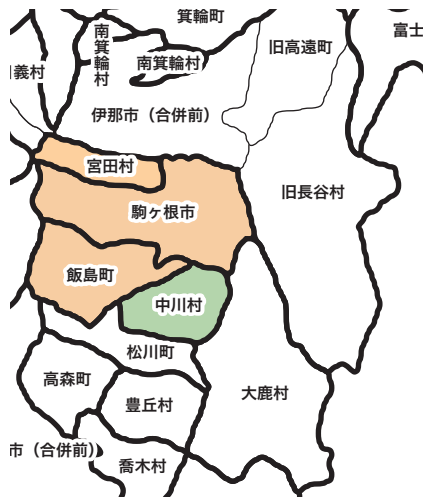


図 134 駒ヶ根市商圈 《衣料品》

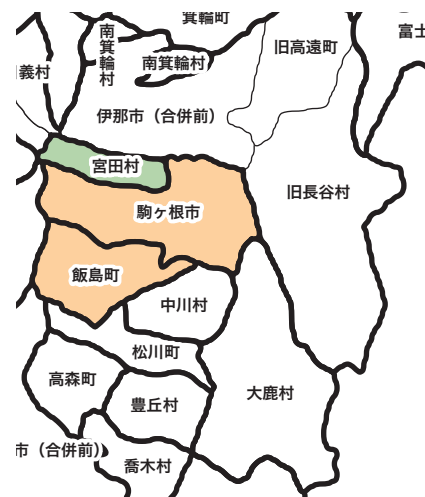
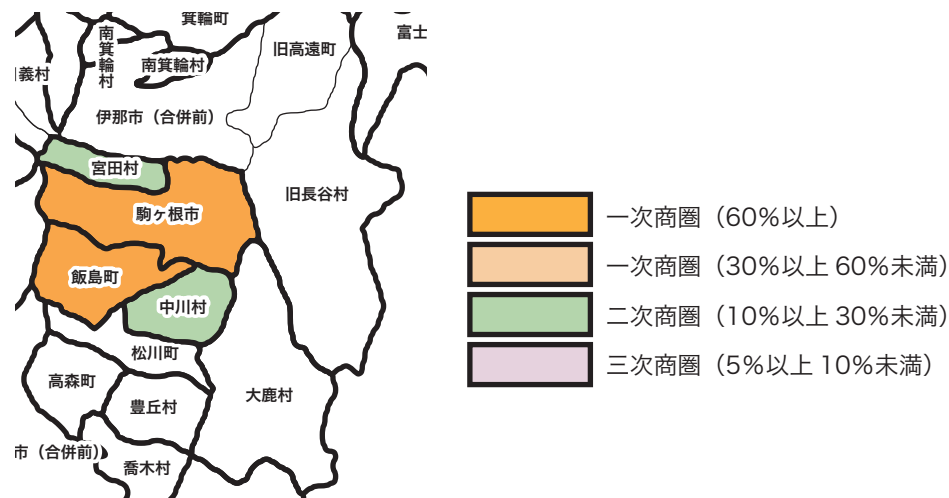


図 135 駒ヶ根市商圈 《飲食料品》



飯田市（合併前）

《全品目平均》（図 136、図 137、図 138）

（ア）商 圏 人 口	159,311 人（前回調査比△4.7%）
（イ）商圏内市町村数	18 市町村（前回調査比△2）
（ウ）飯田市（合併前）商圏から外れた市町村	平谷村（データなし）、天龍村（データなし）
（エ）新たに飯田市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	84.9%（前回調査比△4.3 ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸 引 人 口	112,263 人（前回調査比△10.7%）
（ク）吸引力係数	122.0%（前回調査比△9.7 ポイント）

《衣料品》（図 139）

（ア）商 圏 人 口	159,311 人（前回調査比△4.7%）
（イ）商圏内市町村数	18 市町村（前回調査比△2）
（ウ）飯田市（合併前）商圏から外れた市町村	平谷村（データなし）、天龍村（データなし）
（エ）新たに飯田市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	83.3%（前回調査比△5.5 ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸 引 人 口	117,320 人（前回調査比△10.8%）
（ク）吸引力係数	127.4%（前回調査比△10.2 ポイント）

《飲食料品》（図 140）

（ア）商 圏 人 口	133,494 人（前回調査比△12.9%）
（イ）商圏内市町村数	14 市町村（前回調査比△3）
（ウ）飯田市（合併前）商圏から外れた市町村	松川町、根羽村、天龍村（データなし）
（エ）新たに飯田市（合併前）商圏に加わった市町村	<該当なし>
（オ）地元滞留率	94.9%（前回調査比△3.0 ポイント）
（カ）主な流出先	<該当なし>
（キ）吸 引 人 口	107,260 人（前回調査比△6.6%）
（ク）吸引力係数	116.5%（前回調査比△3.7 ポイント）

図 136 商圈人口と吸引人口(飯田市(合併前))
 ≪全品目平均≫

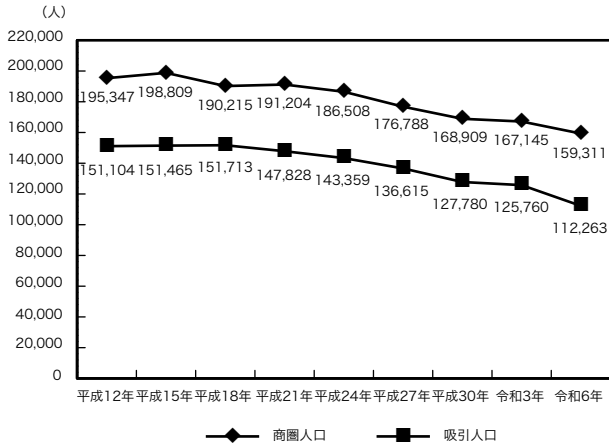


図 137 地元滞留率と吸引力係数(飯田市(合併前))
 ≪全品目平均≫



図 138 飯田市(合併前) 商圈 ≪全品目平均≫

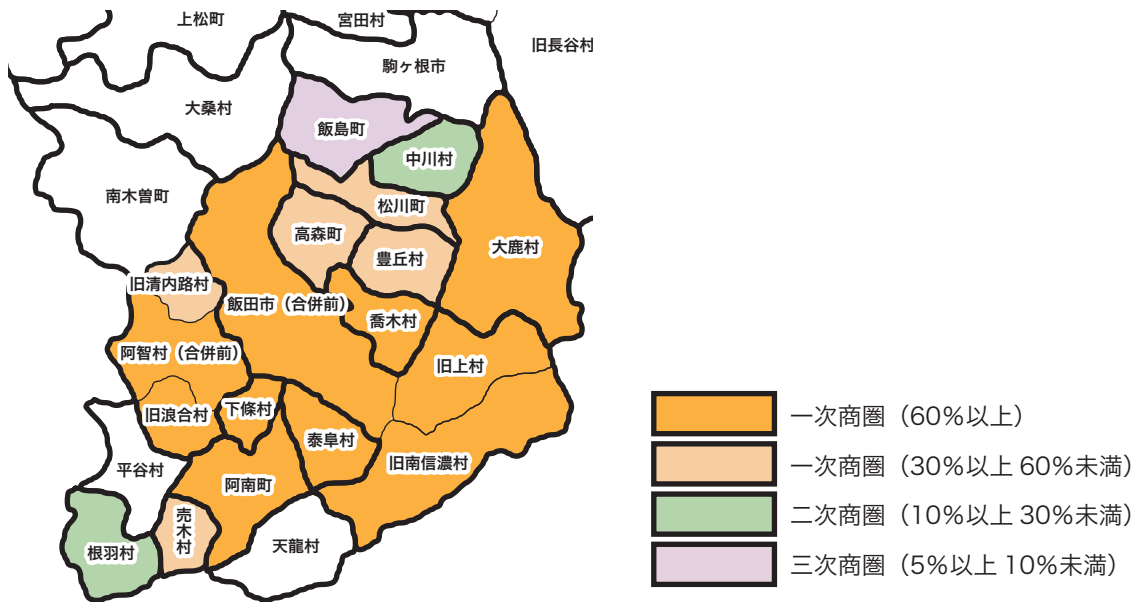
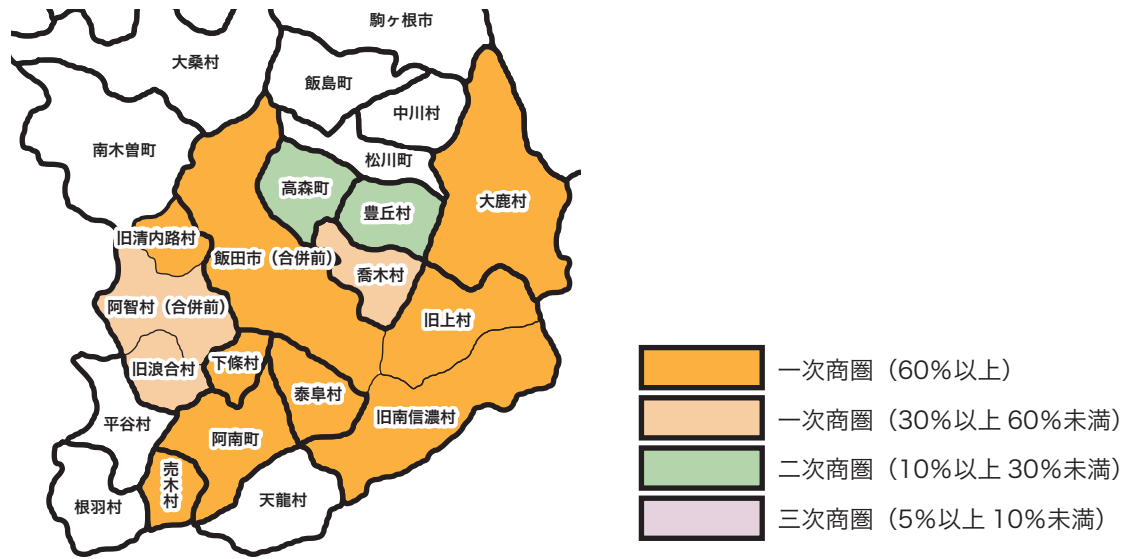


图 139 飯田市（合併前）商圈 《衣料品》



图 140 飯田市（合併前）商圈 《飲食料品》



箕輪町

《全品目平均》（図 141、図 142、図 143）

- (ア) 商 圏 人 口 58,128 人（前回調査比△4.1%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村（前回調査比△1）
- (ウ) 箕輪町商圏から外れた市町村
旧長谷村（伊那市）
- (エ) 新たに箕輪町商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 41.0%（前回調査比△5.9 ポイント）
- (カ) 主な流出先 伊那市（合併前）（流出率 26.7%）、
松本市（合併前）（流出率 6.7%）
- (キ) 吸 引 人 口 14,356 人（前回調査比△8.9%）
- (ク) 吸引力係数 58.6%（前回調査比△5.0 ポイント）

《衣料品》（図 144）

- (ア) 商 圏 人 口 58,128 人（前回調査比△1.5%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村（前回調査比±0）
- (ウ) 箕輪町商圏から外れた市町村
<該当なし>
- (エ) 新たに箕輪町商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 33.7%（前回調査比△6.6 ポイント）
- (カ) 主な流出先 伊那市（合併前）（流出率 26.4%）、
松本市（合併前）（流出率 11.7%）
- (キ) 吸 引 人 口 13,151 人（前回調査比△8.6%）
- (ク) 吸引力係数 53.7%（前回調査比△4.3 ポイント）

《飲食料品》（図 145）

- (ア) 商 圏 人 口 58,128 人（前回調査比△4.1%）
- (イ) 商圏内市町村数 3 町村（前回調査比△1）
- (ウ) 箕輪町商圏から外れた市町村
旧長谷村（伊那市）
- (エ) 新たに箕輪町商圏に加わった市町村
<該当なし>
- (オ) 地元滞留率 76.6%（前回調査比△4.3 ポイント）
- (カ) 主な流出先 伊那市（合併前）（流出率 19.8%）
- (キ) 吸 引 人 口 26,043 人（前回調査比△8.5%）
- (ク) 吸引力係数 106.4%（前回調査比△8.3 ポイント）

図 141 商圈人口と吸引人口（箕輪町）
《全品目平均》

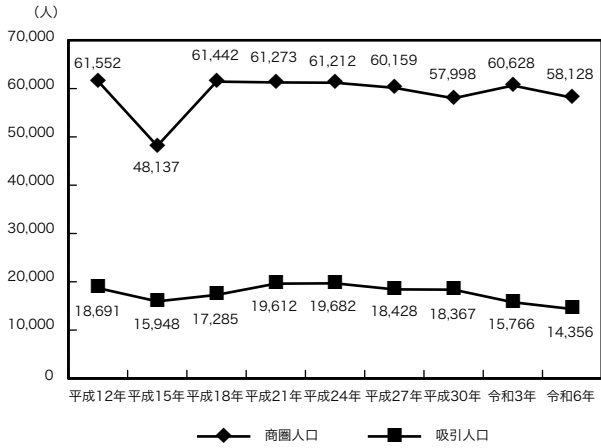


図 142 地元滞留率と吸引力係数（箕輪町）
《全品目平均》

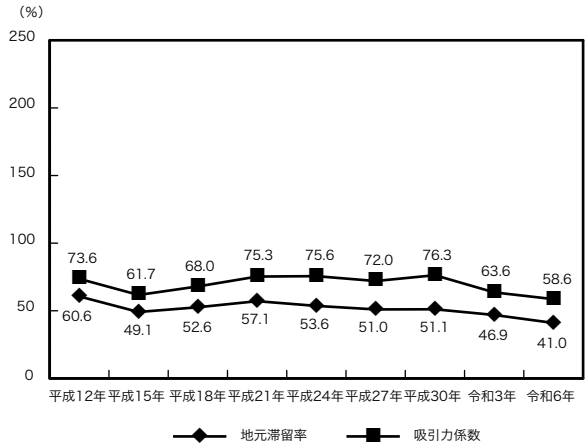


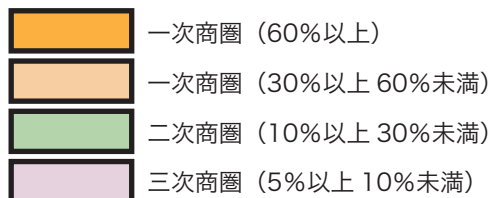
図 143 箕輪町商圈 《全品目平均》



図 144 箕輪町商圈 《衣料品》



図 145 箕輪町商圈 《飲食料品》



高森町

《全品目平均》（図 146、図 147、図 148）

(ア) 商 圏 人 口	36,056 人 (前回調査比△16.2%)
(イ) 商圏内市町村数	5 町村 (前回調査比△1)
(ウ) 高森町商圏から外れた市町村	喬木村
(エ) 新たに高森町商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	24.8% (前回調査比△1.5 ポイント)
(カ) 主な流出先	飯田市 (合併前) (流出率 51.4%)
(キ) 吸 引 人 口	6,674 人 (前回調査比△20.5%)
(ク) 吸引力係数	53.5% (前回調査比△12.3 ポイント)

《衣料品》（図 149）

(ア) 商 圏 人 口	12,023 人 (前回調査比△34.5%)
(イ) 商圏内市町村数	1 町 (前回調査比△2)
(ウ) 高森町商圏から外れた市町村	高森町、中川村、大鹿村
(エ) 新たに高森町商圏に加わった市町村	松川町 (吸引率 7.0%)
(オ) 地元滞留率	3.7% (前回調査比△3.8 ポイント)
(カ) 主な流出先	飯田市 (合併前) (流出率 66.1%)
(キ) 吸 引 人 口	2,299 人 (前回調査比+23.4%)
(ク) 吸引力係数	18.4% (前回調査比+3.8 ポイント)

《飲食料品》（図 150）

(ア) 商 圏 人 口	36,056 人 (前回調査比△17.2%)
(イ) 商圏内市町村数	5 町村 (前回調査比△2)
(ウ) 高森町商圏から外れた市町村	売木村、喬木村
(エ) 新たに高森町商圏に加わった市町村	<該当なし>
(オ) 地元滞留率	72.0% (前回調査比+9.5 ポイント)
(カ) 主な流出先	飯田市 (合併前) (流出率 19.0%)
(キ) 吸 引 人 口	19,730 人 (前回調査比+24.9%)
(ク) 吸引力係数	158.3% (前回調査比+34.6 ポイント)

図 146 商圈人口と吸引人口（高森町）
《全品目平均》

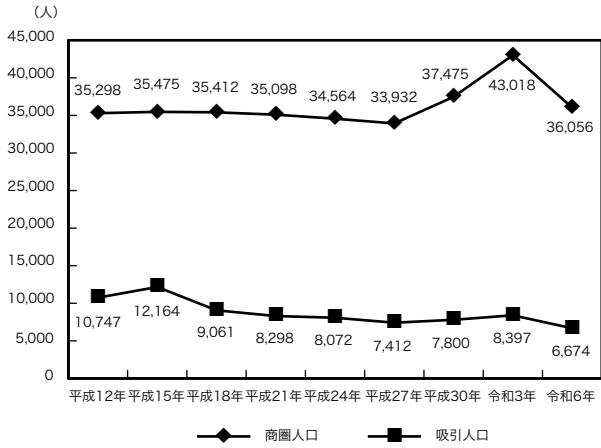


図 147 地元滞留率と吸引力係数（高森町）
《全品目平均》

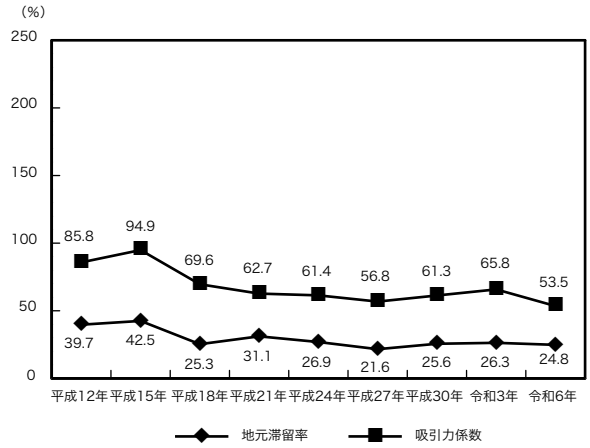


図 148 高森町商圈 《全品目平均》

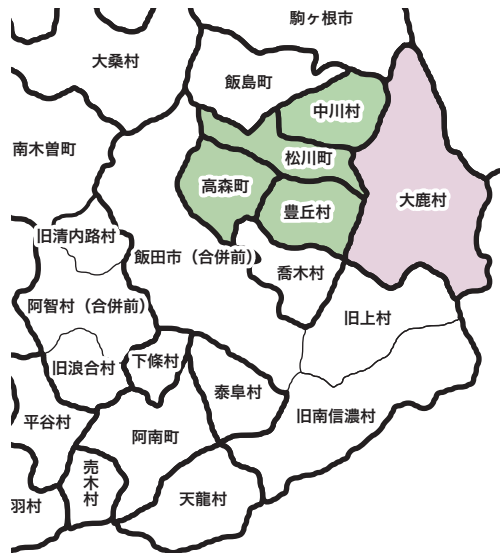
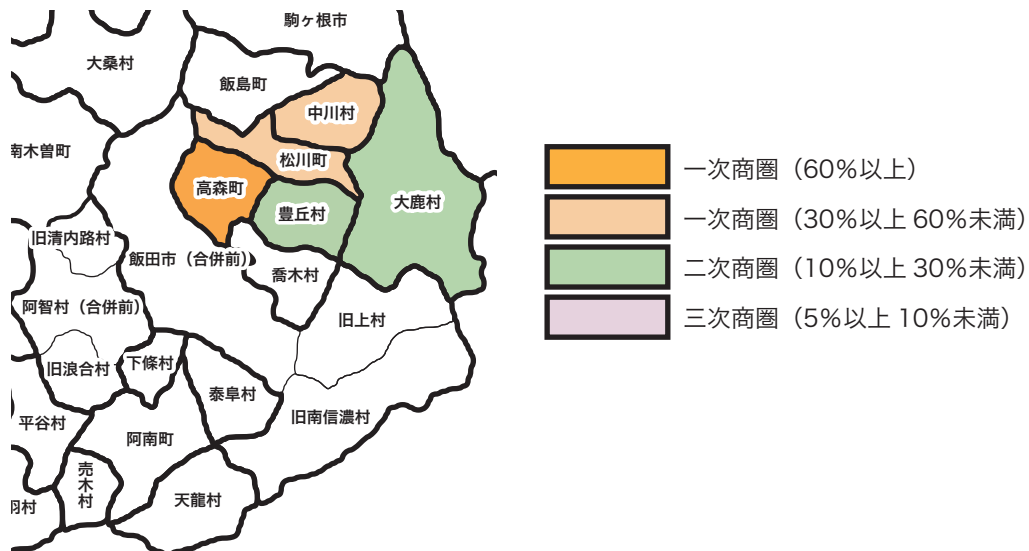


図 149 高森町商圈 《衣料品》



図 150 高森町商圈 《飲食料品》



富士見町

《全品目平均》（図 151）

- (ア) 商 圏 人 口 21,577 人（前回調査比△0.6%）
- (イ) 商圏内市町村数 2 町村（前回調査比±0）
- (ウ) 富士見町商圏から外れた市町村
＜該当なし＞
- (エ) 新たに富士見町商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 27.3%（前回調査比△2.2 ポイント）
- (カ) 主な流出先 諏訪市（流出率 21.1%）、茅野市（流出率 14.6%）
- (キ) 吸 引 人 口 4,260 人（前回調査比△14.4%）
- (ク) 吸引力係数 30.7%（前回調査比△4.7 ポイント）

松川町

《全品目平均》（図 152）

- (ア) 商 圏 人 口 16,470 人（前回調査比△8.4%）
- (イ) 商圏内市町村数 2 町村（前回調査比△1）
- (ウ) 松川町商圏から外れた市町村
大鹿村
- (エ) 新たに松川町商圏に加わった市町村
＜該当なし＞
- (オ) 地元滞留率 17.4%（前回調査比+2.3 ポイント）
- (カ) 主な流出先 飯田市（合併前）（流出率 36.0%）、高森町（流出率 14.7%）
- (キ) 吸 引 人 口 2,538 人（前回調査比△15.9%）
- (ク) 吸引力係数 21.1%（前回調査比△3.2 ポイント）

阿智村（合併前）

《全品目平均》（図 153）

- (ア) 商 圏 人 口 5,273 人（前回調査比△10.1%）
- (イ) 商圏内市町村数 2 村（前回調査比△1）
- (ウ) 阿智村（合併前）商圏から外れた市町村
旧清内路村（阿智村）、平谷村（データなし）
- (エ) 新たに阿智村（合併前）商圏に加わった市町村
旧浪合村（阿智村）（吸引率 5.6%）
- (オ) 地元滞留率 9.0%（前回調査比+0.7 ポイント）
- (カ) 主な流出先 飯田市（合併前）（流出率 79.7%）
- (キ) 吸 引 人 口 460 人（前回調査比△5.2%）
- (ク) 吸引力係数 9.5%（前回調査比△0.2 ポイント）

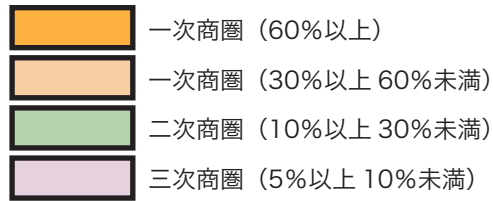
图 151 富士見町商圈 《全品目平均》



图 152 松川町商圈 《全品目平均》



图 153 阿智村（合併前） 《全品目平均》



3 県内消費者の県外への流出（全品目平均）

（1）今回調査の傾向

県外への流出率が高いのは、南木曾町（87.7%）、根羽村（73.7%）、の順となり、さらに、大桑村（46.7%）、売木村（46.3%）、旧八坂村（大町市）（35.2%）、南牧村（33.2%）、川上村（31.1%）、を加えた7町村は、県外市町村の一次商圏を構成している。

県外市町村の二次商圏となっているのは栄村（19.5%）、小谷村（16.8%）、原村（12.2%）、王滝村（10.5%）の4村、三次商圏となっているのは、旧三岳村（木曾町）（9.7%）、南相木村（7.1%）、富士見町（6.8%）、松川町（6.8%）、上松町（6.8%）、茅野市（6.3%）、旧坂北村（筑北市）（6.2%）、野沢温泉村（5.7%）、旧浪合村（阿智村）（5.6%）、旧美麻村（大町市）（5.3%）、信濃町（5.2%）の11市町村となる。

2%以上5%未満の流出で、県外の商圏の影響を受けているとみられるのは、旧佐久町（佐久穂町）（4.8%）、軽井沢町（4.4%）、飯島町（4.1%）など30市町村であった（図154）。

（2）前回調査（令和3年度調査）との比較

県外市町村の商圏となっている（県外流出率5%以上）県内市町村は、合計で22市町村と、前回より8市町村増加している。また、県外商圏の影響圏に属する市町村は合計52市町村で、前回より23市町村増加した。

前回調査と比較して、今回調査の流出率の増減をみると、増加したのは66市町村、減少が32市町村、増減がなかったのは18市町村であった。このうち、2ポイント以上の増減をみると、増加が29町村、減少が10町村となる。

5ポイント以上の県外への流出率の増減をみると、増加したのは、売木村（46.3%）が46.3ポイント、根羽村（73.7%）が43.7ポイント、旧八坂村（大町市）（35.2%）が27.2ポイント、など14町村であった。一方、5ポイント以上減少したのは、信濃町（5.2%）が△8.4ポイントの1町であった。

前回調査と比べると、県外への流出率が増加した市町村数が多くなった。前回よりも、県外の商圏の影響を受ける市町村が増加していることが分かる（資料V・資料4）。

4 無店舗販売の利用

近年、急速に消費者の利用が伸びている無店舗販売が、市町村の構成する商圈にどれほどの影響があるか把握するため、平成7年度調査から、調査票の選択肢の欄に「無店舗販売」を設けて回答を得ている。

ここでいう「無店舗販売」とは、「通信販売」（カタログ、TVショッピング、インターネットショッピング）、「訪問販売」及び「移動販売」などを指すものとする。

調査の結果、全品目平均及び6つの調査対象商品群において、無店舗販売の消費需要が30%以上を占めた市町村は、「衣料品」で旧奈川村（松本市）（100.0%）、旧美麻村（大町市）（80.0%）、北相木村（37.5%）、旧上山田町（千曲市）（34.7%）、旧清内路村（阿智村）（33.3%）、「身の回り品」で旧清内路村（阿智村）（100.0%）、旧奈川村（松本市）（100.0%）、王滝村（66.7%）、北相木村（50.0%）、旧長門町（長和町）（47.6%）、富士見町（44.3%）、旧開田村（木曾町）（40.7%）、松川村（37.9%）、大町市（合併前）（37.8%）、松川町（37.5%）、旧上山田町（千曲市）（37.0%）、辰野町（36.7%）、飯島町（33.3%）、旧浪合村（阿智村）（33.3%）、泰阜村（33.3%）、旧三岳村（木曾町）（33.3%）、小川村（32.4%）、岡谷市（32.0%）、旧檜川村（塩尻市）（31.8%）、下諏訪町（31.0%）、旧梓川村（松本市）（30.9%）、麻績村（30.4%）、「文化品」で王滝村（83.3%）、旧奈川村（松本市）（66.7%）、旧清内路村（阿智村）（60.0%）、旧浪合村（阿智村）（45.5%）、旧開田村（木曾町）（44.4%）、北相木村（42.1%）、旧檜川村（塩尻市）（38.3%）、富士見町（34.7%）、松川村（32.6%）、大町市（合併前）（31.3%）、旧長門町（長和町）（31.0%）、「飲食料品」では該当する市町村が無い。

また、前回調査と比較すると、全品目平均及び6商品群いずれも、増加した市町村数が減少した市町村数を上回った。

以下、「全品目平均」、「衣料品」、「身の回り品」、「飲食料品」について、検証する。

《全品目平均》

最も無店舗販売の利用割合が高いのは、旧奈川村（松本市）（92.3%）で、次いで、王滝村（52.6%）、旧清内路村（阿智村）（42.9%）、北相木村（35.4%）、旧開田村（木曾町）（31.2%）、富士見町（27.3%）、旧三岳村（木曾町）（25.8%）、旧檜川村（塩尻市）（25.5%）、旧上山田町（千曲市）（24.5%）、松川村（24.1%）、大町市（合併前）（23.7%）、旧長門町（長和町）（23.3%）、旧浪合村（阿智村）（22.2%）、旧本城村（筑北村）（21.6%）、旧美麻村（大町市）（21.1%）、旧戸隠村（長野市）（21.1%）、白馬村（20.5%）、麻績村（20.1%）、松川町（20.0%）が2割以上となる。さらに、喬木村（19.1%）、辰野町（18.9%）、飯島町（18.9%）などと続き、88市町村で10%以上となっている。

無店舗販売の利用が5%以上を占める市町村は、合計110市町村（前回比+12）と前回よりもさらに増加している。

2%以上の市町村をみると、113市町村（前回調査比△1）と前回よりやや減少したものの、ほぼ全県が無店舗販売の影響圏にある（図155）。

《衣料品》

衣料品の利用率が20%以上は、旧奈川村(松本市)(100.0%)、旧美麻村(大町市)(80.0%)、北相木村(37.5%)、旧上山田町(千曲市)(34.7%)、旧清内路村(阿智村)(33.3%)、富士見町(27.5%)、旧三岳村(木曾町)(26.7%)、池田町(25.2%)、旧開田村(木曾町)(25.0%)、旧戸隠村(長野市)(25.0%)、旧本城村(筑北村)(24.4%)、原村(24.1%)、大町市(合併前)(24.0%)、木祖村(23.2%)、野沢温泉村(21.9%)、白馬村(21.8%)、諏訪市(20.5%)、小海町(20.5%)、小川村(20.3%)、根羽村(20.0%)の20市町村(前回調査比+11)となり、前回調査より増加している。10%以上の利用率は、84市町村(前回調査比+39)、5%以上の市町村は、100市町村(前回調査比+9)と増加している。

このうち市部で10%以上は、大町市(合併前)(24.0%)、諏訪市(20.5%)、茅野市(19.4%)、中野市(合併前)(16.0%)、旧更埴市(千曲市)(15.3%)、飯山市(15.3%)、上田市(合併前)(14.5%)、駒ヶ根市(13.8%)、岡谷市(13.6%)、伊那市(合併前)(13.3%)、松本市(合併前)(11.9%)、長野市(合併前)(11.2%)、塩尻市(合併前)(10.7%)、須坂市(10.3%)、佐久市(合併前)(10.0%)の15市、5%を超えたのは、小諸市(9.3%)、飯田市(合併前)(9.3%)の2市となり、合計で17市(前回調査比+1)となり、衣料品における無店舗販売の拡大がさらに進んでいることが分かる(図156)。

《身の回り品》

前回調査同様、6商品群の中で、身の回り品の無店舗販売の利用率が最も高かった。前述の通り、旧清内路村(阿智村)(100.0%)、旧奈川村(松本市)(100.0%)、王滝村(66.7%)、北相木村(50.0%)、旧長門町(長和町)(47.6%)、富士見町(44.3%)、旧開田村(木曾町)(40.7%)、松川村(37.9%)、大町市(合併前)(37.8%)、松川町(37.5%)、旧上山田町(千曲市)(37.0%)、辰野町(36.7%)、飯島町(33.3%)、旧浪合村(阿智村)(33.3%)、泰阜村(33.3%)、旧三岳村(木曾町)(33.3%)、小川村(32.4%)、岡谷市(32.0%)、旧檜川村(塩尻市)(31.8%)、下諏訪町(31.0%)、旧梓川村(松本市)(30.9%)、麻績村(30.4%)の22市町村では、利用率が30%を超えている。一方、10%以上の利用率は103市町村(前回調査比+8)、5%以上の利用率では111市町村(前回調査比+7)と、前回よりも増加している(図157)。

身の回り品の中で最も利用率が高い「化粧品」に限ってみると、旧奈川村(松本市)(100.0%)で最も高く、次に、旧三岳村(木曾町)(66.7%)、旧長門町(長和町)(57.1%)、旧浪合村(阿智村)(50.0%)で、利用率が50%以上となった。30%以上の利用率は、24市町村(前回調査比+7)、10%以上では103市町村(前回調査比+6)と増加した。

《飲食料品》

飲食料品において最も高い無店舗販売利用率は、生坂村(11.8%)、旧開田村(木曾町)(11.1%)、南牧村(7.5%)、旧豊田村(中野市)(6.7%)、旧檜川村(塩尻市)(6.3%)となり、10%以上の利用率は2村(前回調査比△1)となった。5%以上の利用率は6村(前回調査比△1)であった(図158)。

図 155 無店舗販売の利用《全品目平均》

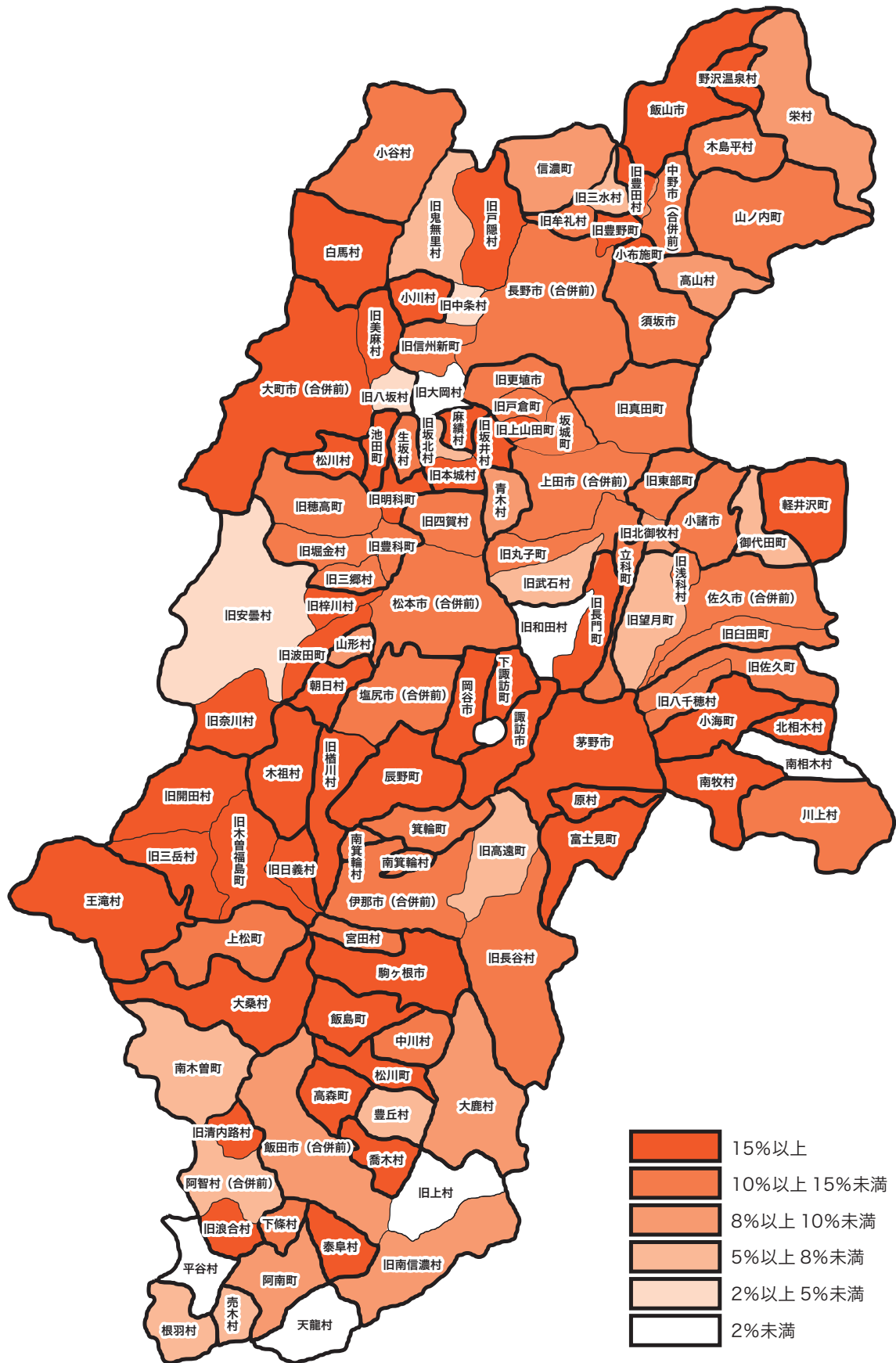


図 157 無店舗販売の利用 《身の回り品》

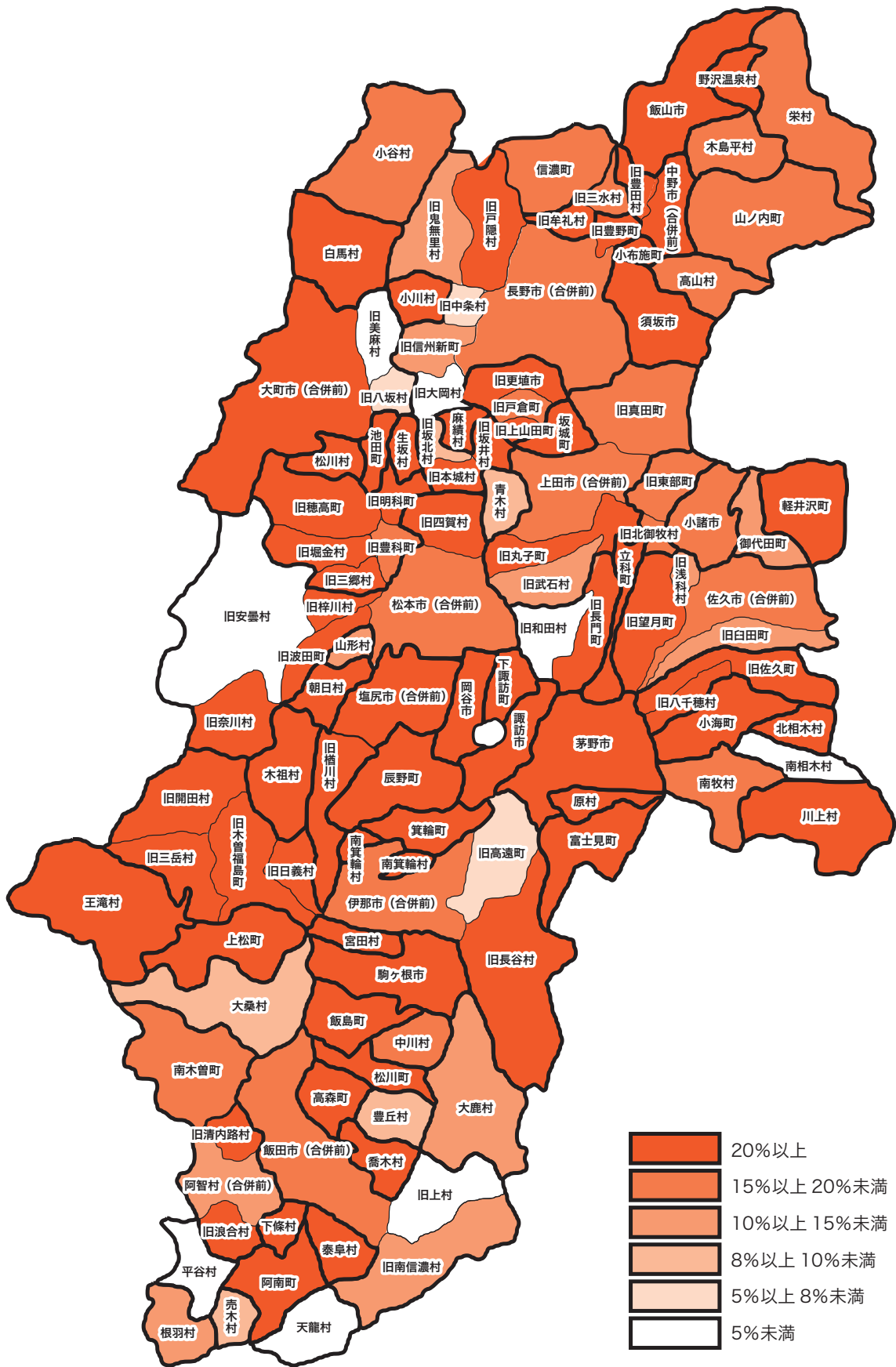
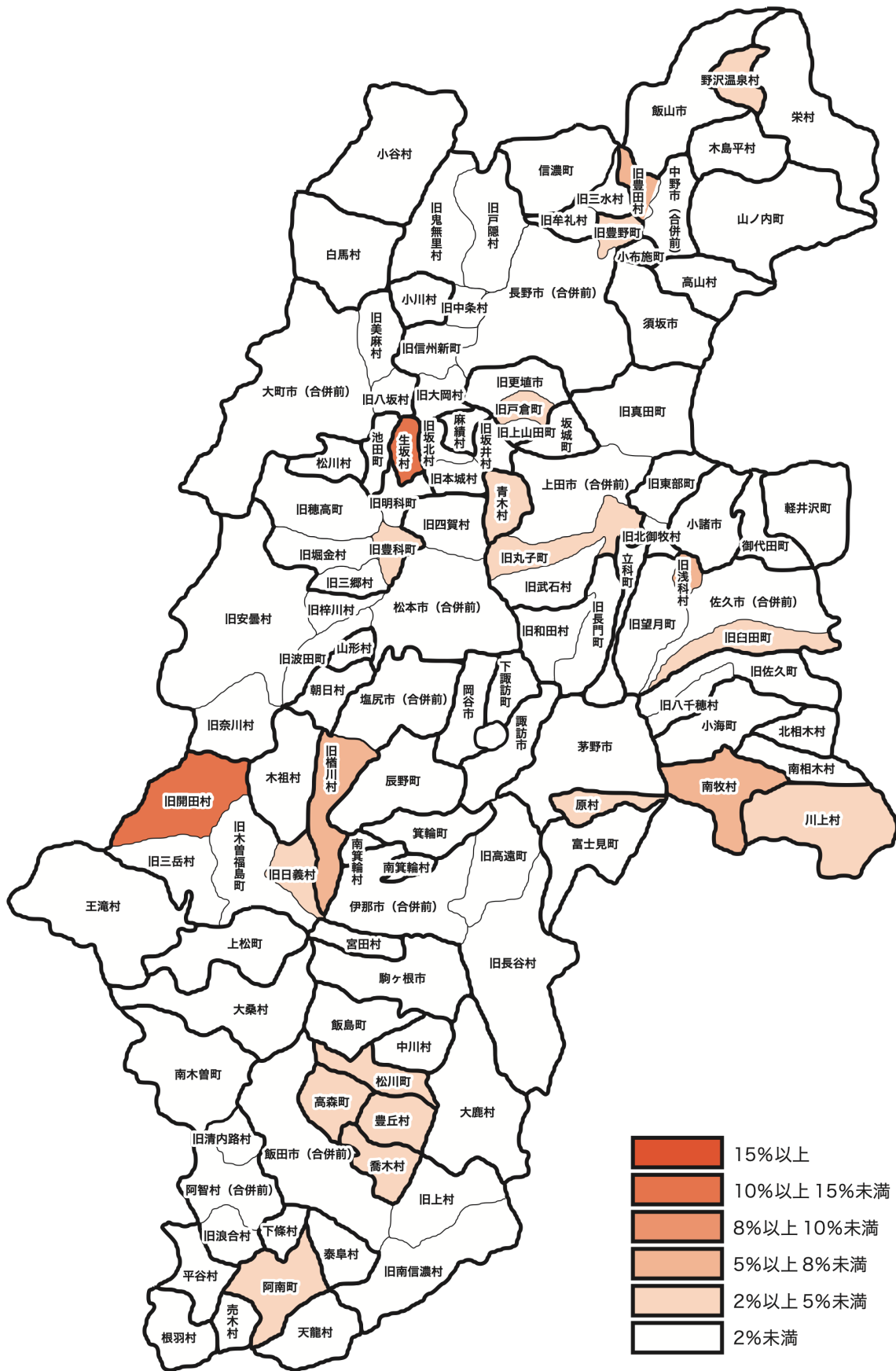


図 158 無店舗販売の利用 << 飲食料品 >>



5 業態別利用店舗

(1) 市部

《全品目平均》

市部平均では、専門スーパーの利用が48.5%と最も高かった。佐久市(合併前)(60.1%)、長野市(合併前)(56.9%)、駒ヶ根市(53.3%)、上田市(合併前)(50.2%)で5割以上、その他13市で4割を超えた。

一般小売店の利用割合が最も高い市は、上田市(合併前)(18.2%)であった。一方、最も低い市は、塩尻市(合併前)(9.8%)であった(図159)。

《衣料品》

衣料品では、市部平均で専門スーパーの利用割合(53.7%)が、大規模スーパー(25.5%)を上回り、前回と同様となった。大規模スーパーの利用は、中野市(合併前)(42.3%)、飯山市(41.3%)が4割以上となった。

一方、大規模スーパーの利用が低い市は、長野市(合併前)(11.9%)、佐久市(合併前)(14.4%)、駒ヶ根市(17.3%)、茅野市(17.9%)で、専門スーパーの利用割合が、それぞれ64.4%、66.8%、59.0%、52.6%と高くなった。専門スーパーの利用割合が大規模スーパーよりも高くなった市は、15市であった。

一般小売店の利用割合が低い市は、諏訪市(6.3%)、塩尻市(合併前)(6.8%)、中野市(合併前)(8.2%)、須坂市(11.2%)、伊那市(合併前)(11.3%)であった(図160)。

《飲食料品》

6商品群の中で、大規模スーパーの利用割合が最も高かったのは、飲食料品である。市部平均で69.5%となり、諏訪市(90.0%)が最も高く、次に、飯田市(合併前)(83.7%)、旧更埴市(千曲市)(76.7%)、大町市(合併前)(76.5%)と続き、10市が70%を超えた。

一般小売店の利用では、上田市(5.6%)が最も高く、飯山市(4.0%)、旧更埴市(千曲市)(3.9%)、中野市(合併前)(3.9%)と続いている。一方、最も低い市は、佐久市(合併前)(0.8%)となり、上田市(合併前)を除く全ての市で5%に満たなかった(図163)。

《その他の商品群》

6商品群の中で、一般小売店の利用割合が高いのは、文化品(16.8%)、次に身の回り品(15.1%)であった。

文化品については、専門スーパーの利用割合が高く、市部平均で59.4%となった。最も高い市は、長野市(合併前)(69.6%)となり、60%を超えた市は5市であった。

日用品でも、専門スーパーの利用割合が高く、市部平均で65.2%となった。最も高い市は、佐久市(合併前)(79.2%)となり、長野市(合併前)(73.2%)、中野市(合併前)(68.0%)と続いている。60%を超える市は、12市であった。

その他(贈答品)では、デパートの利用割合が、他の商品群よりも高かった。特に、長野市(合併前)(39.9%)、伊那市(合併前)(37.6%)旧更埴市(千曲市)(33.6%)で3割を超えた(図161、162、164、165)。

図 159 業態別利用店舗（市部）《全品目平均》

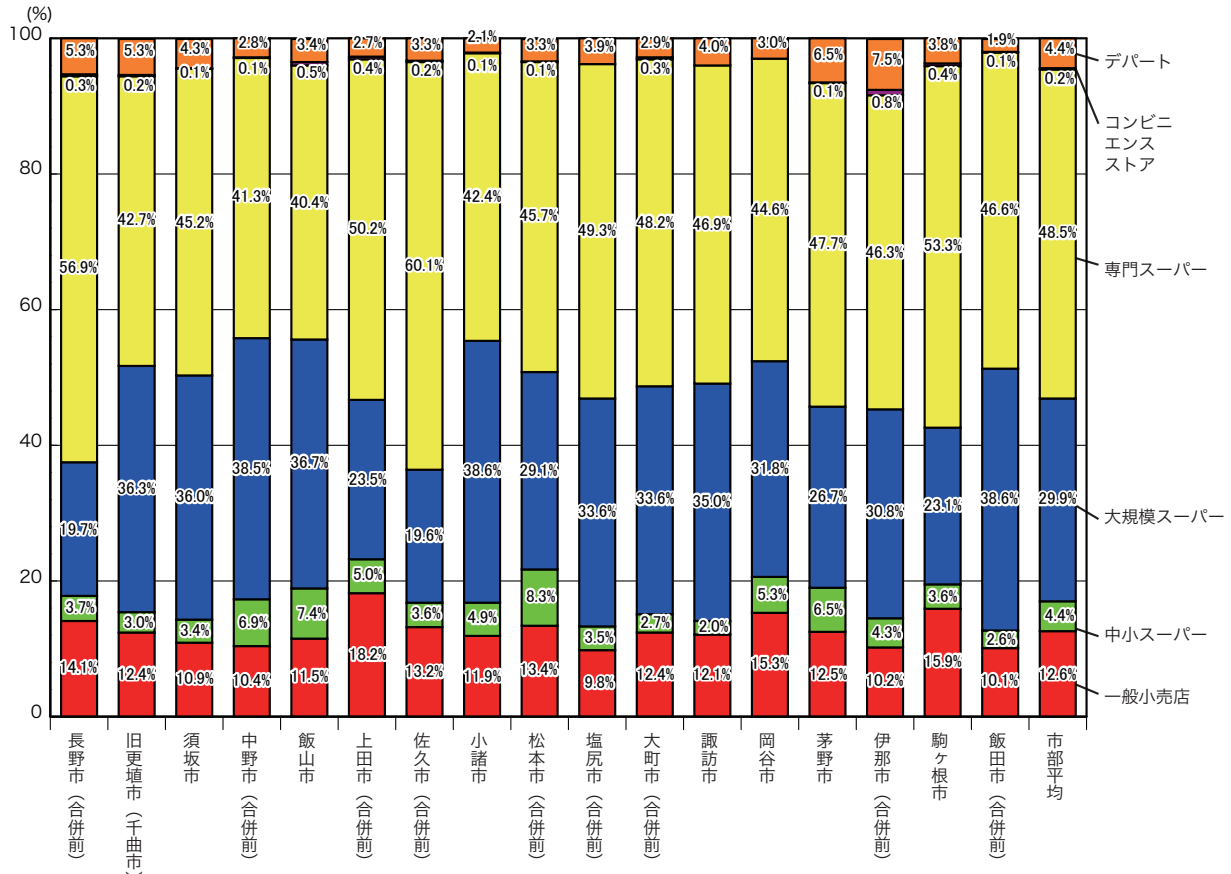


図 160 業態別利用店舗（市部）《衣料品》

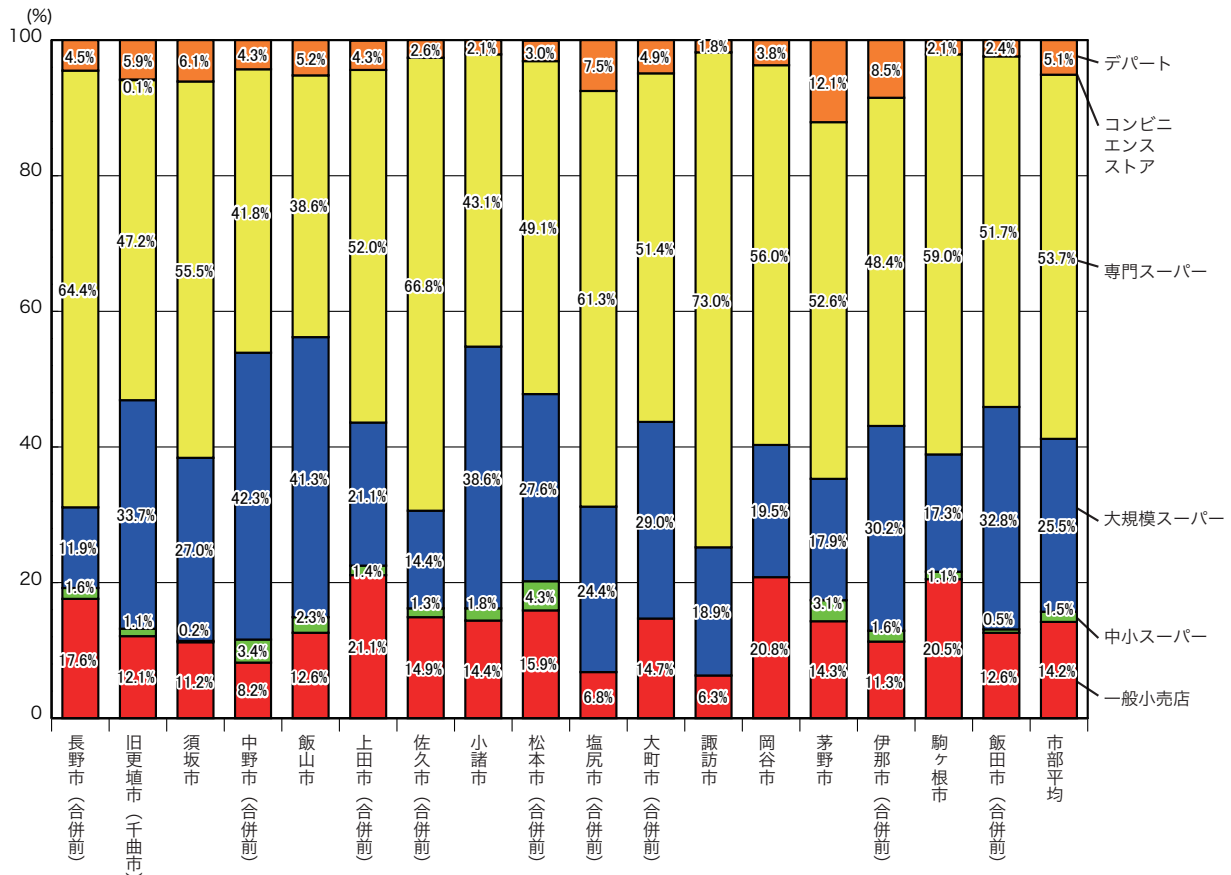


図 161 業態別利用店舗（市部）《身の回り品》

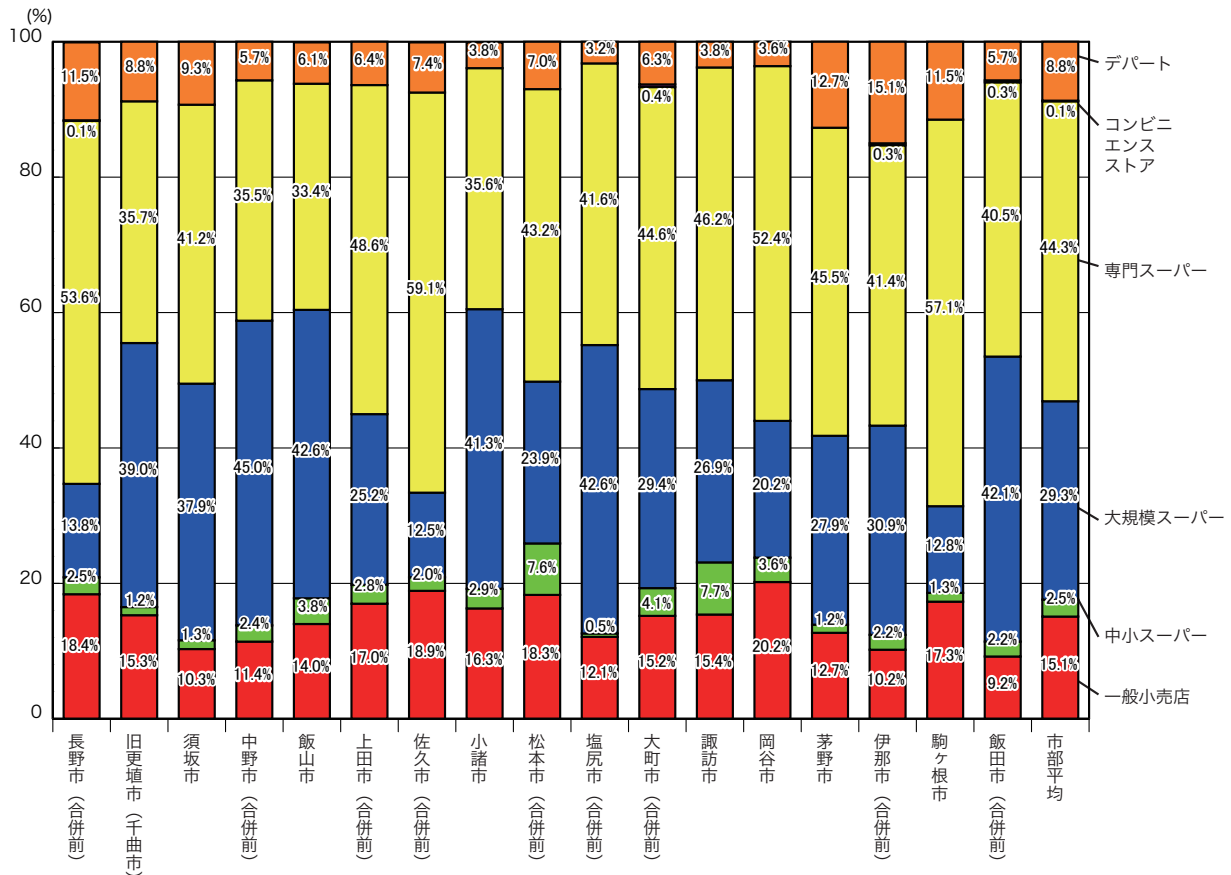


図 162 業態別利用店舗（市部）《文化品》

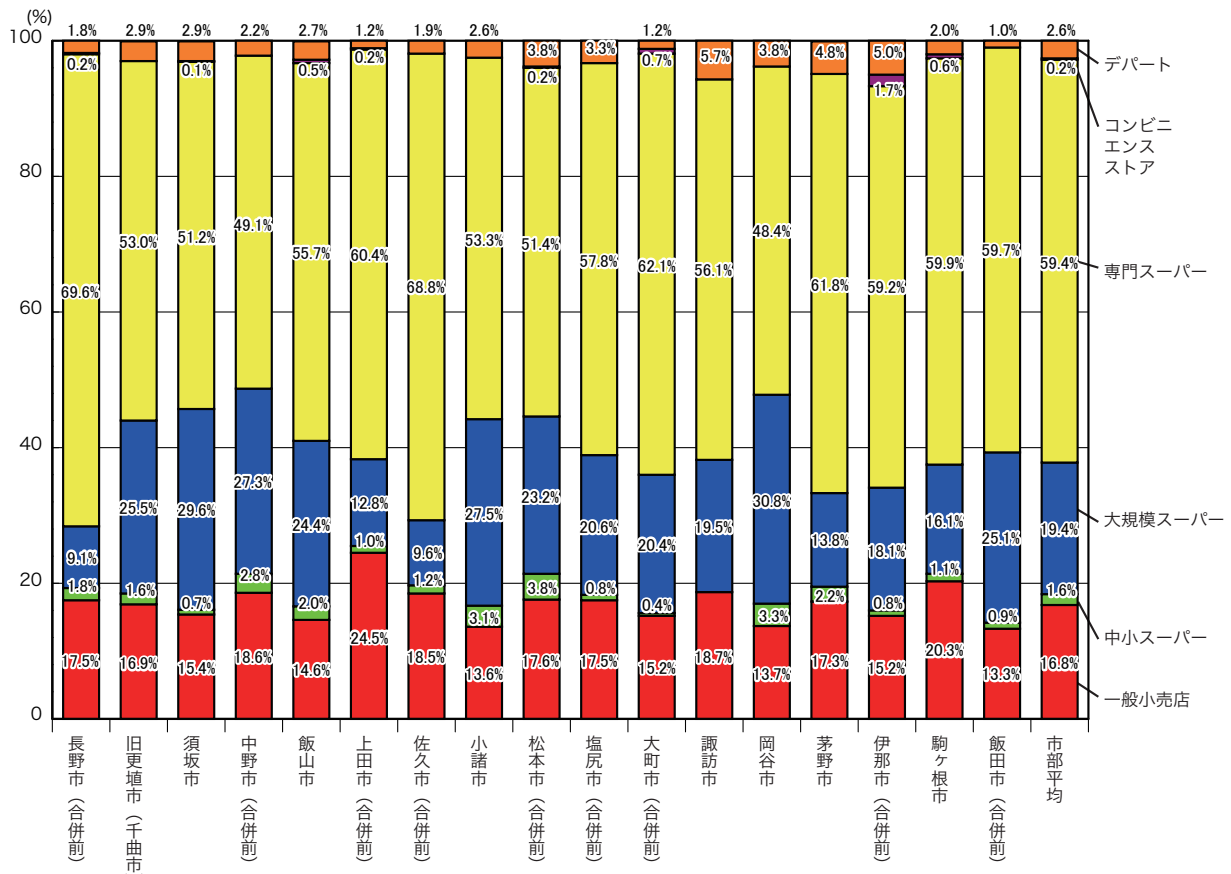


図 163 業態別利用店舗（市部）《飲食料品》

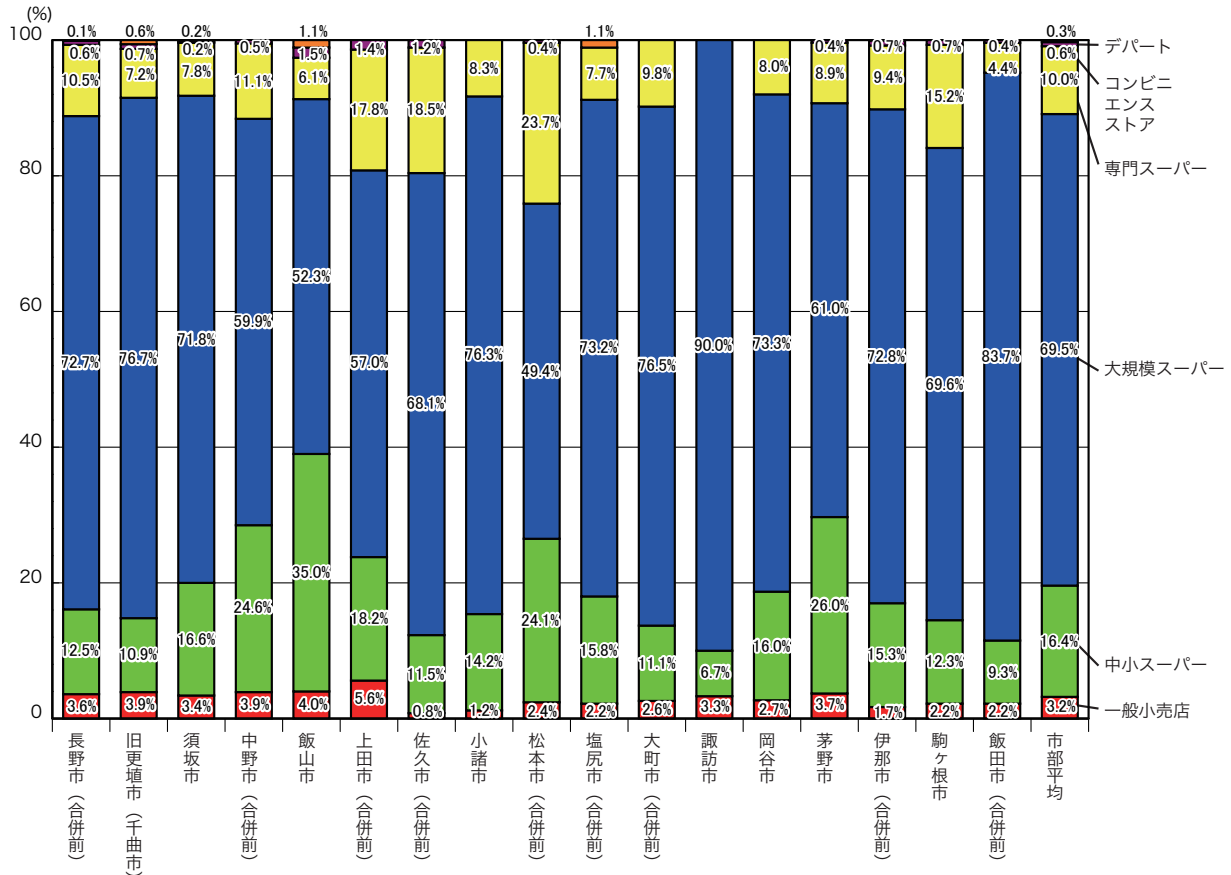


図 164 業態別利用店舗（市部）《日用品》

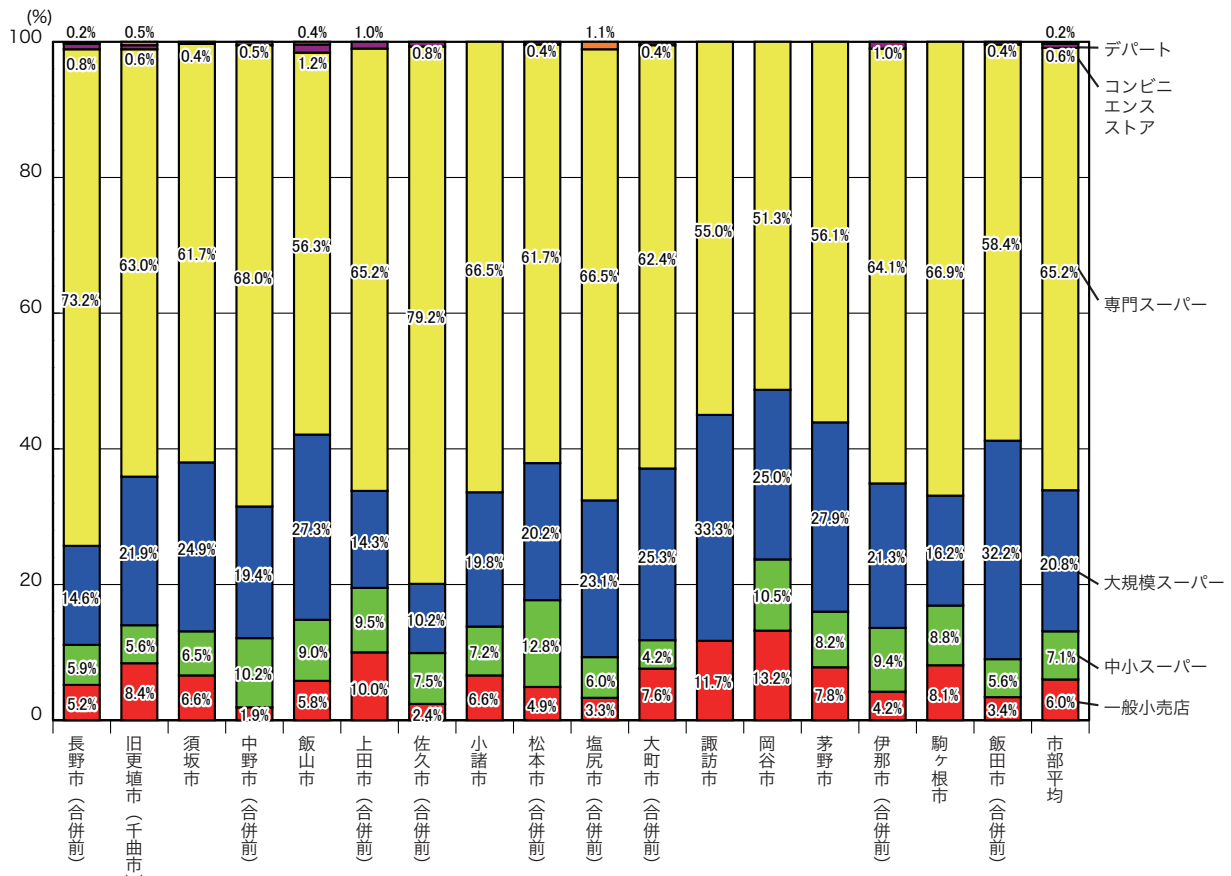
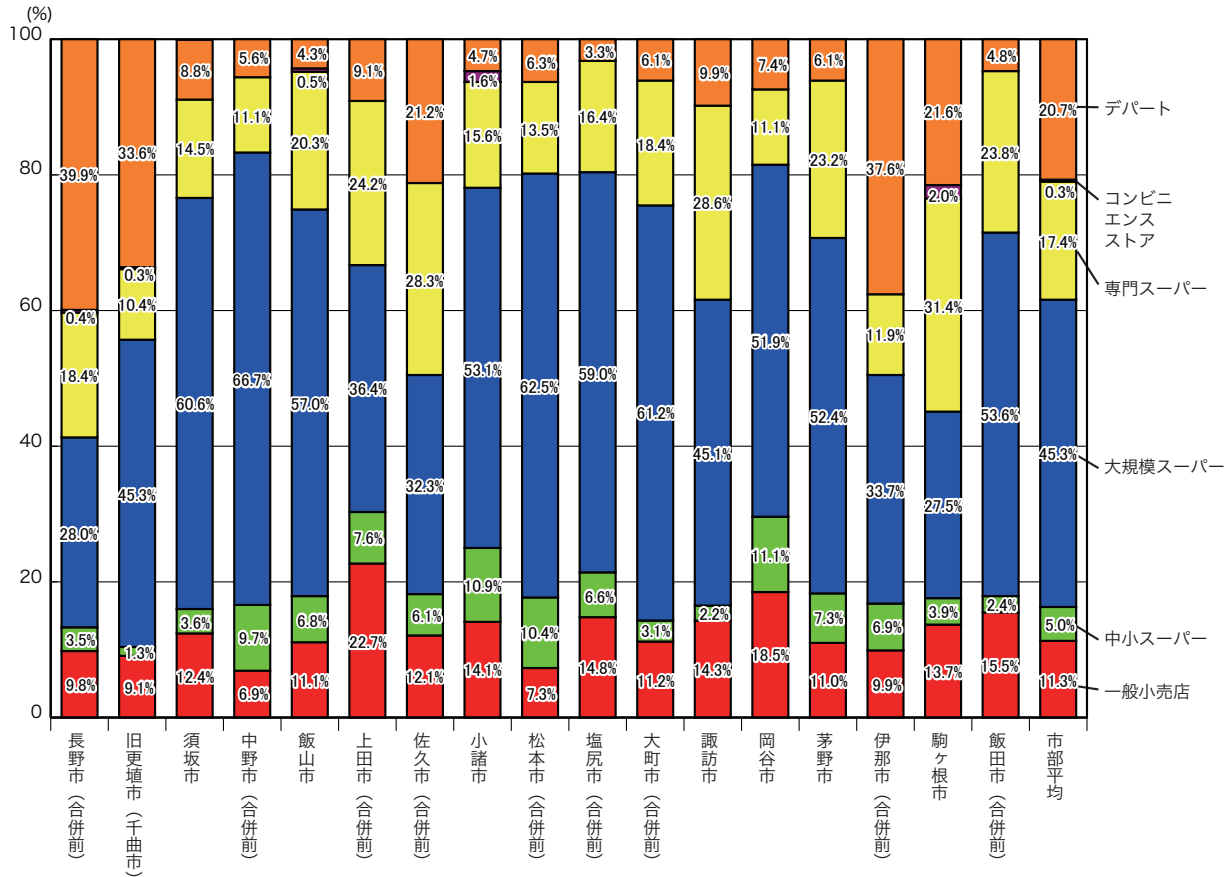


図 165 業態別利用店舗（市部）《その他（贈答品）》



(2) 町村部

《全品目平均》

専門スーパーの利用割合は、長野地域（55.1%）、木曾地域（50.3%）で5割を超え、町村部全域で4割を超えた。前回調査と比較すると、町村部平均で専門スーパー（45.0%）が、1.2ポイント減となっている。

大規模スーパーの利用割合は、下伊那地域（39.8%）で最も高いものの、前回調査と比較すると、長野地域、上小地域、佐久地域の3地域で減少した（図166）。

《衣料品》

衣料品では、大規模スーパーの利用割合は29.0%となり、4割を超える利用割合の地域は、下伊那地域となった。一方、専門スーパーの利用割合は、長野地域（60.6%）、木曾地域（58.0%）、大北地域（54.8%）、北信地域（53.8%）、上小地域（51.6%）で5割以上となり、4割以上となる地域は9地域となった。

一般小売店の利用割合は、佐久地域（12.7%）が前回比較で6.1ポイント増と最も増加し、長野地域（18.1%）、上小地域（15.3%）、北信地域（14.6%）、松本地域（13.3%）、木曾地域（10.1%）、諏訪地域（10.1%）を含めた7地域で前回よりも増加した（図167）。

《飲食料品》

6商品群の中で、大規模スーパーの利用割合が、今回の調査でも最も高かった。特に、北信地域（79.0%）、大北地域（77.3%）、佐久地域（72.3%）、松本地域（71.7%）と4地域で7割を超えた。

一般小売店の利用割合は、木曾地域（5.8%）が最も高くなった。しかし、他の地域では5%を下回り、最も低かった北信地域、大北地域では0.0%であった（図170）。

《その他の商品群》

身回品では、専門スーパーの利用割合が40.5%となり、長野地域、北信地域では5割を超えている。一方、大規模スーパーの利用率が4割を超えるのは、佐久地域と下伊那地域となっている。

文化品では、専門スーパーの利用割合が高く、全域で5割を超えている。一般小売店の平均利用割合（15.4%）は、前回と比較すると1.5ポイント増加した。

日用品については、専門スーパーの利用割合が高く、長野地域（73.3%）が最も高く、全域で4割を超えていた。

その他（贈答品）では、市部同様、デパートの利用割合が、他の商品群と比べると高かった。特に、松本地域（23.9%）、長野地域（19.5%）で約2割となった（図168、169、171、172）。

(注) 各地域に含まれる郡

長野地域：旧更級郡、埴科郡、上高井郡、上水内郡

上小地域：小県郡

松本地域：東筑摩郡、旧南安曇郡

大北地域：北安曇郡

上伊那地域：上伊那郡

北信地域：下高井郡、下水内郡

佐久地域：南佐久郡、北佐久郡

木曾地域：木曾郡

諏訪地域：諏訪郡

下伊那地域：下伊那郡

図 166 業態別利用店舗（町村部）《全品目平均》

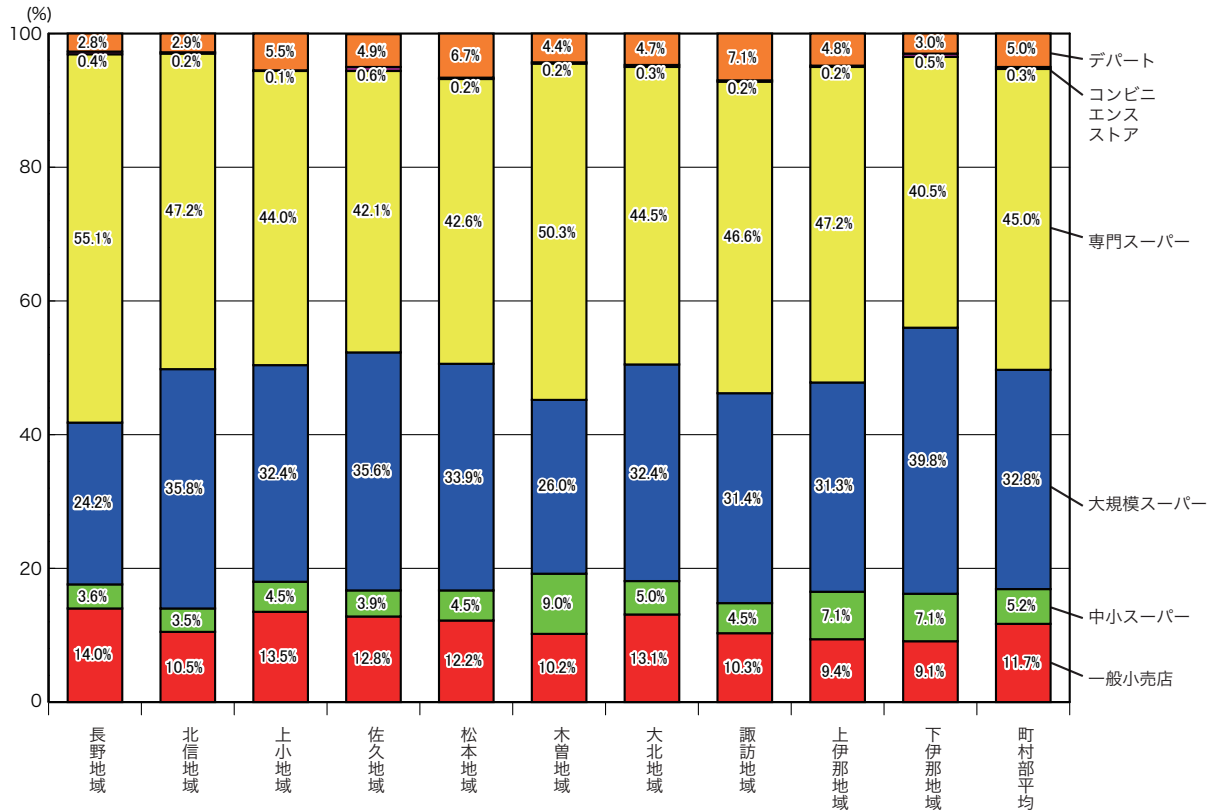


図 167 業態別利用店舗（町村部）《衣料品》

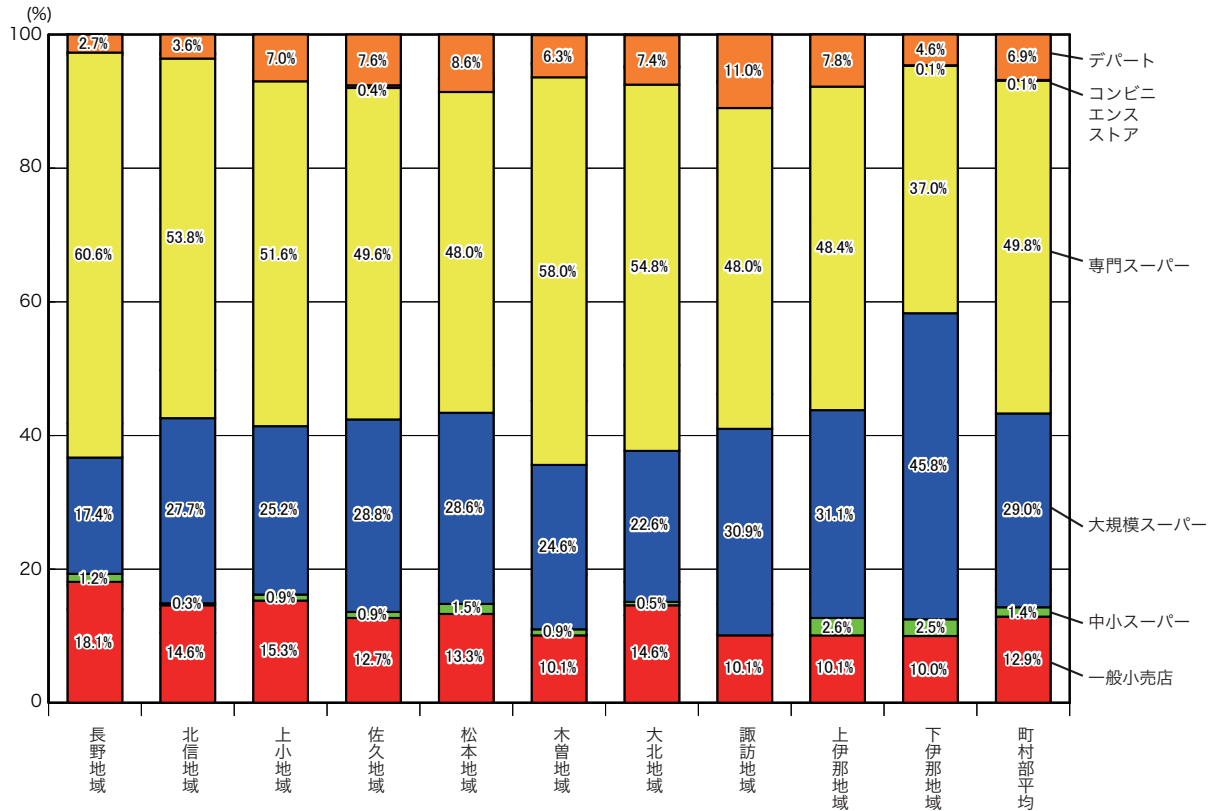


図 168 業態別利用店舗（町村部）《身の回り品》

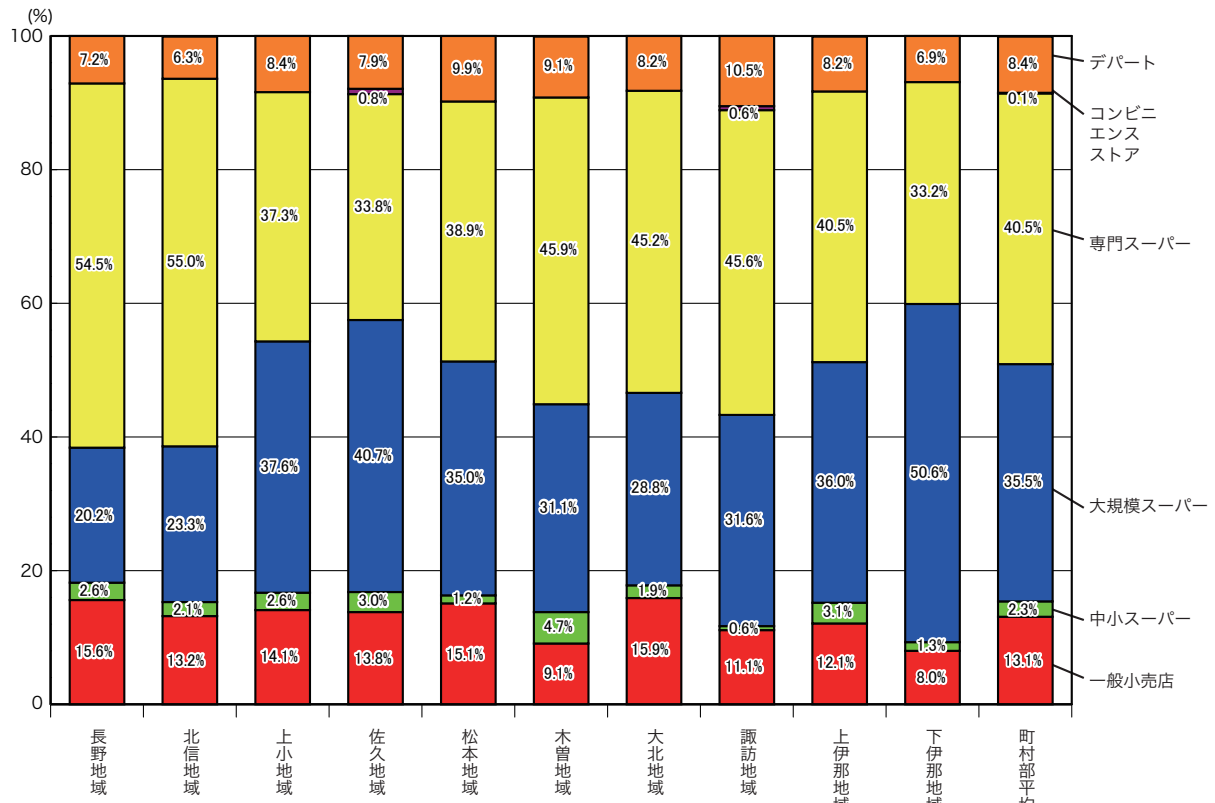


図 169 業態別利用店舗（町村部）《文化品》

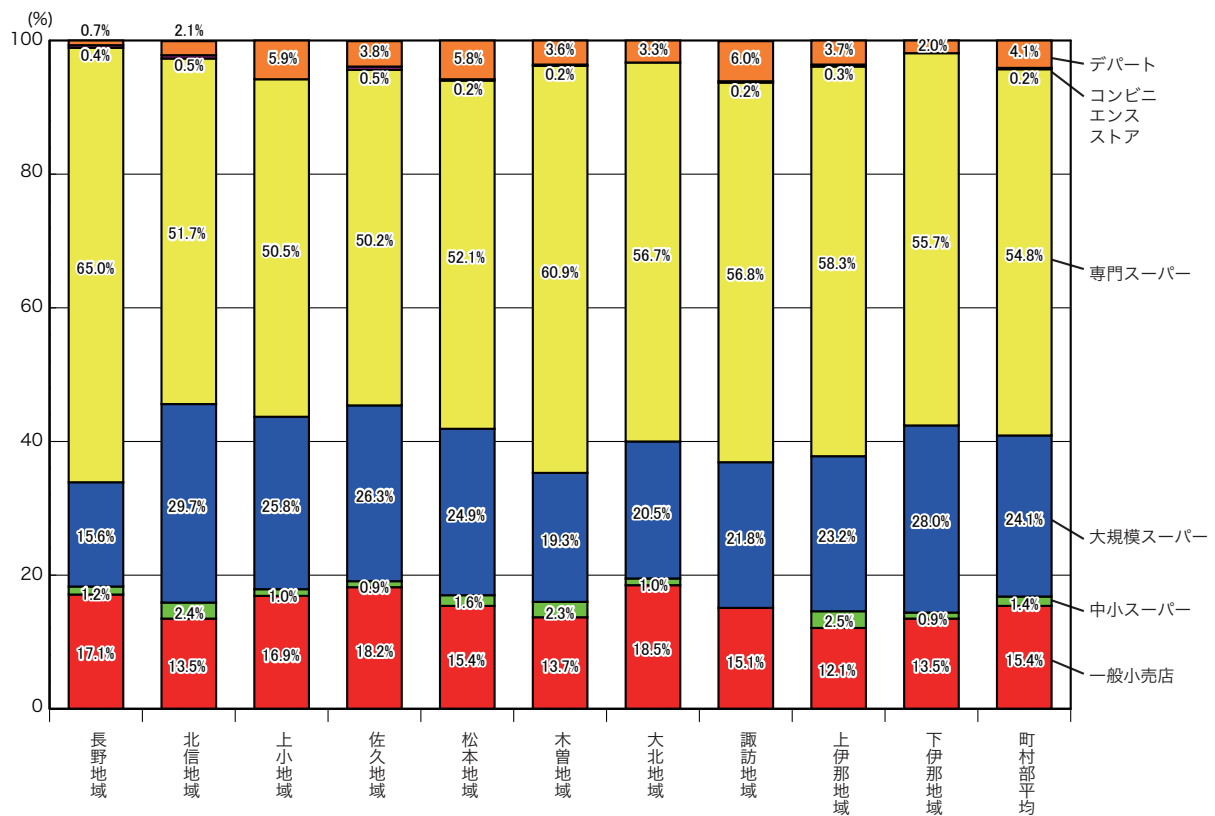


図 170 業態別利用店舗（町村部）＜＜飲食料品＞＞

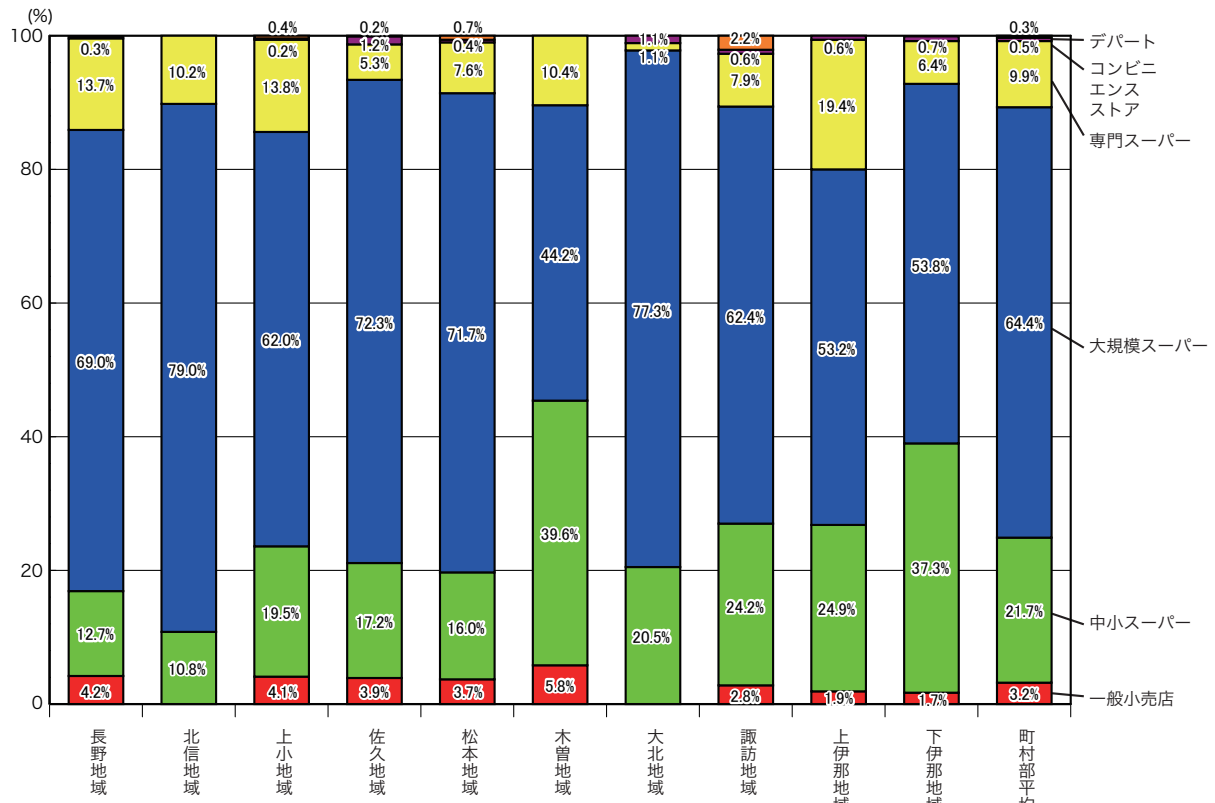


図 171 業態別利用店舗（町村部）＜＜日用品＞＞

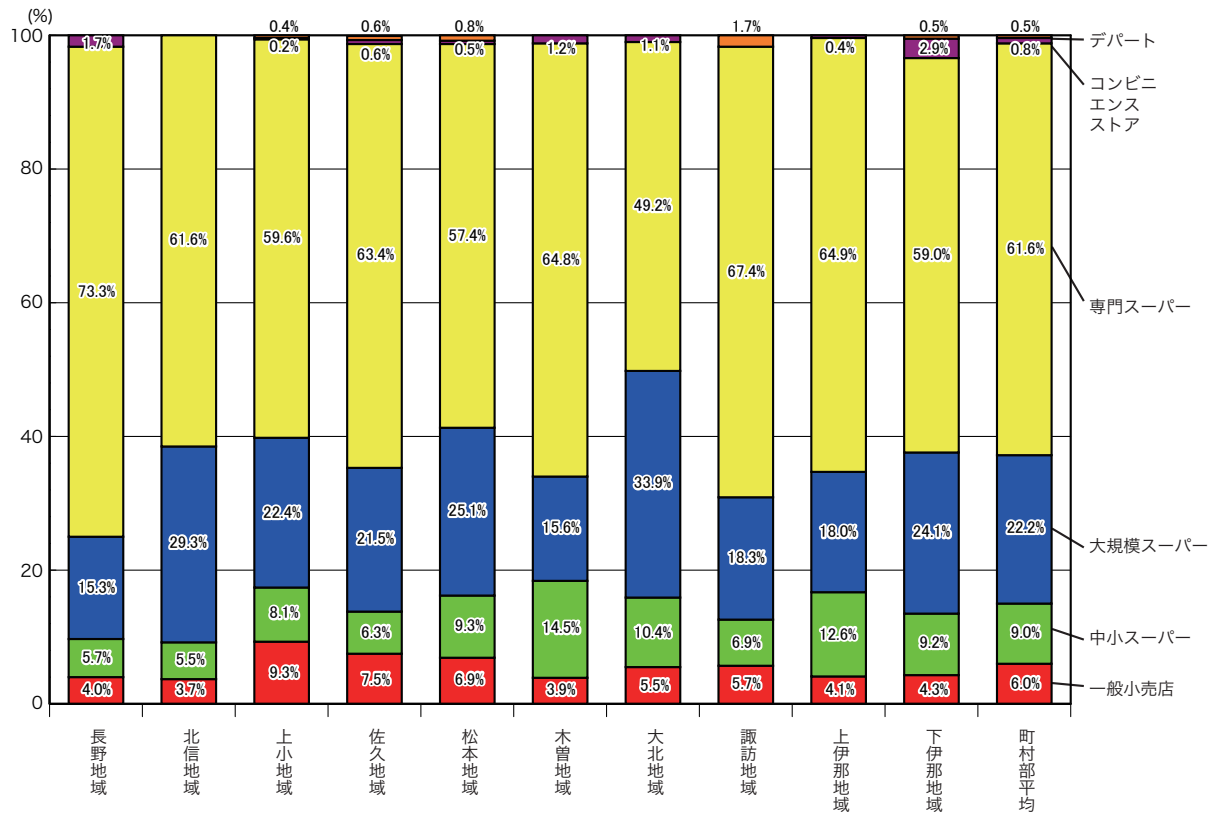
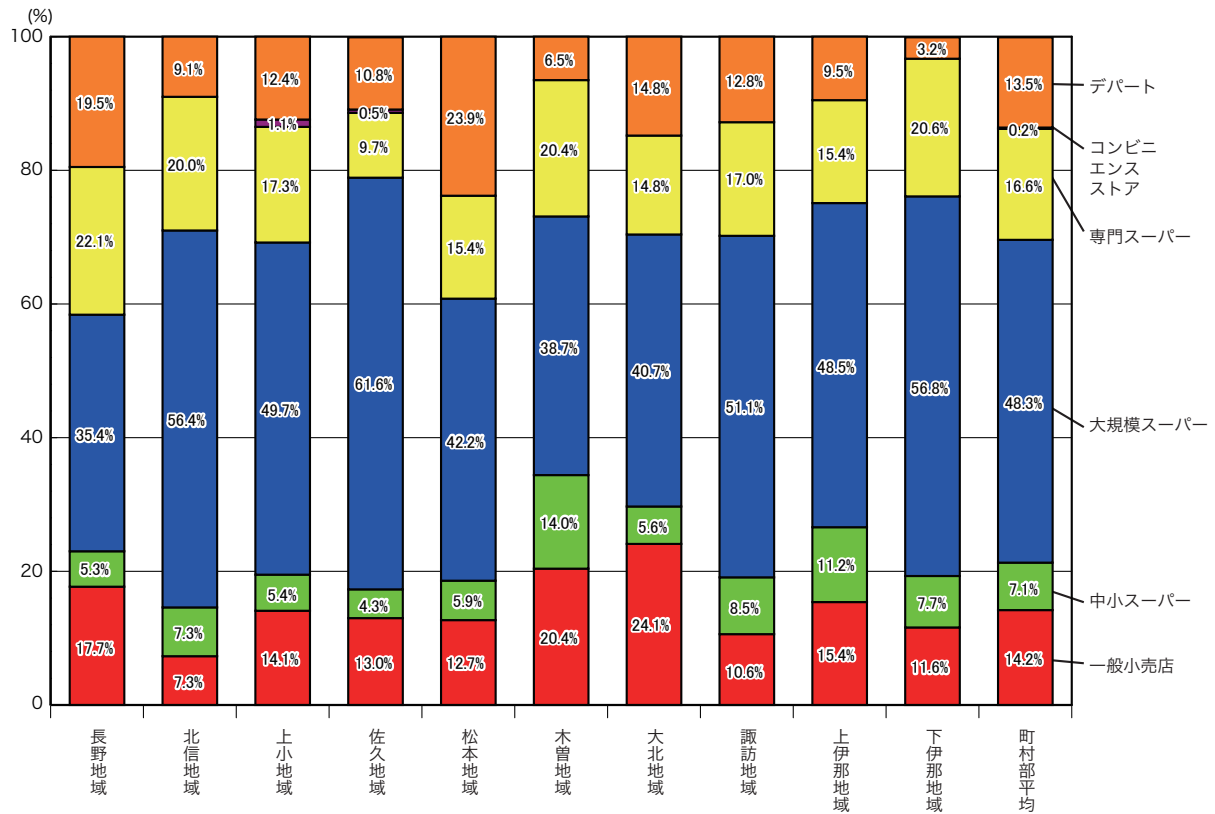


図 172 業態別利用店舗（町村部）《その他（贈答品）》



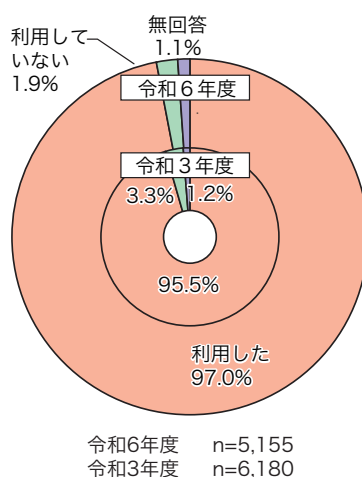
6 インターネットを利用した買物状況

過去1年間にインターネットを利用しての買物状況についてたずねた結果は、以下のとおりである。

(1) 過去1年間のインターネット（ホームページの閲覧、Eメールを含む）の利用について

回答者5,155人のうち、過去1年間にインターネットを「利用した」と回答した人は4,999人（97.0%）、「利用していない」は98人（1.9%）であり、インターネット利用者数が9割を超えている。前回調査と比べ、「利用した」と回答した割合が1.5ポイント増加しており、インターネット利用者のさらなる増加、定着がうかがえる。

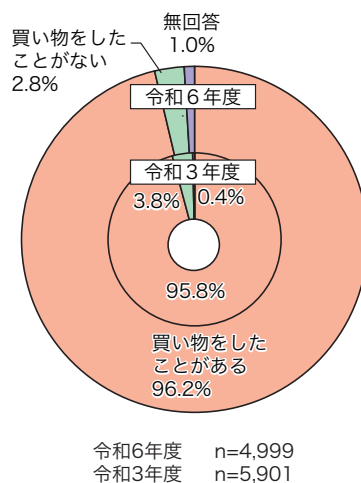
【過去1年間のインターネット利用状況】



(2) 過去1年間にインターネットを利用した買物について

過去1年間にインターネットを利用した人のうち、インターネットを利用して買物をした経験のある人は、4,811人（96.2%）と9割を超えている。前回調査と比べると0.4ポイント増加している。

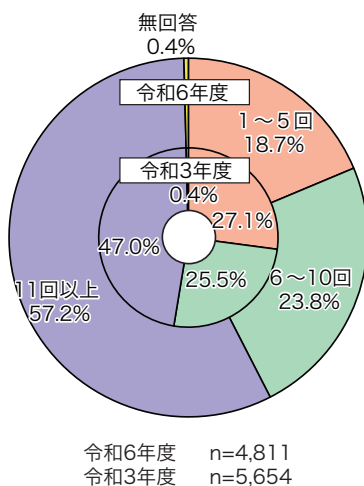
【過去1年間にインターネットを利用した買物の有無】



(3) インターネットを利用して買物をした回数について

過去1年間にインターネットを利用して買物をした人の利用回数は、「11回以上」(57.2%)が、前回調査と同様に最も多かった。その構成比を前回と比較すると、「1～5回」が8.4ポイント、「6～10回」は1.7ポイント減少した。一方、「11回以上」は10.2ポイント増加し、利用頻度が「11回以上」の割合が5割を超えた。

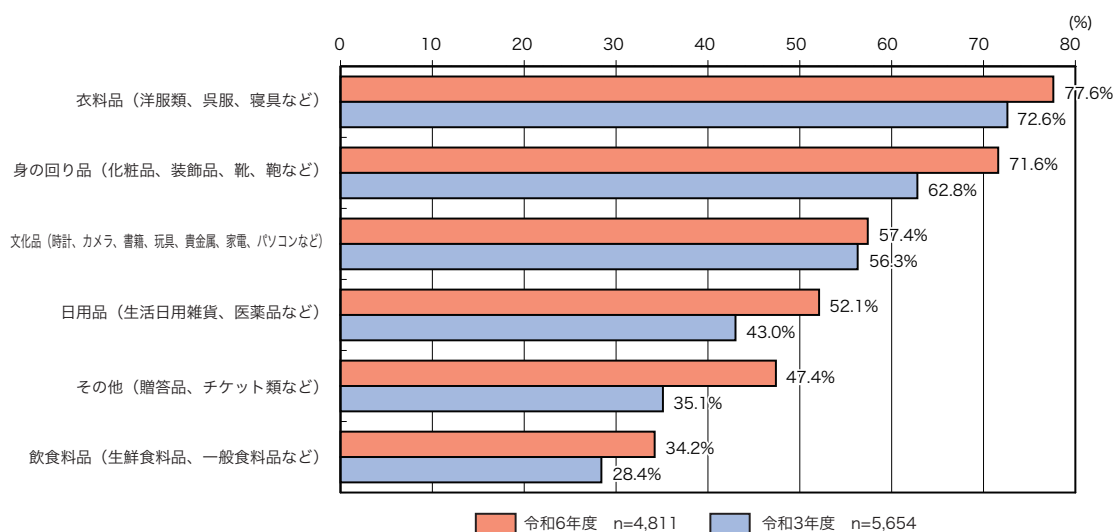
【過去1年間のインターネットを利用した買物の回数】



(4) インターネットを利用して購入した商品について (複数回答)

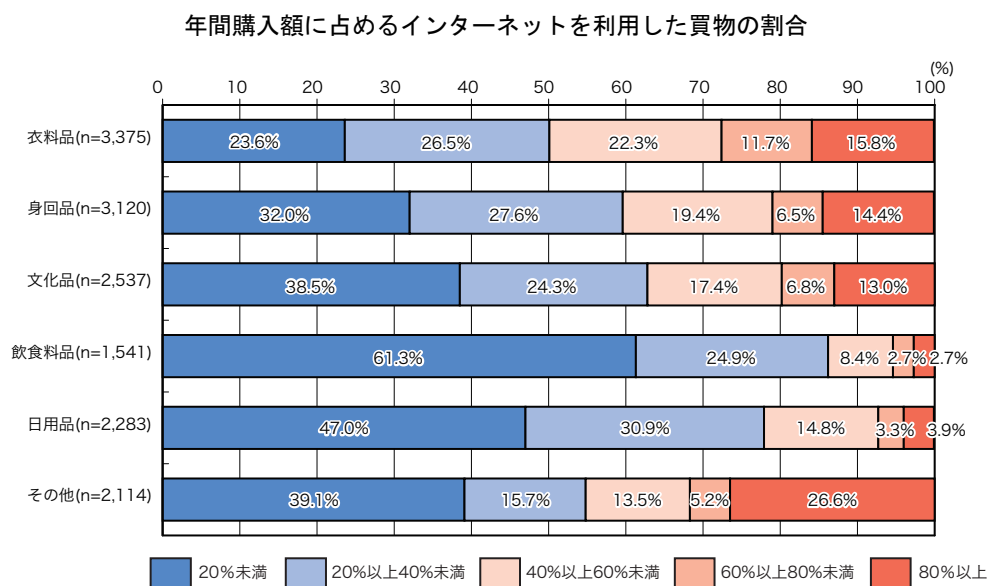
インターネットを利用して買物をした商品で最も多かったのは「衣料品」(77.6%)で、次に「身回り品」(71.6%)、「文化品」(57.4%)となった。前回調査と比較すると、いずれも回答割合が増加している。特に、「その他」12.3ポイント、「日用品」9.1ポイント増加している。

【インターネットを利用して購入した商品】(複数回答)



(5) 年間購入額に占めるインターネットを利用した買物の割合

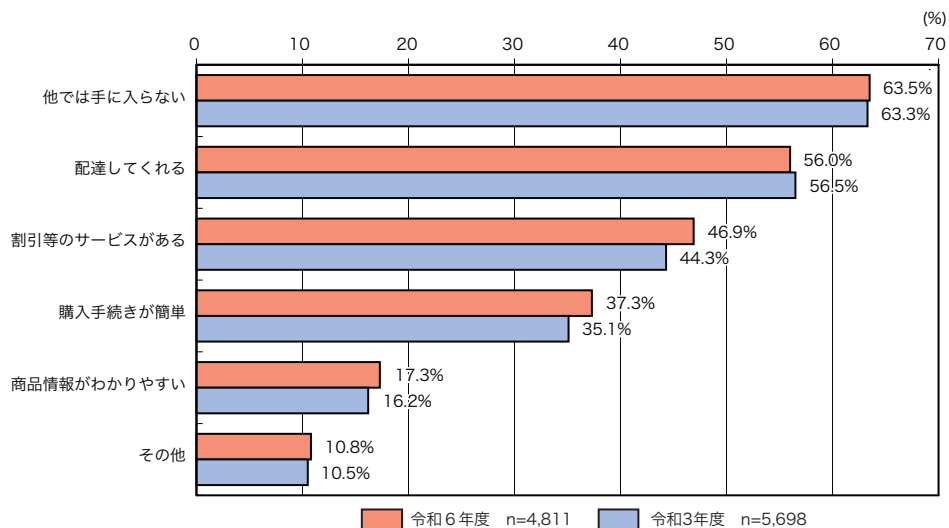
年間購入額に占めるインターネットを利用した買物の割合は、「衣料品」を除く品目で、「20%未満」という回答が最も多い。その一方で、40%未満という回答割合の合計が、「飲食料品」で約9割、「日用品」で約8割となり、「衣料品」、「その他」で5割台、「身回品」、「文化品」では約6割と、インターネットを利用した購入割合が高い傾向にある。特に、「その他」については、80%以上という回答割合の合計が約3割（26.6%）と、他の品目より高くなっている。



(6) インターネットを利用して買物をした（買物をしたい）理由について（複数回答）

インターネットを利用した買物意向がある人のうち、買物をした（買物をしたい）理由としては、「他では手に入らないから」（63.5%）が最も多く、6割を超えている。次に、「配達してくれるから」（56.0%）、「割引等のサービスがあるから」（46.9%）と続いている。地域では手に入れることができない商品を、接触無く購入できる魅力が、インターネットにあるとうかがえる。一方、「商品情報がわかりやすいから」（17.3%）は前回よりも1.1ポイント増加しているものの、商品情報については、まだ課題があると考えられる。

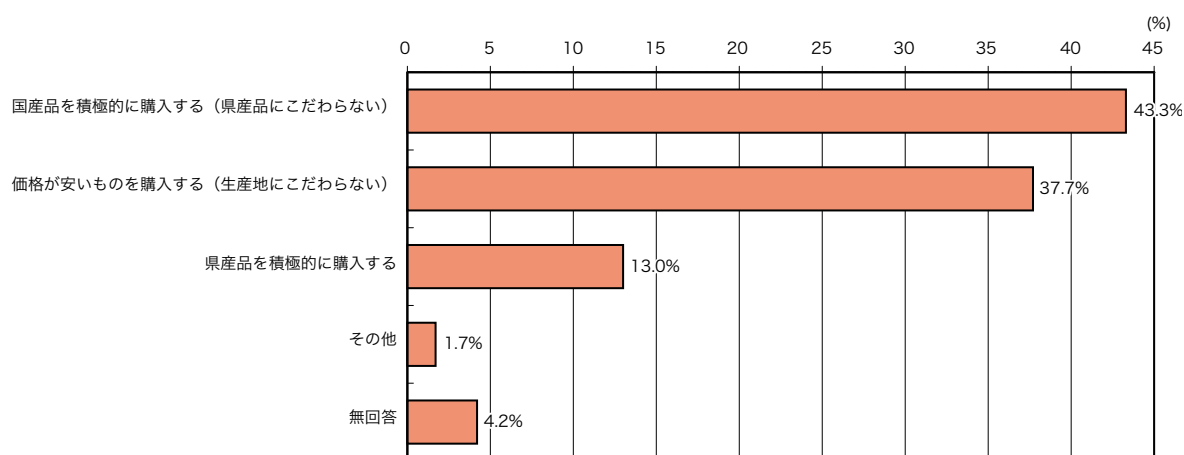
【買物をした（したい）理由】（複数回答）



7 県産品の購入状況について

(1) 県産品の購入状況

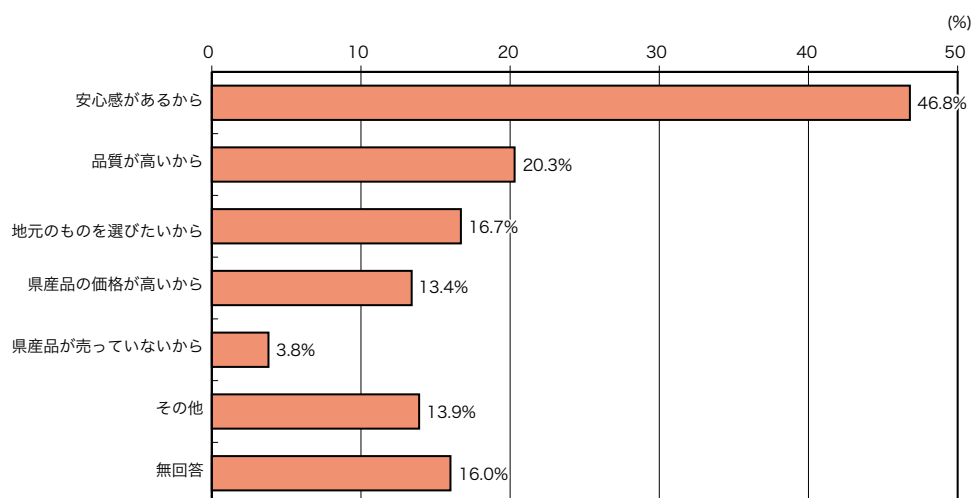
普段、買い物をする際、県産品を選んで購入するかどうかでみると、「国産品を積極的に購入する(県産品にこだわらない)」(43.3%)、「価格が安いものを購入する(生産地にこだわらない)」(37.7%)という回答が多く、約4割となる。一方、「県産品を積極的に購入する」(13.0%)は、1割程度になっている。



(2) 県産品の購入の理由 (複数回答)

普段、買い物をする際、県産品を選んで購入するかどうかの理由としては、「安心感があるから」(46.8%)という回答が最も多くなっている。次に、「品質が高いから」(20.3%)、「地元のものを選びたいから」(16.7%)と続いている。一方、「県産品の価格が高いから」(13.4%)が1割程度となっている。

消費者は、安心感と価格という2つの軸で購入を検討する傾向がある。安心感という軸で、国産のものを求めるが、県産品へのこだわりはみられない。また、「県産品が高いから」という理由が一定数あり、価格という軸での選択肢に当てはまらない可能性がある。



V 資 料

